

講義概要

I . 全学共通

全学融合科目

授業科目名	知の技法入門	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	西村 桂一 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	学問の追求の場である大学教育の導入として、学生が主体的かつ能動的に取り組む基盤づくりを目指す。学生の創造性を培うべく、全学科を越えた学びの機会を設置することで、各々の資格取得に励む学生たちの学問的・人間的交流を図り、自らの専門性を確立する土台を培い、少人数制教育を通して学問の基礎を学ぶことを目的とする。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション・教員紹介				西村 桂一
2	グループ間交流				小泉 政啓
3	チームワーク技法				高野 一夫
4	研究技法入門Ⅰ①（日本科学未来館での実習に向けて）				泉 秀幸
5	研究技法入門Ⅰ②（日本科学未来館）				久米 信好
6	研究技法入門Ⅰ③（日本科学未来館）				櫻井 敬晋
7	研究技法入門Ⅰ④（日本科学未来館）				笹木 正吾
8	研究技法入門Ⅰ⑤（日本科学未来館）				前田 樹海
9	研究技法入門Ⅰ⑥（日本科学未来館）				掛本 知里
10	救命救急法の概要				梶原 祥子
11	AED 操作法習得＋情報収集技法①（オンライン検索法）				河内しのぶ
12	情報収集技法②（図書館活用実習）				山下 雅子
13	鍼灸学入門（講義・実習）				中村 充浩
14	柔道整復学入門（講義・実習）				
15	看護学入門（講義・実習）				
16	学習技法入門①（レポート作成の基本）				
17	学習技法入門②（質疑応答技法）				
18	学長特別講演				
19	客観的思考法入門①				
20	客観的思考法入門②				
21	学習技法入門③（クリティーク技法）				
22	研究技法入門Ⅱ①（グループ研究発表に向けて）				
23	研究技法入門Ⅱ②（プレゼンテーション技法体験：東京国際展示場）				
24	研究技法入門Ⅱ③（プレゼンテーション技法体験：東京国際展示場）				
25	研究技法入門Ⅱ④（グループ研究課題に関する情報の調査収集）				
26	研究技法入門Ⅱ⑤（グループ研究課題に関する情報解析）				
27	研究技法入門Ⅱ⑥（グループ研究課題に関する結論及び考察）				
28	研究技法入門Ⅱ⑦（グループ研究課題に関するプレゼンテーション準備）				
29	研究技法入門Ⅱ⑧（グループ研究プレゼンテーション1）				
30	研究技法入門Ⅱ⑨（グループ研究プレゼンテーション2）				
教科書	特に指定しない				
参考書等	その都度提供する				
成績評価基準	授業への出席・発言内容・提出物などを通して、総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	1. 事前学習は必ず行うこと。 2. グループメンバー同士、互いに協力し合うこと。				

全学融合科目

授業科目名	人とのつながりの技法	開講時期	1 年次・通年	必修/選択/自由	必修 (全学科)
担当教員名	山下 雅子 他	授業形態	演習	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	思いやりの心を育みつつ、人と人との親和共栄・協力連携・理解発展をよりよく進展させる技法を身につけるための演習を行う。特に、社会・職業生活での対人コミュニケーションにおいて重要とされる、自己を覚知しようとする働きかけ、そして他者の様々な立場や思いを親身に理解しようとする働きかけ、この双方向の働きかけが積極的にできる心的態度の育成を目標とする。現実在即した説明、報告、面接、依頼、交渉などの演習を通じて、人と人との満たされた関係性のなかで育まれる至福感を体験させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	食育と健康 1				山下 雅子
2	食育と健康 2				小泉 政啓
3	スポーツ・コミュニケーション技法①-1				高野 一夫
4	スポーツ・コミュニケーション技法①-2				西村 桂一
5	スポーツ・コミュニケーション技法②-1				泉 秀幸
6	スポーツ・コミュニケーション技法②-2				高橋 康輝
7	スポーツ・コミュニケーション技法②-3				小山 浩司
8	スポーツ・コミュニケーション技法②-4				徳安 秀正
9	スポーツ・コミュニケーション技法②-5				島田 将夫
10	言語コミュニケーション技法①-1				山本かおる
11	言語コミュニケーション技法①-2				北島 泰子
12	(外部講師による授業)				高島有理子
13	言語コミュニケーション技法②-1				相田 京子
14	言語コミュニケーション技法②-2				
15	インタビュー技法①-1				
16	インタビュー技法①-2				
17	インタビュー技法②-1				
18	インタビュー技法②-2				
19	地域コミュニケーション技法①-1				
20	地域コミュニケーション技法①-2				
21	地域コミュニケーション技法②-1				
22	地域コミュニケーション技法②-2				
23	プレゼンテーション技法①-1				
24	プレゼンテーション技法①-2				
25	プレゼンテーション技法②-1				
26	プレゼンテーション技法②-2				
27	ロールプレイ①-1				
28	ロールプレイ①-2				
29	ロールプレイ②-1				
30	ロールプレイ②-2				
教科書	特に指定しない				
参考書等	その都度提供する				
成績評価基準	授業への出席・発言内容・提出物などを通して、総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	1. 事前学習や事後学習は、必要に応じて行うこと。 2. グループメンバーは互いに協力し合うこと。				

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	生き物の科学 (生物学)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	松山 善亮	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生物学の基本的事項を学習する。医学系の科目は生物学の知見を基礎としている部分が多く、生物学の基本的事項の理解は医学、医療全般を学習する上で重要である。特に基礎医学の内容と深く関わる事項について学習し、医学の理解の促進をはかる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	生物の多様性	地球上には多種多様な生物が存在する。それらの生物に共通している特徴や、多様な生物の体系的な分け方について解説する。生物の構成単位は細胞である。生物間で異なる細胞の特徴やその構造について解説する。細胞内に存在する細胞内小器官の機能や構造、その成り立ちについて解説する。体細胞は分裂により増殖する。また生殖細胞は分裂により生じる。これら細胞分裂のメカニズムについて解説する。個体は様々な機能を持つ細胞の集まりである。それら多様な組織が一つの細胞から生じてくる機構について解説する。動物は呼吸によって、植物は光合成によって生きるためのエネルギーを得ている。このような代謝の機構を解説する。子は親の形質を持つ。このような遺伝の機構、メンデルの法則について解説する。メンデルの法則によらない形質の遺伝が存在する。その例とメカニズムについて解説する。生物を構成する元素やそれらからなる分子、重要な役割を担っている高分子の構造について解説する。個体の設計図である DNA を修復、複製、維持する機構について解説。DNA はまず RNA に転写され、その後 RNA はタンパク質に翻訳される。その機構について解説する。動物は外部環境の刺激を受容し、それに対応した反応や行動を起こす。この機構について解説する。外部環境に対する動物の反応には、体内環境を一定に保つ機構が存在する。この恒常性の維持機構について解説する。生物誕生から40億年。生物は進化し続けてきた。進化が起こる理由、そのメカニズムについて解説する。定期試験および授業のまとめ			松山 善亮
2	細胞の構造				
3	細胞内小器官				
4	細胞分裂				
5	発生と分化				
6	代謝				
7	遺伝の法則 (1)				
8	遺伝の法則 (2)				
9	生体分子				
10	遺伝子の本体				
11	遺伝子の発現				
12	環境と動物の反応				
13	恒常性の維持				
14	適応と進化				
15	定期試験				
教科書	特になし				
参考書等	高校生物Ⅰ、Ⅱ				
成績評価基準	出席点と最終日の試験の結果				
受講上の 注意事項	教科書、参考書についての説明を一回目の授業時に行います。				

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	物質の反応 (化学)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本となる化学物質の変化を理解するための基礎となる、有機化学と無機化学について学習する。特に有機化学では核酸、タンパク質、脂肪酸など、生理学、生化学、臨床薬学などの学習に不可欠な生体分子の化学構造と性質を理解するために必要な基本的な知識を習得する。また、生体中では金属イオンが、種々の生化学・生理学反応に関わっているので、無機化学ではそれらの金属イオンの関る反応の基本について学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	物質の構成と構造：元素、原子				荒井裕一郎
2	物質の構成と構造：電子配置、分子				
3	物質の構成と構造：化学反応				
4	物質の構成と構造：電気陰性度、結合				
5	物質の状態：物質の三態				
6	物質の状態：気体の法則				
7	物質の状態：溶液				
8	酸-塩基				
9	酸化-還元				
10	有機化学				
11	有機化学				
12	有機化学				
13	無機化学				
14	無機化学				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『大学生のための基礎シリーズ3 化学入門』 下井 守、村田 滋 著（東京化学同人）				
参考書等					
成績評価基準	定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	物質の科学 (物理学)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	王 鳳英	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるような基礎を固めるために、物理学の基本的事項を学習する。主として物理学と生物学の接点のうちから比較的重要だと思われるものを取り上げ、具体的に運動の法則・仕事・エネルギー・粘性・弾性・圧力を重点とした力学、電気現象と生体での電気活動、熱力学の入門、光学の基礎と顕微鏡などの内容を設ける。又、授業を行う上で受講者の専門分野の特徴を配慮し、概念や原理、更に例題の解答をやさしいところから丁寧に解説していく。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	ガイダンス	物理学の概要と医療に活かされた物理学の事例を紹介し、本科目を学んでいく上で必要な最低限の数学の基礎知識を補習する。 主に国際単位系、科学的表記法、有効数字などを講義する。 位置ベクトル、変位、速度、加速度について学ぶ。 力および慣性の法則、運動方程式、作用・反作用の法則について説明する。 運動の法則を利用して、落体の運動や円運動、単振動などの具体的な運動形態を理解させる。 力のモーメント、テコの原理を利用した医療器具、人体中のテコなどを紹介する。 脊柱の受けた力や距骨の骨折しやすい原因などの例を挙げ、剛体の平衡状態の条件の人体における応用について話す。 仕事と仕事率、運動エネルギーとポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーと力学的エネルギー保存則などを概説する。 電荷とクーロンの法則、電界（電場）とその大きさ・方向、電位と電位差などを講義する。 電流、電源、電気抵抗、オームの法則について学ぶ。 人体の電気的特性と電気の医療への応用を紹介する。 光の反射と屈折、光の分散、レンズによる像などを紹介する。 人の眼の構造、近視・遠視・乱視の矯正、顕微鏡の原理などを理解させる。 熱力学の第一法則、基礎代謝測定の物理的原理、カロリーの計算について話す。 講師本人の研究を紹介する。			王 鳳英
2	単位と大きさの表し方				
3	物体の運動の記述				
4	運動の法則				
5	様々な具体的運動				
6	力のモーメントとその応用				
7	剛体の平衡状態の条件の人体における応用				
8	仕事とエネルギー				
9	電界（電場）				
10	電流と抵抗				
11	人体と電気				
12	医用光学基礎				
13	人の眼と医療用光学機器				
14	体の熱エネルギーとダイエット				
15	毫鍼・艾灸の物理化学的特性				
教科書	『看護と医療技術者のためのぶつり学』 横田俊昭（共立出版）2003				
参考書等	『新物理学入門』 大槻義彦（学術図書出版社）1999				
成績評価基準	出席とレポートにより、総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	分子遺伝学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	岩崎 秀雄	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、分子レベルでの遺伝現象の解明を通じ、医療や新薬の開発など人類の福祉や新しい生命科学等への応用が期待される分子遺伝学について、その基礎から最先端の研究動向までを講義、紹介する。また、一見単純に見える動植物の様々な振る舞いが、ゲノム間の複雑なネットワークを介した働きかけによってはじめて体现されることを、サーカディアンリズムの発現などの例を取り上げながら、わかりやすく講義する。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	法学 (日本国憲法)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本講義は、日本国憲法の基礎的理解と法令の機能の学習を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例及び実例を多用する。 具体的には、日本国憲法の意味、基本原理、基本的人権、統治機構等を始め、憲法全体を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割、国家の機能、国家と国民の関係及び法と国民生活の関わりを学習し、これらの習得を到達目標とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	我が国の法制度、法令の機能と必要性、憲法とは				河野 久
2	日本の憲法の歴史、日本国憲法の特色 (1) = 前文、憲法改正手続				
3	日本国憲法の特色 (2) = 国民主権主義、平和主義、基本的人権尊重主義				
4	基本的人権（総則）= 個人の尊重、幸福追求権、法の下での平等、公共の福祉				
5	基本的人権（精神的自由権）= 思想・良心、宗教、学問、表現、集会・結社、居住移転等				
6	基本的人権（経済的自由権）= 職業の選択、契約、労働基本権、住居の不可侵、通信の自由				
7	国務請求権= 裁判を受ける権利、国家賠償、刑事補償、生存権				
8	参政権 国民の義務= 納税及び教育、基本的人権の擁護				
9	天皇= 地位、皇位の継承、権能				
10	国会= 構成、権能、議院の権能、立法過程				
11	内閣= 行政権の意味、内閣総理大臣、閣僚、政府、権能				
12	裁判所= 司法権、組織、司法権の独立、判例				
13	財政= 財政立憲主義、予算制度				
14	地方自治= 地方自治の本旨、地方公共団体の権能と組織				
15	定期試験				
教科書	『憲法概観 有斐閣双書 第 6 版』 小嶋和司、大石 眞（有斐閣）2005年11月				
参考書等					
成績評価基準	試験による。ただし、出欠状況及び受講態度も評価する。				
受講上の 注意事項	必ず予習をすること。欠席したときは、理由を記載した文書を提出すること。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	哲学 (生命倫理学)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	早川 正祐	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケアに関するさまざまな人間学的・哲学的考察を踏まえ、ケアする／される者としての人間のあり方について多角的に見ていく。とりわけ、ケアを特徴づける重要な要素である「他者の受容（他者を受け容れること）」ということについて考えてみたい。ここでの受容は、他者を操作・統制するといった他者の優位に立つ態度とは異なる。しかし他方で、他者に従属・寄生するといった受動的な態度とも異なっている。そこで「受容」という要素をどう捉えるかが問題になる。こういった問題を考えた上で、生命倫理の問題にも触れていく。				
回	テ　　マ　　お　よ　び　内　　容				担当教員名
1	導入——ケアという言葉の広がり				早川 正祐
2	ケアの人間学 (1)				
3	ケアの人間学 (2)				
4	ケアの人間学 (3)				
5	ケアの倫理 (1)				
6	ケアの倫理 (2)				
7	ケアの倫理 (3)				
8	ケアと身体 (1)				
9	ケアと身体 (2)				
10	ナラティヴ・アプローチ (1)				
11	ナラティヴ・アプローチ (2)				
12	ケアから見た自己と他者 (1)				
13	ケアから見た自己と他者 (2)				
14	予備日				
15	まとめ				
教科書	特になし。プリント資料を配布する。				
参考書等	『ケアの本質』 ミルトン・メイヤロフ（田村真・向野宜之訳）（ゆみる出版）				
成績評価基準	出席率、リアクションペーパー、学期末のレポート（もしくは学期末試験）による。				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	心理学概論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択(全学科)
担当教員名	山下 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、情動・動機づけの仕組み、知能や人格などの個人差のあらわれ方、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス及びテスト				山下 雅子
2	心理学の研究法 1 研究法の基礎				
3	心理学の研究法 2 個人差の研究法				
4	行動の基礎 1 レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習				
5	行動の基礎 2 学習の成立過程				
6	認知の心理学 1 記憶の分類				
7	認知の心理学 2 記憶の機能				
8	認知の心理学 3 思考、日常認知				
9	知覚の心理学 感覚、知覚の基礎				
10	発達の心理学 1 発達の諸相				
11	発達の心理学 2 認知的発達				
12	社会の心理学 1 推論、リスクの心理学				
13	社会の心理学 2 個と個の心理学				
14	社会の心理学 3 状況の力、集団の心理学				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『心理学をつかむ Textbooks tukamu』 今井久登：平林秀美（有斐閣）2009				
参考書等	『あたりまえの心理学』 安齋順子：野村泰治（文化書房博文社）2007 『心理学 第3版』 鹿取廣人：杉本敏夫（東京出版出版会）2008 『行動の基礎：豊かな人間理解のために』 小野浩一（培風館）2005 なお、レポートのための参考書については授業内で指示する。				
成績評価基準	授業初回のテスト（10%）、定期試験（50%）、レポート（20%）、平常点(20%)を目安に総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	第1回の講義時に教科書指定範囲(予定では unit 3 及び unit25)のテストを行う。このテストは成績評価の対象となるため、あらかじめ十分な予習が必要である。初回テストについての詳細や変更は後学期開講前に掲示板等で告知する。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	社会保障の基礎	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修（看護） 選択（鍼・柔）
担当教員名	千葉 喜久也	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間

授業の目的 および 到達目標	少子高齢社会の中で、わが国の社会保障の体系と制度の内容について学習する。少子化の背景や子育て支援のあり方に注目し、児童手当から子ども手当に至るまでの経過について概説を行う。また高齢化の中で、注目される年金、医療、介護といった社会保障制度の機能と役割について学習する。当該科目では、保健医療福祉専門職の実践に必要な各制度のしくみを当該目的に照らし考察することを通じて、全体像から社会保障の基礎を学ぶ。少子化、高齢化に伴う給付の拡大、世代間の負担の公平性、健康づくり・予防の推進、給付の見直しと効率化、高齢者医療の見直し、介護サービスの市場化と質の向上、財源及び公費負担のあり方などの課題を探り、持続可能な社会保障の構築に向けた政策に関する理解を深める。				
----------------------	--	--	--	--	--

回	テ ー マ	内 容	担当教員名
1	社会保障の理念と体系	社会保障の理念と概念・歴史、社会保障制度の持続可能性、少子高齢化と社会保障給付費の増加、体系と各制度の概要等	千葉喜久也
2	介護保険制度 (1)	制度創設の経緯、制度改正の留意点、介護保険財政と保険料、介護給付と予防給付、食費・居住費の原則自己負担化等	
3	介護保険制度 (2)	介護予防への重点的な取組等、地域包括ケアの推進と新たなサービス体系、準市場化と質の向上、事業者規制等	
4	年金保険制度 (1)	制度の概要、高齢期の公的年金の位置付け、マクロ経済スライドの導入、将来の保険料水準の固定等	
5	年金保険制度 (2)	基礎年金の国庫負担割合の引上げ、厚生年金・国民年金の現状と課題、年金財政の現状と課題、年金資金の運用等	
6	医療保険制度 (1)	制度の体系と沿革、予防の重視と医療費適正化の総合的な推進、利用者負担・食費・居住費の一部自己負担化等	
7	医療保険制度 (2)	新たな医療保険制度の創設、療養病床の再編成、医療費の動向、医療提供体制、診療報酬制度、健康行政等	
8	少子化の背景と子育て支援	少子化の背景と要因について、ライフ・スタイルの多様化と非婚化、これまでの子育て支援対策と次世代育成等	
9	児童手当から子ども手当へ	児童手当から子ども手当への理念の転換、子育てと社会的養護、児童虐待の取り組み等	
10	生活保護	公的扶助の意義、生活保護制度の現状、根拠ある生活保護基準、公平・公正な運用、きめ細かな自立支援等	
11	社会福祉サービスと社会手当	高齢者福祉、障害者福祉と障害者自立支援法、児童福祉、児童手当等、少子化対策の課題、福祉の人材確保対策等	
12	社会保険と民間保険	社会保険の仕組み、民間保険の仕組みと種類・機能等	
13	社会保障の機能と財政	社会保障の機能、経済・財政とのバランス、厳しい財政状況下での制度の持続可能性等	
14	社会保障の現状と課題	社会保障給付の伸びの抑制、安全網としての水準確保、世代間の公平性の確保、社会保障の財源等	
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ	

教科書	最初の授業時に指示します。
参考書等	必要に応じて授業の中で指示します。
成績評価基準	定期試験（60％）、授業への参加（20％）、課題レポート（20％）を目安に、総合的に評価します。
受講上の注意事項	新聞、テレビなどで社会保障関係のニュースに注目し、幅広い知識の習得に努めることを期待する。これにより、授業の理解が一層深まるものと思われる。

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	人間形成論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	山下 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ヒトは、ひたすら無力な存在として生まれるが、一人の人間として現実の社会の中で生き、その跡としての文化を残す。このような主体である一人一人の人間はどのようにして形成され、変化してゆくのであろうか。動物としてのヒトの特徴の基礎の上に、発達してゆく存在として人間をとらえ、教育学や心理学、社会学の視点から、ヒトが人間になり、衰え死に至る過程を明らかにし、人間として生きる意味を多面的に分析・考察する。これにより、人間存在を能動的にとらえ、自覚的に自己形成できる専門職育成の基礎を養う。自分を含めひとりの人間がどのようにしてつくられ、変転してゆくのかの基本的なありようが把握でき、いくつかの側面からの分析が出来るようになることを目標とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス				山下 雅子
2	発達心理学の方法 研究法				
3	人間の発達の特徴 発達段階と発達課題				
4	遺伝と環境との相互作用 (1) 遺伝か環境か				
5	遺伝と環境との相互作用 (2) 相互作用とは				
6	乳児期の発達と生活 乳児の発達、愛着				
7	幼児期から児童期の認知的発達 (1) ピアジェの認知的発達理論 (1)				
8	幼児期から児童期の認知的発達 (2) ピアジェの認知的発達理論 (2)				
9	発達障害 発達障害とは				
10	青年期、成人期以降の発達と生活 (1) 青年期				
11	青年期、成人期以降の発達と生活 (2) 成人期以降				
12	エイジングにともなう認知的変化 (1) 知覚、注意のエイジング				
13	エイジングにともなう認知的変化 (2) 記憶のエイジング				
14	エイジングにともなう認知的変化 (3) 認知機能のエイジング				
15	社会性の発達 道徳的発達、家族関係の発達、社会的発達				
教科書	『やさしい発達心理学－乳児から青年までの発達プロセス』 都筑学 編（ナカニシヤ出版） 『図でわかる発達心理学』 新井邦二郎 編著（福村出版）				
参考書等	ガイダンス時、または開講前に掲示で指示する。				
成績評価基準	小テスト（10%）、定期試験（50%）、レポート（20%）、平常点（20%）を目安に総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	心理学的に基本的な事項についての初歩的な説明は行わないので、心理学概論などの心理学系科目を履修済みであることが望ましい。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	医療史	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、ヒポクラテスに始まる西洋医学の歴史について、特に医学史上重大なトピック（Vesarius による解剖学の体系化、W. Harvey による血液循環説の発見、Bernard によるホメオスタシスの提唱、H. Selye によるストレス学説の発見など）、および我が国に西洋医学が伝来し、受容されてきた過程（近世における蘭学の発展過程）などに焦点を絞りながら講述する。講義にあたっては、史実の羅列に終始するのではなく、「病のとらえ方」が時代によってどのように変遷したかを講義し、現代医学がどのような歴史的背景を持ち、今日まで人々の保健衛生に貢献してきたかを理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（医学史を学ぶ意義 人の身体をみるということ）				東郷 俊宏
2	人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から） 1				
3	人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から） 2				
4	西洋医学史（ヒポクラテスから中世まで）				
5	ルネッサンスとヴェサリウス（近代解剖学のあけぼの）				
6	ウィリアム・ハーヴェイと血液循環説				
7	ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説） 1				
8	ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説） 2				
9	近世医学史 1（大航海時代 アルメイダ）				
10	近世医学史 2（江戸初期 ケンペル）				
11	近世医学史 3（江戸中期 ツェンペリー）				
12	近世医学史 4（江戸後期 シーボルト）				
13	近代医学史 5（明治維新と近代的医療制度の確立）				
14	まとめ				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特になし				
参考書等	講義で随時指導する				
成績評価基準	出席状況・レポート（1～2 回）・定期試験を総合的に判定				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	ボランティア論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修（看護） 選択（鍼・柔）
担当教員名	天野 由以	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、特に、福祉関連団体、機関、施設等でのボランティア活動の現状と意義、目的等を学び、ボランティアのあり方を考える。講義からボランティア活動の現状や課題、ボランティアの意義や目的等を学ぶ。将来的に病院や診療所でボランティアを受け入れる側になることも視野に入れ、ボランティアコーディネートの実際についても学ぶ。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	オリエンテーション	本授業の目的や流れを理解する。次回の授業に向けて、今までのボランティア体験・これから希望するボランティアについてまとめる。			天野 由以
2	私たちのボランティア体験を語ろう	過去のボランティア体験をふまえ、自身のボランティア観を整理する。			
3	ボランティア・無償奉仕・ただ働き…何が違う？～ボランティアの歴史と現状①	ボランティアという言葉が現在の日本においてどのような意味合いを持っているのか、諸外国、日本のボランティアの歴史と現状を理解する。			
4	「ちょボラ」はボランティアなのか？～ボランティアの歴史と現状②	「ボランティア」と「あたりまえのこと」の境界線とは何か？諸外国、日本の文化・風習も視野に入れてボランティアの歴史と現状を理解する。			
5	ボランティア活動の範囲と目的①	文化・教育・学習ボランティアの現状と課題を理解する。			
6	ボランティア活動の範囲と目的②	保健・医療・福祉ボランティアの現状と課題を理解する。			
7	ボランティア活動の範囲と目的③	安全・災害ボランティアの現状と課題を理解する。			
8	ボランティア活動の範囲と目的④	国際交流ボランティアの現状と課題を理解する。			
9	「24時間テレビ」の役割	ボランティア活動と運営資金の関係性について考える。			
10	ボランティアコーディネーターの役割①	ボランティア活動の現場となる、病院・福祉施設におけるコーディネーターの役割を理解する			
11	ボランティアコーディネーターの役割②	社会福祉協議会の役割を理解し、ボランティアコーナーの意義について考える。			
12	高齢者ボランティアの話を聞く	多種多様なボランティアに活躍する高齢者ボランティアの方のお話を聞き、ボランティアする側の気持ちを理解する。			
13	子どもにとってのボランティア体験	福祉教育・体験学習としてのボランティア体験の意義とあり方について考える。			
14	ボランティア活動の今後の展望	NPO、NGO とボランティア活動			
15	レポート作成	講義・演習を通し、理解したこと、考えたことを基に、ボランティア観を整理する。			
教科書		特に指定なし			
参考書等		適宜資料を配布			
成績評価基準		出席（40点）　授業への貢献（20点）　授業内での発表（20点）　期末レポート（20点）			
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	健康の創造 (体育理論)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステムチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（健康の概念と健康の創造）				高橋 康輝
2	健康と安全管理				
3	健康な生活を送るために（生活習慣病予防の観点から）				
4	健康な生活を送るために（メンタルヘルスの観点から）				
5	健康な人に健康を伝える難しさ（行動変容）				
6	誰でも楽しめるスポーツレクリエーション				
7	誰でもわかる運動生理学（エネルギー供給、筋肉の科学）				
8	美しいボディーコントロール（動き・姿勢の科学、体形維持の理論）				
9	運動を学習するということのメカニズム				
10	子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ				
11	高齢者および障害者福祉政策の概念				
12	体力維持と生涯スポーツ				
13	マネジメントの概念（ヘルスマネジメント、スポーツマネジメント）				
14	健康指導のための情報収集とデータ活用法				
15	定期試験および授業のまとめ				
教 科 書	資料を配布するので、特に必要としない。				
参考書等	資料を配布するので、特に必要としない。				
成績評価基準	出席日数、受講態度、課題、試験の成績で総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	(1) 演習科目のため、出席は重要である。 (2) 場合によっては、運動着や運動靴が必要となる時があるが、必要な時には事前に連絡する。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	健康スポーツ (体育実技)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修（鍼灸） 選択（柔整・看護）
担当教員名	徳安 秀正	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1 年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス（授業内容、目的、評価内容）				徳安 秀正
2	体操・ストレッチング				
3	健康運動としてのジョギング・ウォーキング				
4	ウォーキングの特性と指導方法				
5	ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果				
6	ジョギングの特性と指導方法				
7	ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②				
8	レクリエーションスポーツ				
9	球技（基礎知識と技能練習）				
10	球技（運動ゲーム）				
11	球技（基礎知識と技能練習）				
12	球技（運動ゲーム）				
13	球技（基礎知識と技能練習）				
14	レクリエーションスポーツ（運動ゲーム）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特になし				
参考書等	特になし				
成績評価基準	定期試験のほか、出席状況及び授業態度を総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	・屋外、屋内の専用シューズを用意すること ・運動できる体育着に着替えること ・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修（鍼灸） 選択（柔整・看護）
担当教員名	島田 将夫	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検や TOEIC などに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練には ICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する			島田 将夫
2	音読の技法 （予備訓練1）	英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する			
3	音読サイト・トランスレー ションの技法（予備訓練2）	英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレー ションの技法を援用した音読訓練方法を体得する			
4	リテンションの技法 （予備訓練3）	英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成） の技法を援用した音読訓練方法を体得する			
5	人間・生活	人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～ 15）を題材とした包括的な音読訓練			
6	社会問題	社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20） を題材とした包括的な音読訓練			
7	政治・社会	政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～ 25）を題材とした包括的な音読訓練			
8	経済・社会	経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～ 30）を題材とした包括的な音読訓練			
9	教育	教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を 題材とした包括的な音読訓練			
10	医療	医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を 題材とした包括的な音読訓練			
11	歴史・文化	歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～ 45）を題材とした包括的な音読訓練			
12	科学・技術	科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～ 50）を題材とした包括的な音読訓練			
13	環境問題	環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55） を題材とした包括的な音読訓練			
14	国際問題	国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60） を題材とした包括的な音読訓練			
15	まとめ（試験）	英語文章（課題1～60）の訓練成果の総合発表			
教科書	1.『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語（新版）』 中村清、他（医道の日本社）2004 ＜鍼灸学科・柔道整復学科＞ 2.『看護英会話入門』 植木武（医学書院）2004＜看護学科＞ 3.『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール：薄井坦子（現代社）2001＜看護学科＞				
参考書等	1.『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 2.『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 3.『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	島田 将夫	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検や TOEIC などが高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練には ICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する			島田 将夫
2	レシテーションの技法 (予備訓練1)	英語文章（課題1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する			
3	シャドーイングの技法 (予備訓練2)	英語文章（課題1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する			
4	リピーティングの技法 (予備訓練3)	英語文章（課題1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する			
5	人間・生活（1）	人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練			
6	人間・生活（2）	人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練			
7	社会問題	社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練			
8	政治・経済	政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練			
9	教育・医療	教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練			
10	歴史・文化	歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練			
11	科学・技術	科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練			
12	環境問題	環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練			
13	国際問題	国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練			
14	情報・技術	情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練			
15	まとめ（試験）	英語文章（課題1～60）の訓練成果の総合発表			
教科書	1.『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語（新版）』 中村清、他（医道の日本社）2004 ＜鍼灸学科・柔道整復学科＞ 2.『看護英会話入門』 植木武（医学書院）2004〈看護学科〉 3.『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール：薄井坦子（現代社）2001〈看護学科〉				
参考書等	1.『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 2.『キクタンリーディング【Super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 3.『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語コミュニケーション (英会話)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	島田 将夫 他	授業形態	演習（共同）	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	言語コミュニケーションと訓練			島田 将夫
2	音声	音声器官・発話のしくみ			
3	音素 (1)	母音・二重母音と調音、弱母音			
4	音素 (2)	子音と調音、子音連鎖			
5	音節	音節と強勢			
6	音の現象	音の消失、同化、脱落			
7	韻律 (1)	リズムとビートとスピード			
8	韻律 (2)	強形と弱形			
9	韻律 (3)	音程、エネルギー、エモーション			
10	追い読み (1)	アナウンス、スピーチ			
11	追い読み (2)	歌、詩			
12	リスニング (1)	メモ取り、ディクテーション			
13	リスニング (2)	オーストラリア、インド、シンガポール、他			
14	スピーチ	ショート・スピーチ、ミニ・ディベート			
15	まとめ（試験）	訓練成果の総合発表			
教科書	1.『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語（新版）』 中村清、他（医道の日本社）2004 ＜鍼灸学科・柔道整復学科＞ 2.『看護英会話入門』 植木武（医学書院）2004（看護学科）				
参考書等	1.『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 2.『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 3.『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007 4.『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著（大修館書店）2005				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語コミュニケーション (英会話)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	John Pak 他	授業形態	演習（共同）	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	Getting Acquainted	introducing someone / family / likes, preferences, favorite things / names and nicknames			John Pak
2	Experiences	talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories			
3	Sport & Leisure	talking about sport and leisure activities / sport rules			
4	Shopping & Money	asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers /money and time			
5	Food	talking about food / describing Japanese food / Hawaiian food			
6	Travel	talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages			
7	Movies & Television	talking about movies / describing what a movie is about / talking about television			
8	Work	talking about part-time jobs/career plans /interviewing for a job / good and bad points of occupations			
9	Health	talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds			
10	Love & Marriage	talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions			
11	Music & Books	talking about music and books / talking about your favorite music artist			
12	Culture & Places in Japan	talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures			
13	World Problems	talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems			
14	Review	careful and overall review of important points			
15	Final Exam	students' chance to demonstrate what they learned			
教科書	『Let's Chat!』 John Pak 著 (EFL Press)				
参考書等	授業にて紹介いたします。				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	中国語Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	弘兼 加奈子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェットをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。				
回	テ　　ー　　マ　　　お　よ　び　　　内　　　容				担当教員名
1	簡体字、ピンインについての説明。中国語の声調と母音について。				弘兼加奈子
2	複母音、子音について。				
3	軽声、声調変化、r 化。				
4	挨拶の文。発音の復習。				
5	判断を表す動詞。人称代名詞。				
6	“ma” を使った疑問文。“也” “都” を使った文。				
7	形容詞述語文。疑問詞 (1) (shei, shenme, na)				
8	中間試験。“的” の用法。				
9	反復疑問文。選択疑問文。				
10	疑問詞 (2) (ji, duoshao)				
11	助数詞。				
12	時間、時刻の表し方。				
13	存在を表す文。				
14	年月日、曜日の表し方。				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『始めよう！中国語』 南雲 智 他（白水社）				
参考書等					
成績評価基準	中間試験と定期試験の成績、及び教場での平常評価により総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	中国語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	弘兼 加奈子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。「中国語Ⅰ」の成果を継承し、基本的な文法やより実践的な会話の習得を目標とする。発音の練習、基本的なパターン練習を通して、基礎的な文法に対する理解を深め、また初歩的な会話から発展させ、日常生活に必要な実践的な会話ができるように、ヒアリング、書き取り、及び応用的な会話練習などを取り入れ、反復練習を行う。また本学が医療系大学であることを配慮し、中国語の医療用語、および中国語で配信されるインターネット情報のアクセス法についても、わかりやすく講義する。				
回	テ　　ー　　マ　　　　お　　よ　　び　　　　内　　　　容				担当教員名
1	疑問詞 (3) (nar, zenme)				弘兼加奈子
2	前置詞。				
3	完了の表現。				
4	文末の“了”。				
5	進行、持続の表現。				
6	経験を表す表現。				
7	動詞を重ねる構文。				
8	中間試験。動詞を並べる構文。				
9	助動詞 (1)「～したい」の表現。				
10	助動詞 (2)「～できる」の表現。				
11	補語 (1) 程度や状態を表す表現。				
12	補語 (2) 結果を表す表現。				
13	比較の表現。				
14	復習。				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『始めよう！中国語』 南雲 智 他（白水社）				
参考書等					
成績評価基準	中間試験と定期試験の成績、及び教場での平常評価により総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位を修得済みであること				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	韓国語Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	白 銀實	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。本講座は韓国語に初めて接する入門者のための韓国語講座である。ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な韓国語の文法を習得した上で、簡単な日常会話ができることを目的とする。単なる言葉の習得だけではなく、韓国文化の紹介をまじえて、韓国・韓国語の理解を深めていく。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス				白 銀實
2	ハングルとは	ハングル五十音表を覚える			
3	激音に慣れる	韓国文化紹介（食べ物）			
4	パッチムに慣れる	韓国文化紹介（食べ物）			
5	母音 1	あいさつ			
6	母音 2	自己紹介（短文）			
7	母音 3	あいさつ			
8	母音 4	あいさつ	韓国文化紹介（衣服）		
9	母音 5, 6	自己紹介（長文）			
10	子音 1, 2	助詞	韓国文化紹介		
11	子音 3	濃音			
12	疑問文	韓国文化紹介			
13	疑問文	韓国文化紹介			
14	疑問文				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『つたえる韓国語：読む・聞く・話すハングル 入門編』 増田忠幸（三修社）2007				
参考書等	『日本語便利辞典』（小学館）2004、『朝鮮語辞典』（小学館）1993				
成績評価基準	出席20%＋平常点30%＋試験50% 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席は成績評価の対象としない。				
受講上の 注意事項	言葉を習得する上で、必ず復習することが望ましい。「韓国語Ⅱ」を履修するためには「韓国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	韓国語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	白 銀實	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。最近韓流の波に乗って、韓国および韓国語に興味を抱いている日本人も多く見受けられるようになったが、本講座は単なる興味だけで飛びつくのではなく、しっかり韓国語の文法を理解し、韓国語の読む力、つまり、読解力を高めていくことを目標とする。また言語背景となる文化的な事柄にも触れ、より効果的な言語習得のための工夫を凝らしていく。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス				白 銀實
2	疑問文・平叙文	韓国文化紹介			
3	疑問文・意志形	韓国文化紹介			
4	疑問文・否定文				
5	漢数字をおぼえる	韓国文化紹介			
6	過去形				
7	固有数詞をおぼえる	韓国文化紹介			
8	日常会話の文型				
9	命令形・尊敬形	韓国文化紹介			
10	形容詞				
11	尊敬形	韓国文化紹介			
12	文型				
13	文型	韓国文化紹介			
14	文型				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『つたえる韓国語：読む・聞く・話すハングル 入門編』 増田忠幸（三修社）2007				
参考書等	『日本語便利辞典』（小学館）2004、『朝鮮語辞典』（小学館）1993				
成績評価基準	出席20%＋平常点30%＋試験50% 授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。				
受講上の 注意事項	韓国語Ⅰの履修者のみ受講すること。必ず復習することが望ましい。				

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	情報リテラシー I	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	細井 良三 他	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション（サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサ、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション）の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	情報とコミュニケーション・個人情報保護				細井 良三 前田 樹海
2	コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成				
3	ワードプロセッサ（WORD）：基本操作－ 1（文字列の検索・置換・移動・コピー）				
4	ワードプロセッサ（WORD）：基本操作－ 2（罫線・図形・写真）				
5	ワードプロセッサ（WORD）：文書ファイルの管理・例題文章作成				
6	インターネット：ブラウザ・メール・サーチエンジン・医療情報検索				
7	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－ 1（データ入力・計算式・関数）				
8	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－ 2（表の編集・図形・写真）				
9	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－ 3（グラフ・グラフの編集）				
10	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－ 4（データベース・分析ツール・応用）				
11	スプレッドシート（EXCEL）：例題データ分析・分析結果レポート作成（WORD 使用）				
12	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－ 1（スライド画面・文字入力）				
13	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－ 2（表・図形・写真・動画）				
14	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－ 3（スライド表示の技法）				
15	試験および授業のまとめ				
教科書	『医療・福祉系のための情報リテラシー：Windows Vista・Office 2007』 樺澤一之・寺島和浩（共立出版社）2009				
参考書等	『かんたん Word 2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008 『かんたん Excel 2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008 『かんたん PowerPoint 2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008				
成績評価基準	成績評価は、最終授業で実施するスプレッドシートを使用してのデータ分析・レポートの作成、または、そのプレゼンテーションスライドの作成のいずれか一つをもって評価する。				
受講上の 注意事項	医療の専門職として、入力・分析・表示の正確性を最重要視する。したがってブラインドタッチ等の入力速度を涵養する技能の演習は行わない。				

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	情報リテラシーⅡ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	前田 樹海 他	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	情報リテラシーⅠで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション／情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」 演習：学内情報基盤の習得(1) 電子メールの送受信にかかわる Tips				前田 樹海 細井 良三
2	インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」 演習：学内情報基盤の習得(2) ネット検索の資源あれこれ				
3	電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」 演習：学内情報基盤の習得(3) 「連絡先」の使用法				
4	WWW の仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」 演習：学内情報基盤の習得(4) 「サイト」の作成				
5	情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」 演習：学内情報基盤の習得(5) 「アンケートフォーム」の作成				
6	ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」 演習：学内情報基盤の習得(6) 「ドキュメント」の共有				
7	情報セキュリティ「情報資産をどう守る」 演習：学内情報基盤の習得(7) 「プレゼンテーション」の作成				
8	コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」 演習：学内情報基盤の習得(8) 「テキストチャット」				
9	個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」 演習：学内情報基盤の習得(9) 「マルチメディアコミュニケーション」				
10	知的財産権の話「All rights reserved とは」 演習：情報の可視化と表現(1) 「TAU の魅力を伝えるサイト」の作成オリエンテーション				
11	情報の可視化と表現(2) 「TAU の魅力を伝えるサイト」作成				
12	情報の可視化と表現(3) 「TAU の魅力を伝えるサイト」作成				
13	情報の可視化と表現(4) 「TAU の魅力を伝えるサイト」完成および発表				
14	プログラミングの初歩(1) (情報センター)				
15	プログラミングの初歩(2) (情報センター)				
教科書					
参考書等		『エッセンシャル看護情報学』 太田勝正、前田樹海編著（医歯薬出版）2006 『キーワードで理解する最新情報リテラシー第2版』 日経 BP ソフトプレス：辰巳丈夫（日経 BP ソフトプレス）2008 その他講義の中で紹介する。			
成績評価基準		各回終了時に小テストを実施する。評価は小テストおよび課題への取り組みにより行なう。			
受講上の 注意事項		教科書は特に定めない。参考文献等については適宜紹介する。			

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	研究の基礎	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修（柔整・看護） 選択（鍼灸）
担当教員名	前田 樹海	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケア実践の基盤となるエビデンスを適切に生成、活用、流通する手段として研究を位置づけた上で、研究を行なうのに必要な論理的思考および論理的な文章作成のトレーニングを交えながら、研究倫理、クリティーク、基本的な研究デザインについて理解を深めることを通じて、学習者が教員からアドバイスを得ながら研究計画書を作成できることを当該科目の学習目標とする。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	研究とは (1)	オリエンテーション			前田 樹海
2	研究とは (2)	研究の流れとバリエーション			
3	研究とは (3)	問いの種類／問いの立て方			
4	文献検索と文献講読 (1)	医中誌 WEB による検索			
5	文献検索と文献講読 (2)	論文の構成／クリティーク			
6	文献検索と文献講読 (3)	APA スタイルによる引用の方法			
7	研究方法概論 (1)	研究目的に応じた研究方法の選択			
8	研究方法概論 (2)	理論構築と理論検証			
9	研究方法概論 (3)	研究における倫理的配慮			
10	研究方法各論 (1)	標本抽出法			
11	研究方法各論 (2)	量的研究デザイン			
12	研究方法各論 (3)	質的研究デザイン			
13	研究計画の作成と発表 (1)	グループワーク			
14	研究計画の作成と発表 (2)	グループワーク			
15	研究計画の作成と発表 (3)	研究計画発表会			
教科書	『論文作成マニュアル』 江藤裕之、前田樹海、田中建彦（2004）／APA（2001）APA（医学書院）東京				
参考書等	American Psychological Association（2009）. Publication Manual of the American Psychological Association 6 th ed. American Psychological Association, Washington, D.C.				
成績評価基準	小テスト（50％） および課題（50％）				
受講上の 注意事項					

Ⅱ．保健医療学部

1.

鍼灸学科

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	医学概論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命現象の成り立ちや生命の尊厳、健康概念の成立および医学の目的・使命、医哲学、医療システム、医学と社会との関係等について学習する。加えて現代の医学、医療システムが抱える様々な問題点を取り上げ、将来の医学・医療において医療従事者に求められているのは何かを主体的に考える能力を涵養する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション				林 洋 東郷 俊宏
2	世界の医学 1 （ギリシャ医学・アラビア医学）				
3	世界の医学 2 （中国医学・インド医学）				
4	近代医学の成立 1 （ルネッサンスと科学革命）				
5	近代医学の成立 2 （病理学：ウィルヒョウとコッホ）				
6	近代医学の成立 3 （ホメオスタシス：ベルナールとキャノン）				
7	近代医学の成立 4 （神経科学の誕生：ラモニ・カハール）				
8	現代日本の医療 1 （医療と社会）				
9	現代日本の医療 2 （医療従事者と医療・福祉施設）				
10	現代日本の医療 3 （医療経済）				
11	現代日本の医療 4 （医療保険と介護サービス）				
12	健康概念について（日本における健康概念の系譜・健康の定義）				
13	身体へのまなざし（三木成夫の世界から）				
14	医療の倫理（ヒポクラテスの誓い、Informed Consent、Paternalism、医療における「物語（Narrative）」の意味）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	なし				
参考書等	『医療概論』（医歯薬出版）1991 『新医学概論』（産業図書）2003 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）2009 『健康の日本史』（平凡社新書）2000				
成績評価基準	レポート（中間） 筆記試験（期末）				
受講上の 注意事項	なし				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	関係法規	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、法律の基本的事項および鍼灸業務に関わりの深い関係法規について学習する。具体的には、医師法、医療法、薬事法、その他の医療従事者に関する法規等について、それぞれの特徴と基本的内容、およびはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師に関する法律の詳細について学習する。加えて、様々な事例や判例を紹介し、より理解を深められるようにする。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	総論 (1) イントロダクション・様々な倫理綱領について				林 洋 東郷 俊宏
2	総論 (2) Informed consent・守秘義務について				
3	各論 (1) 医療過誤・薬害について				
4	各論 (2) 臨床研究実施上の倫理問題について (1)				
5	各論 (3) 臨床研究実施上の倫理問題について (2)				
6	各論 (4) 臨床研究実施上の倫理問題について (3)				
7	各論 (5) ハンセン病患者隔離の歴史 (1)				
8	各論 (6) ハンセン病患者隔離の歴史 (2)				
9	各論 (7) タスキーギ研究				
10	各論 (8) 生殖医療の現在				
11	各論 (9) 臓器移植について				
12	各論 (10) 再生医療、遺伝子治療、出生前診断				
13	各論 (11) 終末期医療と倫理（尊厳死など）				
14	各論 (12) 鍼灸師・柔道整復師としての倫理				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	講義で随時指定する。				
成績評価基準	出席状況、レポート（2 回ほど）、定期試験の結果を総合的に判断する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	東洋医学の歴史と思想	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、まず、東アジア（中国、日本、朝鮮半島）における東洋医学の理論、概念の歴史的変遷を主要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『東醫宝鑑』、『啓迪集』など）をとりあげながら概観する。そして中国に起源を有する伝統医学が、それぞれの国における社会制度や文化状況に応じて、どのように独自の展開をして今日の中医学、韓医学、漢方医学に至っているかを理解する。また昨今の鍼灸医療の国際化に鑑み、欧米への鍼灸医療の普及の歴史、およびこれらの国での東洋医学の受容状況についても講義する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（東洋医学の世界観）				東郷 俊宏
2	古代中国における医学（経脈説の成立）				
3	中国医学書の世界 1（古代：『黄帝内経』『難経』『傷寒論』）				
4	中国医学書の世界 2（隋唐期：『千金方』『外台秘要方』）				
5	中国医学書の世界 3（宋～明代） 朝鮮半島における医学				
6	近世日本の伝統医学 1（中国医学書の流入と受容）				
7	近世日本の伝統医学 2（鍼灸流派の成立と展開）				
8	近世日本の伝統医学 3（古方派・後世方派、養生について）				
9	近代日本における伝統医学 1（明治期～戦後における医療制度の変遷と伝統医学）				
10	近代日本における伝統医学 2（脚気論争）				
11	近代日本における伝統医学 3（西洋医学の流入と伝統医学）				
12	近現代中国における伝統医学（中医学の成立と発展）				
13	欧米における東洋医学の普及				
14	本草書の系譜・総括				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	指定しない				
参考書等	『あじあぶつくす 漢方の歴史—中国・日本の伝統医学』 小曾戸洋（大修館書店）1999 『岩波新書 鍼灸の挑戦—自然治癒力を目指す』 松田博公（岩波書店）2005				
成績評価基準	定期試験・レポート（1～2回）・出席状況を総合的に判定する				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	社会鍼灸学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	藤井 亮輔	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸と地域社会とのかかわりについての基本的な視点を学習する。具体的には、疾病構造の変化や急速な社会の高齢化を背景とした医療を取り巻く諸問題、鍼灸療法を含めた新たな社会医療システムの必要性などを理解する基礎として、社会保障制度、医療保障システム（一元的医療と多元的医療）の概要、西洋医学と伝統医療、患者の捉え方、病気の意味論等を学習した上で、社会科学の観点から、鍼灸医療の業態と市場規模、医療保険、介護領域における鍼灸療法の役割と展望等について学習・討論し、現代社会が求める鍼灸師の基本的資質を養う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	鍼灸療法と地域社会	現代の地域社会が期待する鍼灸師や鍼灸療法の在り方とは何かを考え学習する。			藤井 亮輔
2	高齢化社会の現状と課題	少子高齢化社会の実相を概観した上で、介護や医療を取り巻く現状と課題を学習する。			
3	疾病構造の変化と病気の意味論	超高齢社会等を背景とした疾病構造の変遷を概観し、病気や病者になることの社会的意味を考える			
4	社会保障制度の概要	社会保障の理念や変遷を解説した上で、社会保険制度、社会保障制度改革の動向等を学習する			
5	医療保障制度の概要	公的医療保険制度、公費負担医療制度の概要を学習する。			
6	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と利用システムについて学習する。			
7	医療保険と鍼灸Ⅰ	療養担当規則、療養費制度の概要を解説した上で医療保険における鍼灸の位置的関係を解説する。			
8	医療保険と鍼灸Ⅱ	医療保険を活用した鍼灸経営の実践例や介護保険制度との関わりについて学習する。			
9	ディスカッションⅠ	鍼灸師になろうとした動機、今後の進路希望等に関するアンケート結果（調査票を事前に配布）を踏まえ、鍼灸師としての期待や夢を語り合う。			
10	病院・診療所と鍼灸	各種の調査や資料等を紹介し、病院・診療所における鍼灸療法の現状を理解し課題を考える。			
11	開業・治療院と鍼灸	衛生統計や各種調査から鍼灸治療院や開業鍼灸師の現状を理解し今後の展望と業の課題を考える。			
12	国民の目から見た鍼灸	国民を対象にした鍼灸に関する各種調査結果を解説し市民の視点から鍼灸の課題や未来を考える。			
13	教育と鍼灸	鍼灸学校の学生を対象にした調査結果等から、鍼灸師養成教育の課題と在り方考える。			
14	ディスカッションⅡ	これまでの学習を踏まえ、21世紀における鍼灸療法の役割と未来を討論し展望する。			
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書					
参考書等					
成績評価基準		出席時数、授業態度、試験の結果を総合的に判断し評価する。			
受講上の 注意事項		日頃から、医療や鍼灸関連の時事問題に関心を持ち自分の考えをまとめる習慣を養ってほしい。			

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	統合医療論 (代替医療)	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、種々の補完・代替医療（鍼灸、漢方、サプリメント、マッサージ、温泉療法、アロマテラピー、音楽療法など）について、それぞれの目的、適応症、方法、効果などについて学習するとともに、将来現代医学と併用して統合医療を実践する際に必要な事項について学んでいく。特に諸外国における補完・代替医療および統合医療の実践状況と我が国のそれとを比較し、我が国における医療の在り方について考えさせる。また、それぞれの項目については、グループに分かれて、それぞれテーマを決めて発表し、討論する。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	臨床心理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	山口 創	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、発達段階を追って、心理的不適応や不適応行動についての理解を深め、さらに心理的アセスメントや種々の心理療法の技法についても学習することを目標とする。心理的不適応については、特に心身の問題を絡めて統合的な視点から学習する。また心理療法についても、単なる言葉によるカウンセリングだけではなく、動作療法やボディ・ワーク、さらには最近注目されているマインドフルネスといった、身体にはたらきかけるアプローチについても同時に学んでいく。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	ガイダンス	臨床心理学とは何か			山口 創
2	臨床心理学周辺の理論	性格心理学、発達心理学の理論を理解する			
3	子どもの心の問題 1	学習障害、ADHD についての理解			
4	子どもの心の問題 2	虐待について			
5	思春期の心の問題	摂食障害について			
6	成人期の心の問題	神経症や精神病、心身症についての理解			
7	心理アセスメント	質問紙法、投影法、観察法についての理解			
8	心身相関の理論 1	皮膚と心の関係について			
9	心身相関の理論 2	身体接触が心に与える影響について学ぶ			
10	心理療法 1	ストレス軽減法である、ボディワークについての理解			
11	心理療法 2	自律訓練法について学ぶ			
12	心理療法 3	心身統合的な治療法であるマインドフルネスについて			
13	心理療法 4	認知へのアプローチ法である認知行動療法について			
14	心理療法 5	開示による身近な援助法			
15	期末テストと講評	授業内容のまとめと、理解度を評価するテスト			
教科書	『よくわかる臨床心理学』 山口創（川島書店）				
参考書等	『子供の「脳」は肌にある』 山口創（光文社新書）				
成績評価基準	平常点10%、期末テスト90%とする				
受講上の 注意事項	出席は 3 分の 2 以上必要とする				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	医療人のための英語 (医学英語)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	島田 将夫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基礎的な英文医学用語を習得するための演習を行う。習得対象となる医学用語を含む英文原著を集中的に繰り返し読み、その和訳文のみを参照すれば、直ちに原文の英語を再現できるようになることを目標とする。音読サイトトランスレーションとリテンションを援用した訓練技法を用いて、自然な音律での原文の音読訓練と、原文の意味内容の要点をおさえた文章把握をする訓練を繰り返し行うことにより、英語文化圏における医療人の医療に対する考え方をよりよく理解するための英語運用能力を養う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	部分と全体―専門英語の諸相			島田 将夫
2	音声のしくみ	発話のしくみと言語コミュニケーション			
3	音声言語のしくみ	音素・音節・韻律と言語コミュニケーション			
4	語のしくみ (1)	音声と語形成			
5	語のしくみ (2)	語形成と語の意味			
6	語のしくみ (3)	語と語の意味			
7	語のしくみ (4)	語の歴史的発達			
8	語のしくみ (5)	語と文化・社会			
9	語のしくみ (6)	専門用語の形成			
10	文のしくみ	語と語のネットワーク			
11	文章のしくみ	文章のなりたちと論文のなりたち			
12	英文講読演習 (1)	音読サイトトランスレーション			
13	英文講読演習 (2)	リテンション (保持)			
14	英文講読演習 (3)	レシテーション (暗誦)			
15	まとめ (試験)	訓練の成果の総合発表			
教科書	『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語 (新版)』 中村清、他 (医道の日本社) 2004				
参考書等	1. 『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗 (アルク) 2007 2. 『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗 (アルク) 2007 3. 『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗 (アルク) 2007 4. 『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄 (大修館書店) 2005				
成績評価基準	出席 (訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席 (訓練への主体的かつ能動的な取り組み) が最も重要となります。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	カウンセリング入門	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	茶園 暁美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、カウンセリングの本質と効果について学習する。よい援助関係の条件とは何か、傾聴、受容などカウンセリングに必要な基本的態度をロールプレイを通して実践的に学習する。その上でクライアントとカウンセラーという二者間の関係性について考察し、カウンセラーに求められる資質について学ぶ。幼少期から老年期まで各ライフステージを通過する上で課されている発達課題や、様々な心理療法、面接技法なども取り入れ、効果的なカウンセリングの用法を学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	カウンセリングとは				茶園 暁美
2	カウンセリングの目的				
3	カウンセリングの歴史				
4	発達理論と発達課題について				
5	自己理解について				
6	コミュニケーションについて				
7	ストレスが身体に及ぼす影響について				
8	リラクゼーション方法について				
9	自己主張について				
10	カウンセラーの基本的態度について				
11	カウンセリングのプロセス				
12	うつ病について				
13	カウンセリングの主要理論				
14	カウンセリング技法と実践				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書					
参考書等		『総説カウンセリング心理学』 福島脩美著（金子書房） 『ヘルピングの心理学』 ロバート・R・カーカフ著 国分康孝＝監修（講談社現代新書） 『図解雑学 臨床心理学』 松原達哉＝編著（ナツメ社）			
成績評価基準		カウンセリングの基礎知識と基本的態度の習得度を評価基準とする。			
受講上の 注意事項		ロールプレイでは、カウンセラー役やクライアント役など、それぞれの役になりきることが重要です。			

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中薬学概論	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、代表的な漢方薬を取り上げ、それらに用いられる生薬とその作用について学習する。特に漢方薬の材料となる生薬については実物を観察させ、生薬の特徴を理解させる。中薬学（漢方）と鍼灸学は共通した診断学の基盤をもっていること、また「薬食同源」といわれるように、中薬学では、薬物と食物は、本来同源とされてきたことをふまえ、中薬学の基本的な理論、および薬物や食品として利用される生薬（植物・動物・鉱物）の概要（薬理作用・運用方法）について中心に学ぶ。講義にあたっては、薬草園などの見学を通じて薬用植物に対する知識をより深められるように配慮する。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中医方剂学 (処方学)	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、症例を通して病証を診断させ、それに適した方剤を処方することができる基本的な臨床能力を身につけさせる。特に日常遭遇する症例を呈示して病証を判定させ、適切な方剤、処方の方法を理解させる。方剤は、日本の医療保険に収載されている漢方エキス製剤を基本に据えながら、それぞれの処方の効能と適応などについて学習する。また喘息やアレルギー性疾患、偏頭痛などの疾患、症例を取り上げ、個々のケースに適した方剤の選択と、運用について最新の知見を紹介しつつ講義する。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中医栄養学 (薬膳)	開講時期	4 年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	和田 暁	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、患者の病証や個性特性、ならびに季節・環境にも配慮した、オーダーメイドな弁証施膳の理論と実践について学習する。また、薬膳料理のメニューを各自で作成し発表会を行う。西洋に起源を有する近代栄養学と異なり、中医学では「薬食同源」と言われるように、薬物と食物は本来同源である。生薬の中には、一般でも料理に使用される品目が多数あり、鍼灸師としてこうした食品に対する知識を持つことは、患者の食生活を理解する上でも、また患者の病証を考慮に入れた食事指導をしていく上でも大切である。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	鍼灸経営論	開講時期	4 年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	鳥海 一哉	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、施術所を経営するための基本的な事項について学習する。経営学の基礎、医療保険制度、税金の仕組み、広告、施術所の設計・デザイン、マーケティングなどについて学習する。加えて最近のインターネット上における施術所の提示の仕方などについても紹介し、経営に対する意識を喚起する。また、施術所を開業している鍼灸師による経営の実践について聴講し、討論する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体構造学Ⅰ (総論・組織)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小泉 政啓	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。ここでは系統解剖学のうち、骨学（関節を含む）・靱帯学・筋学・神経学などの運動器系に関連する組織器官について主に学習する。また、人体構造の発生・細胞・組織等の基本構造、解剖学の基準となる正位と身体の区分、関節運動の用語等についても学習する。特に骨、筋および神経系については、系統的に学ぶだけでなく、運動器の機能作用からみたそれらの関係性についても取り上げながら、理解を深める。このようにして、鍼灸師にとって重要な人体の構造の基本を理解する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	解剖学序論	解剖学とは？ 解剖学的な人体の区分、体位、方向。			小泉 政啓
2	細胞	細胞の構造。細胞分裂。			
3	組織	組織の種類。上皮・結合組織			
4	骨格系総論 1	骨の種類、骨の基本構造、骨の発生、成長。			
5	骨格系総論 2	骨の連結の種類と構造、全身の骨格の区分。			
6	筋系総論 1	筋組織の構造。筋の種類、一般的形態。			
7	筋系総論 2	筋の分類、作用の種類。			
8	神経系総論 1	神経系の構成、神経細胞、神経興奮の伝達、中枢神経概論。			
9	神経系総論 2	脳・脊髄総論、末梢神経系概論、脳神経・脊髄神経総論。			
10	体幹の骨 1	椎骨、椎骨の連結と靱帯。			
11	体幹の骨 2	脊柱、胸郭（胸骨・肋骨）。			
12	体幹の筋と神経 1	胸部の筋と肋間神経、横隔膜。			
13	体幹の筋と神経 2	腹部の筋と神経、尿管。			
14	体幹の筋と神経 3	頸部の筋と神経、背部の筋と神経。			
15	(中間試験)	定期試験および授業のまとめ			
16	四肢の骨 1	上肢帯、下肢帯。			
17	四肢の骨 2	自由上肢の骨と関節。			
18	四肢の骨 3	自由下肢の骨と関節。			
19	上肢の筋と神経 1	腕神経叢、上肢帯の筋と神経。			
20	上肢の筋と神経 2	上腕の筋と神経。			
21	上肢の筋と神経 3	前腕の筋と神経、手の筋と神経。			
22	下肢の筋と神経 1	腰仙骨神経叢、下肢帯の筋と神経。			
23	下肢の筋と神経 2	大腿の筋と神経、下腿の筋と神経。			
24	下肢の筋と神経 3	足の筋と神経、会陰の筋と神経。			
25	頭の骨	頭蓋骨の構成、頭蓋骨の連結。			
26	頭の筋と神経	頭部の筋と脳神経			
27	脊髄	脊髄の一般的形態、内部構造。			
28	脳 1	脳の区分、延髄、橋、小脳、中脳、間脳、大脳			
29	脳 2	機能領域、基底核、脳の血管、脳室、脳脊髄液。			
30	(期末試験)	定期試験および授業のまとめ			
教科書	『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）2009				
参考書等	『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学、第1巻』（金原出版）1985 『分担解剖学 脈管学・神経系 第2巻（改訂第11版）』（金原出版）1984 『分担解剖学 感覚器学・内臓学 第3巻（改訂第11版）』（金原出版） 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〈1〉解剖生理学』（医学書院）2009 『骨学実習の手びき（第4版）』（南山堂）1992 『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫・坂本裕和（医歯薬出版）2006				
成績評価基準	「中間試験」+「期末試験」の総合成績 および 出席率。 なお、授業中適宜行なうミニテストの成績も考慮に加える。				
受講上の 注意事項	複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体構造学Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小泉 政啓	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。ここでは系統解剖学のうち、自律神経系、循環器系（心臓と血管・リンパ系）・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・感覚器系などの組織器官について主に学習する。内臓器の構造を知することは、疾患の理解や刺鍼の際の重要な手がかりとなるため、鍼灸師にとっても非常に重要である。そのため、人体模型や立体映像等を用いて3次元的なイメージをつけ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、鍼灸師にとって必要な、人体の構造の基本を理解する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	自律神経系	自律神経系総論、交感神経、副交感神経。			小泉 政啓
2	伝導路	伝導路総論、反射路、下行性伝導路、上行性伝導路。			
3	内臓総論	内臓の区分、内臓を包む膜、消化管の構造			
4	頭頸部の呼吸器	鼻腔、口蓋、咽頭、喉頭。			
5	胸部の呼吸器	気管・気管支、肺、呼吸、肺の血管。			
6	循環器系総論	循環路の概要、血管の構造、血液。			
7	心臓 1	心臓の位置、心膜、心臓外景・内景。			
8	心臓 2	刺激伝導系、冠状動脈・静脈。			
9	体幹の動脈系	大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈と枝。			
10	上肢・下肢の動脈系	鎖骨下動脈から手の動脈、外腸骨動脈から足の動脈。			
11	頭部の動脈系	外頸動脈とその枝、内頸動脈とその枝、椎骨動脈。			
12	体幹・上肢・下肢の静脈系	皮静脈、鎖骨下静脈から手の静脈、外腸骨静脈から足の静脈。			
13	頭部の静脈系	内頸静脈とその枝、顔面の静脈。			
14	血液循環	成人の循環路、胎児期の循環路。			
15	(中間試験)	定期試験および授業のまとめ			
16	リンパ系	リンパ系総論、全身のリンパ管、リンパ節、脾臓、胸腺。			
17	消化器 1	概観、消化管の血管、口腔、咽頭、食道。			
18	消化器 2	胃、小腸、大腸。			
19	消化器 3	肝臓、胆嚢、膵臓。			
20	泌尿器	腎臓、尿管、尿の生成、膀胱、尿道。			
21	女性生殖器	子宮、卵管、卵巣、外生殖器。			
22	男性生殖器	精巣、精巣上体、精嚢、前立腺、外生殖器、精子の形成。			
23	発生 1	受精、着床、初期発生と胎盤形成。			
24	発生 2	初期発生と胎盤形成、胎児の発生。			
25	内分泌器 1	内分泌とは。下垂体、松果体、甲状腺			
26	内分泌器 2	上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣。			
27	感覚器 1	皮膚			
28	感覚器 2	嗅覚器、味覚器、視覚器（眼球およびその付属器）。			
29	感覚器 3	光の感受、平衡聴覚器、音の伝達。			
30	(期末試験)	定期試験および授業のまとめ			
教科書	『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）2009				
参考書等	『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学。第1巻』（金原出版）1985 『分担解剖学 脈管学・神経系 第2巻（改訂第11版）』（金原出版）1984 『分担解剖学 感覚器学・内臓学 第3巻（改訂第11版）』（金原出版） 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〈1〉解剖生理学』（医学書院）2009 『骨学実習の手びき（第4版）』（南山堂）1992 『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫：坂本裕和（医歯薬出版）2006				
成績評価基準	「中間試験」+「期末試験」の総合成績 および 出席率。 なお、授業中適宜行なうミニテストの成績も考慮に加える。				
受講上の 注意事項	複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体構造学Ⅲ	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、顔面部・頭頸部・体幹部（胸腹部および肩背腰部）・上肢・下肢の局所解剖について学習する。特に骨各部の名称・関節、筋の名称・起始停止・走行・作用・その筋を支配する運動神経とその神経根、血管系の名称・走行、各所を支配する知覚神経およびデルマトームについて、人体模型や立体映像等を用いて理解を深めさせる。特に体表から観察できる局所解剖については、鍼灸師として臨床上重要な事項であるので3次元的なイメージをつけさせながら重点的に学習し、触診や刺鍼等に活かすことができるよう配慮する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	体表の区分	骨学的体表ポイントなど			木村 明彦
2	頭頸部の局所解剖	頭頸部の体表解剖			
3	頭頸部の局所解剖	頭頸部の透視解剖			
4	頭頸部の局所解剖	頭頸部の横断解剖			
5	頭頸部の局所解剖	同上			
6	頭頸部の局所解剖	同上			
7	体幹部の局所解剖	体幹部の体表解剖			
8	体幹部の局所解剖	同上			
9	体幹部の局所解剖	体幹部の透視解剖			
10	体幹部の局所解剖	同上			
11	体幹部の局所解剖	体幹部の横断解剖			
12	体幹部の局所解剖	同上			
13	体幹部の局所解剖	同上			
14	体幹部の局所解剖	同上			
15	中間試験	試験および授業のまとめ			
16	上肢の局所解剖	上肢の体表解剖			
17	上肢の局所解剖	同上			
18	上肢の局所解剖	上肢の横断解剖			
19	上肢の局所解剖	同上			
20	上肢の局所解剖	同上			
21	上肢の局所解剖	同上			
22	上肢の局所解剖	同上			
23	下肢の局所解剖	下肢の体表解剖			
24	下肢の局所解剖	同上			
25	下肢の局所解剖	下肢の横断解剖			
26	下肢の局所解剖	同上			
27	下肢の局所解剖	同上			
28	下肢の局所解剖	同上			
29	下肢の局所解剖	同上			
30	期末試験	試験および授業のまとめ教科書			
教科書	『解剖学』（社）東洋療法学校協会				
参考書等	『コメディカルのための専門分野テキスト 解剖学』 五味・岸編集（中外医学社）				
成績評価基準	出席状況、授業態度、課題レポート、定期試験により総合評価する。				
受講上の 注意事項	1 年次で履修した系統解剖学の発展させた局所解剖学を学習する。このため1 年次でで使用したノートなどを参照できるようにする必要がある。 授業1 週前に資料を配布する時には、その資料に関し授業時まで完成させておく必要がある（評価対象）。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体の構造学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小泉 政啓 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、人体を構成する諸器官構造および顕微構造を医学標本・教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に学ぶ。とくに、運動器解剖学（頭・上肢・下肢・体幹の骨、関節、靱帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖学実習（組織学実習）を行う。また、人体における各内臓器・筋骨などの運動器・神経血管系等の位置や各器官の関係性などをあらゆる角度から観察し、教科書を参照にしながら人体の局所構造の理解を深める。また、各器官の体表からの深さや危険部位への実際の刺鍼等を想定し、刺鍼の危険性を十分に理解し、鍼灸師として臨床上必要な触診や刺鍼に活かせるよう、学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	局所解剖学実習 1				成瀬 秀夫 木村 明彦
2	局所解剖学実習 2				
3	局所解剖学実習 3				
4	局所解剖学実習 4				
5	局所解剖学実習 5				
6	組織学実習 1				
7	組織学実習 2				
8	肉眼解剖学実習講義（肉眼解剖学実習を受けるにあたっての事前講義）				小泉 政啓
9	肉眼解剖学実習 1（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
10	肉眼解剖学実習 2（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
11	肉眼解剖学実習 3（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
12	肉眼解剖学実習 4（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
13	肉眼解剖学実習 5（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
14	肉眼解剖学実習 6（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）				
15	（定期試験および授業のまとめ）				
教科書	『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）2009				
参考書等	『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学、第 1 巻』（金原出版）1985 『分担解剖学 脈管学・神経系 第 2 巻（改訂第11版）』（金原出版）1984 『分担解剖学 感覚器学・内臓学 第 3 巻（改訂第11版）』（金原出版） 『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫・坂本裕和（医歯薬出版）2006 『臨床のための解剖学』 佐藤達夫、坂井達夫 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）2008				
成績評価基準	出席が授業回数の 4 / 5 に満たない学生は評価の対象外とする。定期試験および実習中に随時課されるレポートや課題の総合成績で判断する。				
受講上の 注意事項	後半の実習では、他大学医学部で実際のご遺体を観察するため、医療を学ぶ学生としてふさわしい態度が要求される。教員が不適切と判断した学生には即時実習を中止してもらう。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体機能学Ⅰ (植物機能)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	堀田 晴美 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生理学の植物性機能について学習する。植物性機能とは、生物の生命維持に必須な機能であり、血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝、内分泌などがこれに含まれる。そしてこれらは、内臓機能ともいわれる。この内臓機能は、自律神経およびホルモンによる調節を受けるので、これらの調節系を含め、植物性機能として取り扱う。ここでは自律神経およびホルモン調節を含めた、内臓機能の基本的知識に重点をおき、これらを理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	生理学とは、ホメオスターシスの維持				堀田 晴美 高野 一夫
2	細胞の構造と働き				
3	物質代謝の仕組み				
4	体液の組成とその働き・物質の移動				
5	血液 1 (血液成分とその機能 1)				
6	血液 2 (血液成分とその機能 2)				
7	血液 3 (血液凝固と血液型)				
8	血液 4 (免疫)				
9	循環 1 (心臓血管系)				
10	循環 2 (心臓)				
11	循環 3 (血管の構造と機能)				
12	循環 4 (血圧)				
13	循環 5 (循環の調節)				
14	循環 6 (特殊な部位の循環)				
15	循環 7 (リンパ系)				
16	呼吸 1 (呼吸運動)				
17	呼吸 2 (肺機能)				
18	呼吸 3 (ガス交換とガスの運搬)				
19	呼吸 4 (呼吸運動の調節)				
20	消化と吸収 1 (口腔内・胃内における消化)				
21	消化と吸収 2 (小腸・大腸内における消化吸収)				
22	消化と吸収 3 (消化管ホルモンと排便)				
23	栄養と代謝 1 (栄養素とエネルギー代謝)				
24	栄養と代謝 2 (各種栄養素およびビタミン)				
25	体温 1 (熱の産生と放熱の仕組み)				
26	体温 2 (体温調節)				
27	排泄 1 (尿の生成)				
28	排泄 2 (腎臓による体液の調節)				
29	排泄 3 (蓄尿と排尿)				
30	定期試験				
教科書	『生理学』 佐藤優子・佐藤昭夫 ほか著 (医歯薬出版)				
参考書等	1. 『○×問題でマスター 生理学 第2版』 佐藤昭夫監修 (医歯薬出版) 2009 2. 『人体の構造と機能 第2版』 佐藤昭夫ほか (医歯薬出版) 2003 3. 『コンパクト生理学』 佐藤昭夫監訳 (医学書院) 1997 4. 『自律機能生理学』 佐藤昭夫ほか (金芳堂) 1995 5. 『スタンダード人体生理学』 佐藤昭夫監訳 (シュプリンガー・フェアラーク東京) 1994				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体機能学Ⅱ (動物機能・運動生理を含む)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	堀田 晴美	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生理学の動物性機能について学習する。動物性機能は、骨格筋や神経系に代表される機能であり、筋、神経細胞の共通の特徴である興奮性組織の理解から始め、筋肉特有の収縮機構や神経の興奮伝道の仕組みについて理解した上で、神経系の動作機序をシステムとして理解していく。具体的には、脊髄・延髄レベルでの反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中枢神経機能との理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系の理解などが含まれる。また、言語機能・脳波・精神活動などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	内分泌 1 (内分泌とは)				堀田 晴美
2	内分泌 2 (視床下部・下垂体ホルモン)				
3	内分泌 3 (甲状腺・上皮小体・膵臓ホルモン)				
4	内分泌 4 (副腎髄質・副腎皮質・性ホルモン)				
5	生殖				
6	成長と老化				
7	神経 1 (神経系とは)				
8	神経 2 (ニューロンの構造と働き)				
9	神経 3 (神経の興奮と伝導)				
10	神経 4 (興奮の伝達)				
11	神経 5 (末梢神経系)				
12	神経 6 (中枢神経系 1 脊髄と脳幹)				
13	神経 7 (中枢神経系 2 間脳・小脳・大脳)				
14	神経 8 (中枢神経系 3 高次脳機能)				
15	内臓の自律神経性調節 1 (自律神経系の特徴)				
16	内臓の自律神経性調節 2 (伝達物質と受容体)				
17	内臓の自律神経性調節 3 (中枢と自律神経反射)				
18	筋 1 (骨格筋の構造と働き)				
19	筋 2 (筋収縮の仕組み)				
20	筋 3 (筋のエネルギー供給・心筋と平滑筋)				
21	運動 1 (骨格筋の神経支配 1 運動単位・神経筋接合部)				
22	運動 2 (骨格筋の神経支配 2 筋紡錘と腱受容器)				
23	運動 3 (運動の調節 1 脊髄と脳幹)				
24	運動 4 (運動の調節 2 小脳と大脳基底核)				
25	運動 5 (運動の調節 3 大脳皮質)				
26	感覚 1 (感覚の一般)				
27	感覚 2 (体性感覚と内臓感覚)				
28	感覚 3 (痛覚)				
29	感覚 4 (特殊感覚)				
30	定期試験				
教科書	『生理学』 佐藤優子・佐藤昭夫 ほか著 (医歯薬出版)				
参考書等	1. 『〇×問題でマスター 生理学 第2版』 佐藤昭夫監修 (医歯薬出版) 2009 2. 『人体の構造と機能 第2版』 佐藤昭夫ほか (医歯薬出版) 2003 3. 『コンパクト生理学』 佐藤昭夫監訳 (医学書院) 1997 4. 『自律機能生理学』 佐藤昭夫ほか (金芳堂) 1995 5. 『スタンダード人体生理学』 佐藤昭夫監訳 (シュプリンガー・フェアラーク東京) 1994				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体の機能学実習 (生理学実習)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能学実習では、植物機能、動物機能人体機能学で得た知識を基に、生命体としてのヒトおよび、そのモデルとしての動物の組織・器官を実習教材として、自ら観察実験する。そしてその過程で得られたデータを記録し、結果を考察し、レポートを作成する。具体的には小グループに分かれ、設定された実験テーマを担当教員の指導の下に観察実験を行う。ヒトを対象とするテーマでは、グループ内で相互に実験者と被験者を経験できるようにする。なお、実験実施前と後に討論し、実験についての理解を深める。また、実験を通して基本な計測機器の操作法とデータの統計解析法についても学習する。テーマは、ヒトでは循環、呼吸、血液、代謝、誘発筋電図、感覚を、動物ではカエルを材料に、筋収縮、感覚、神経伝導・伝達、細胞膜電位のコンピュータシミュレーション等である。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	実習オリエンテーション	実習内容の説明および注意			高野 一夫 西村 桂一
2 7	第 2 回から第 7 回まで 1. ヒト循環・呼吸機能 2. 血液・皮膚生理学 3. カエル神経伝導速度	学生を前班・後班の 2 つに分け、前班が、午前中、後班が午後実習を行う。各班とも 5 名ずつ 6 組（A－F）に分け左記の 3 項目について実習を行う。			
8	実習発表会				
9 14	第 9 回から第14回まで 1. ラット循環・呼吸機能 2. ヒト感覚機能 3. ヒト筋電図	学生を前班・後班の 2 つに分け、前班が、午前中、後班が午後実習を行う。各班とも 5 名ずつ 6 組（A－F）に分け左記の 3 項目について実習を行う。			
15	実習発表会				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書等	『ガイトン臨床生理学』 A・C ガイトン：J・E ホール（医学書院）1999 『オクスフォード・生理学 原書 2 版』 G・ポーコック：C・D リチャーズ（丸善）2005 『標準生理学 Standard textbook』 小澤 静司：本郷利憲（医学書院）2005 『細胞の分子生物学 第 4 版』 B・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009 『Principles of Neural Science』 E・R Kandel（McGraw Hill）2000				
成績評価基準	実習実技・レポートおよび実習発表会の内容・態度にて評価を行う。出席率が定められた基準以下の者は評価を受けられない。				
受講上の 注意事項	なるべく実習項目に関する生理学を予習して、実習に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。実技・発表会にはすすんで参加すること。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	病理学	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では病気の原因を原因から出発して系統的に説明する。内容としては、病気の時に細胞組織に生じる変化、先天異常、生体反応と疾病の機序、生体防御機構、循環障害、腫瘍等について学習する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解させる。目標は病気の原因・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病理学の基本は西洋医学だが、東洋医学的な考え方と西洋医学的な考え方の両者を体得することとで、将来的に幅広い考え方をもつ医療人になることを期待して、授業を行う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	病理学とはどのような学問か	病理学と医療との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ			寺井 政憲
2	病気についての基本的な考え方	病気の原因、病気の分類（先天性と後天性）について学ぶ			
3	病気についての基本的な考え方	病気の分類（遺伝性と非遺伝性）について学ぶ			
4	病気についての基本的な考え方	病気の分類（全身性と限局性、器質的と機能的）について学ぶ			
5	病気についての基本的な考え方	病気の分類、病気の症候と経過について学ぶ			
6	先天性異常について	代謝異常、奇形について学ぶ			
7	先天性異常について	染色体異常について学ぶ			
8	病因について	内因について学ぶ			
9	病因について	外因（栄養素）について学ぶ			
10	病因について	外因（物理的病因）について学ぶ			
11	病因について	外因（化学的病因）について学ぶ			
12	病因について	外因（生物的病因）について学ぶ			
13	循環障害について	循環系（大循環、小循環、リンパ循環、門脈循環）について学ぶ			
14	循環障害について	循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ			
15	定期試験				
16	循環障害について	充血、うっ血、貧血、虚血、側副循環について学ぶ			
17	循環障害について	出血の機序、止血の機序について学ぶ			
18	循環障害について	血栓、塞栓、梗塞について学ぶ			
19	循環障害について	浮腫、ショックについて学ぶ			
20	退行性病変について	萎縮、変性、壊死について学ぶ			
21	生活習慣病について	胆石症、糖尿病、動脈硬化、痛風について学ぶ			
22	進行性病変について	肥大、増殖、再生について学ぶ			
23	進行性病変について	再生、化生、移植について学ぶ			
24	創傷治癒について	肉芽組織、創傷治癒、骨折の治癒について学ぶ			
25	炎症について	炎症の一般、分類について学ぶ			
26	炎症について	特異性炎（肉芽腫性炎；結核、梅毒、癰）について学ぶ			
27	腫瘍について	腫瘍とは何か、腫瘍の特色、良性と悪性の違いについて学ぶ			
28	腫瘍について	悪性腫瘍の特徴について学ぶ			
29	腫瘍について	腫瘍発生の内因、外因について学ぶ			
30	定期試験				
教科書	『病理学概論第2版』編集 社団法人東洋療法学校協会 著者 滝澤登一郎、畠山 茂（医歯薬出版株式会社） 『新クイックマスター 病理学』監修 堤 寛（医学芸術社）				
参考書等	『からだをまもる免疫のふしぎ』編集 日本免疫学会（羊土社）				
成績評価基準	定期試験（筆記試験）により評価する。				
受講上の 注意事項	授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	病理学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として理解しておく必要がある疾患を取り上げ、それらの病理学的変化について顕微鏡学的形態観察を通して学習する。自ら顕微鏡観察を行い、組織の特徴をスケッチし、各自でまとめていく。顕微鏡観察から得られる知見を通して、組織レベルのイベントから全身（臓器、個体）のイベントを病理学的に根拠に基づいた推察をして、お互いに議論が出来るようになることを到達目標にする。この実習の単位習得時点において、各自が病気を体系的に把握出来るようになっていることが期待される。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	病理学と病理診断	医療における病理学の役割について学ぶ（講義）			寺井 政憲
2	病理検体の取り扱い方	病理検体の取り扱い方、標本作成、染色法について学ぶ（講義）			
3	細胞について	細胞を見る、細胞について理解を深める（講義）			
4	顕微鏡実習	細胞障害の標本（実習）			
5	顕微鏡実習	細胞障害の標本（実習）			
6	顕微鏡実習	循環障害の標本（実習）			
7	顕微鏡実習	循環障害の標本（実習）			
8	顕微鏡実習	肺の疾患（実習）			
9	顕微鏡実習	肝臓の疾患（実習）			
10	顕微鏡実習	腎臓の疾患（実習）			
11	顕微鏡実習	良性腫瘍と悪性腫瘍（実習）			
12	顕微鏡実習	良性腫瘍と悪性腫瘍（実習）			
13	顕微鏡実習	良性腫瘍と悪性腫瘍（実習）			
14	顕微鏡実習	まとめ（講義）			
15	定期試験				
教科書	『病理学概論第2版』 編集 社団法人東洋療法学校協会 著者 滝澤登一郎、畠山 茂（医歯薬出版株式会社） 『新クイックマスター 病理学』 監修 堤 寛（医学芸術社）				
参考書等	『組織病理アトラス第5版』 編集 小池盛雄、深山正久、恒吉正澄、森永正二郎（文光堂）				
成績評価基準	定期試験（筆記試験）、顕微鏡実習（スケッチ）により評価する。				
受講上の 注意事項	病理学の講義で学んだ内容を発展させていく実習です。病理学のもつ役割を認識し、標本作製法、細胞に関する講義、顕微鏡を使って実際の病変の組織の異常を自分の目で見ていきます。顕微鏡実習においてはスケッチをするので、各自A4サイズの画用紙と色鉛筆を持参してください。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	公衆衛生学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	一幡 良利	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、身体的・精神的・社会的健康に関する歴史、意義、現状および社会の取り組みについての知識を習得する。特に、生活習慣病や環境問題、少子高齢化、新興感染症などの新しい問題の理解の一環として、疾病予防（主として健康の保持増進）、ライフスタイルと健康管理、衛生行政、環境の基礎的知識、産業保健、成人保健、老人保健、母子保健、感染症の歴史と課題・対策、疫学・統計学等について広く学習する。これらによって環境と健康の関わりや、こころと身体 の健康などの面から、鍼灸師としての健康観を自身で組み立て述べられるよう学習を深めていく。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	衛生学・公衆衛生学の意義	包括医療、地域医療、プライマリーヘルスケア			一幡 良利
2	健康の概念	WHO、健康と不健康			
3	疾病予防と健康管理	健康診断、健康教育、予防医学（第一次から三次まで）			
4	食生活と健康	食物、栄養素、食習慣、栄養所要量			
5	食中毒と食品衛生	食中毒の原因、食中毒の予防対策、食品衛生法			
6	生活環境衛生	物理的環境、化学的環境、生物学的環境、住居と衣服、地域の環境衛生、上水道、下水道地域の環境衛生、上水道、下水道			
7	公害	大気汚染、土壌汚染、水質汚濁、騒音、振動、公害対策基本法、水保病			
8	地球環境問題	地球温暖化、二酸化炭素、オゾン層破壊、酸性雨、放射能汚染、ダイオキシン			
9	産業保健・精神保健	労働衛生、職業病、じん肺、頸肩腕障害、産業災害、精神保健福祉、精神障害、措置入院、任意入院			
10	母子保健・学校保健	母子の健康、母子保健法、母子健康手帳、出生率、乳児死亡率			
11	生活習慣病	悪性新生物、高血圧症、糖尿病、老人保健法			
12	感染症	感染症の発生要因、感染経路、感染症の予防対策、新興感染症、再興感染症、感染症法、予防接種			
13	医療従事者として必要な感染症	日和見感染、院内感染、輸入感染症、菌交代症			
14	滅菌と消毒	滅菌と消毒の定義、物理的滅菌法、化学的消毒法、消毒薬、常在細菌叢、医療廃棄物			
15	疫学・衛生統計	保健統計、人口静態統計、人口動態統計、平均寿命、生命表、疾患統計教科書			
教科書		『衛生学・公衆衛生学』（医歯薬出版）			
参考書等		『国民衛生の動向』（厚生統計協会）			
成績評価基準		テスト（80％）、出席（20％）による。			
受講上の 注意事項		日常的に起こる公衆衛生学の話題に関心を持つこと			

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名		病原微生物学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		一幡 良利	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		本科目では、ヒトに感染する主要な病原微生物の基本的な知識（特徴、形態など）を学習し、加えてそれらの病原微生物によって発生する感染症の発症様式、症状、治療法、予防法について理解させる。地球上には、無数の微生物が存在するが、この内でヒトに病原性を示すのはそのごく一部のものである。とくに細菌感染症とウイルス感染症については、病原微生物の消毒法、滅菌法、感染予防の方法などについて学習する。				
回	テ ー マ	内 容				担当教員名
1	微生物の歴史①	ミアズマ説、インフルエンザ、天然痘、梅毒				一幡 良利
2	微生物の歴史②	コッホの 3 原則、パスツールの論理展開				
3	微生物の相違	細菌、リケッチア、クラミジア、ウイルス				
4	細菌細胞の構造と機能①	細胞壁、細胞質膜、細胞質、核、莢膜、スライム				
5	細菌細胞の構造と機能②	鞭毛、線毛、芽胞				
6	細菌の同定法と培養、化学療法薬	細菌検査、細菌の栄養素、培地、増殖曲線、選択毒性、作用機序、抗生物質、抗菌薬				
7	感染と発症①	感染症、病原性因子、宿主側因子				
8	感染と発症②	常在微生物叢、日和見感染、菌交代症				
9	感染と発症③	内因感染、院内感染、新興感染、再興感染				
10	細菌学各論①	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌				
11	細菌学各論②	グラム陽性桿菌				
12	細菌学各論③	グラム陰性桿菌				
13	リケッチア、クラミジア	ツツガムシリケッチア、発疹チフス、トラコーマクラミジア				
14	ウイルス①	DNA ウイルス（ヘルペス、B 型肝炎など）				
15	ウイルス②	RNA ウイルス（インフルエンザ、ヒト免疫不全など）				
教 科 書		『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会）				
参考書等		『微生物学用語小事典』（医学出版社）				
成績評価基準		レポート（80％）、出席（20％）				
受講上の 注意事項		感染症の最新情報と話題に関心を持つこと				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	免疫学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主としてヒトにおける免疫応答の基本および免疫担当細胞などの役割と機能について、その基本を習得する。ヒトにおける異物認識の特異性、免疫寛容、免疫記憶等の基本概念を把握する。リンパ球、マクロファージ、好中球等の免疫応答に関与する細胞の分化や機能を学習し、生体防御反応、自己免疫疾患、アレルギー反応などについて理解させる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	免疫とは何をしているの？	自然免疫と獲得免疫について学ぶ			寺井 政憲
2	同じ病気を繰り返さないのはなぜ？	主に獲得免疫について、抗原と抗体、免疫記憶について学ぶ			
3	免疫担当細胞はどこで作られるの？	免疫担当細胞、造血幹細胞について学ぶ			
4	免疫担当細胞はどこではたらくの？	リンパ節、脾臓の役割、遊走因子、接着分子について学ぶ			
5	病原体をどのように退治するの？	貪食作用、細胞性免疫、液性免疫について学ぶ			
6	どのように病原体を見分けているの？	抗原特異性について学ぶ			
7	病原体の種類はいくつあっても大丈夫？	抗体の多様性を生む仕組みについて学ぶ			
8	免疫担当細胞の助け合い	サイトカインのネットワークによる免疫細胞の情報交換について学ぶ			
9	免疫担当細胞のはたらき過ぎの防止	免疫応答の制御、制御性 T 細胞について学ぶ			
10	自分を攻撃しないようにする仕組み	免疫寛容について学ぶ			
11	感染症と免疫について	感染症に対して免疫がどのように反応するのかについて学ぶ			
12	自己免疫疾患について	免疫寛容の崩壊、自己免疫疾患について学ぶ			
13	アレルギーについて	アレルギーについて学ぶ			
14	がんと免疫について	がんに対してはたらく免疫について学ぶ			
15	定期試験				
教科書	『病理学概論第2版』 編集 社団法人東洋療法学校協会 著者 滝澤登一郎、畠山 茂（医歯薬出版株式会社） 『新クイックマスター 病理学』 監修 堤 寛（医学芸術社）				
参考書等	『からだをまもる免疫のふしぎ』 編集 日本免疫学会（羊土社）				
成績評価基準	定期試験（筆記試験）により評価する。				
受講上の 注意事項	授業では免疫学の基本を丁寧に解説していきます。病理学の授業の内容とオーバーラップしている部分もあります。この免疫学の講義を通じて病理学の理解も深めてください。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	生化学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	西村 桂一	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて代謝について、酵素の機能、ATP の働き、糖質や脂質の分解過程等について学習する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	「生化学」の全体概要の説明 と基本となる有機化学に	◇生化学とはどんな学問か？ ◇生化学ではどんなことを学ぶのか？◇基本となる有機化学について			西村 桂一
2	糖質の構造	◇糖質の分類、◇単糖類（五炭糖、六炭糖）二糖類、多糖類の化学構造			
3	糖質の代謝 (1)	◇糖類の消化吸收、◇グルコースの代謝、◇基本的な ATP の生成系：解糖系			
4	糖質の代謝 (2)	◇TCA サイクル、◇どのようにして ATP はできるのか？、◇1 分子のグルコースからの ATP 数			
5	タンパク質の化学構造	◇アミノ酸の化学構造、◇タンパク質の化学構造、◇タンパク質の一般的性質			
6	タンパク質関連物質の代謝	◇タンパク質の消化吸收、◇吸収されたアミノ酸はどのように代謝されるのか？			
7	酵素	◇酵素の化学構造、◇酵素の活性、◇酵素の反応			
8	脂溶性ビタミン	◇ビタミンとは、◇脂溶性ビタミン A，D，E，K			
9	水溶性ビタミン	◇ビタミン B 1，B 2，B 6，12、ナイアシン、パントテン酸、ビオチン、葉酸、ビタミン C			
10	脂質の構造と性質	◇脂質の分類、◇脂質の構造と性質、◇脂肪酸の特徴、◇複合脂質の化学構造			
11	脂質の代謝	◇脂質の消化吸收、◇脂肪酸の代謝、◇コレステロールの生合成			
12	核酸の構造	◇ヌクレオチドの化学構造、◇DNA と RNA の化学構造			
13	核酸関連物質の代謝	◇ヌクレオチドの代謝、◇DNA の合成			
14	まとめ	◇各テーマの補足および要点のまとめ			
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『図解 基礎生化学』 池田和正（オーム社）2006				
参考書等	『ハーバー・生化学（原著25版）』 上代淑人監訳（丸善）2004 『ストライヤー・生化学（第5版）』 入村ら監訳（東京化学同人）2001				
成績評価基準	定期試験の結果を基本として、講義期間中に実施する小テストおよび出席状況、授業態度などを含めて総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	講義には必ず教科書を持参すること。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	臨床検査学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な臨床検査の目的と方法及び判定法などについて学習する。主な内容は、尿・糞便検査、血球、凝固関連検査、血液生化学検査、血液血清検査、内分泌検査、感染症関連検査、及び生理機能検査などである。このうち、特に鍼灸臨床を行う上で身につけておかねばならない主要な臨床検査の内容とその意義について理解させる。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	臨床薬理学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	鍼灸による治療の範囲は内科、神経科、耳鼻科などと限られた範囲での疾患の治療ではなく、その範囲は大変広く、複合範囲のものも多い。西洋医学での主流である薬物治療を理解するために、治療薬の薬理学、すなわち、薬物の作用点、生体内運命、薬効に影響を与える因子などを学ぶとともに、特に鍼灸治療で扱う疾患に用いる治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、適用方法、注意点などについても学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	診察診断学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床で取り扱う主要症候を取り上げ、これらの症候の病態生理、診察法、検査法を学習し、鑑別診断ができるように鑑別のポイント、プロセスを理解させる。特に鍼灸治療の適応と不適応（禁忌）が的確に判断できるようにする。また、いくつかの症候については、症例を呈示し、グループ検討を行うことで臨床能力を養う。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	診察の概要				林 洋
2	診察の方法				
3	生命徴候の診察				
4	全身の診察 (1)				
5	全身の診察 (2)				
6	局所の診察 (1)				
7	局所の診察 (2)				
8	神経系の診察				
9	運動機能検査、その他の診察				
10	臨床検査法				
11	主な症状の診察法 (1)				
12	主な症状の診察法 (2)				
13	主な症状の診察法 (3)				
14	治療学、臨床心理				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『臨床医学総論 第2版』 奈良信雄（医歯薬出版）2009				
参考書等	『内科診断学 改訂第16版』 武内重五郎（南江堂）2003				
成績評価基準	定期試験、小テスト（レポート）、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学Ⅰ	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけでなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	感染症	細菌性感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風、細菌性食中毒、淋菌感染症）			田中　滋城
2	感染症	ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、流行性耳下腺炎、带状疱疹）			
3	感染症	性感染症（梅毒、淋病、性器クラミジア感染症、エイズ）			
4	消化管疾患	口腔疾患、食道疾患（食道癌、食道炎）、胃・十二指腸疾患（胃炎）			
5	消化管疾患	胃・十二指腸疾患（胃・十二指腸潰瘍、胃癌）、腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）			
6	消化管疾患	腸疾患（過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸癌、腸閉塞）			
7	肝・胆・膵疾患	肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝細胞癌）			
8	肝・胆・膵疾患	胆道疾患（胆石症）、膵臓疾患（膵炎、膵癌）			
9	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患（かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、肺結核）			
10	呼吸器疾患	閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎、気管支喘息）			
11	呼吸器疾患	拘束性肺疾患（肺線維症）			
12	呼吸器疾患	腫瘍性疾患（肺癌）、その他（気胸、気管支拡張症）			
13	腎・泌尿器疾患	原発性糸球体疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）、腎不全（急性、慢性）、感染症（腎盂腎炎、膀胱炎）			
14	腎・泌尿器疾患	腫瘍性疾患（腎細胞癌、膀胱癌）、結石症（腎・尿路結石）、前立腺疾患（前立腺肥大、前立腺癌）			
15	定期試験	定期試験および試験のまとめ			
教科書		『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編　奈良信雄・佐藤千史　他編（医歯薬出版）2008			
参考書等		『内科学』　杉本恒明・矢崎義雄　総編集（朝倉書店）2007 『わかりやすい内科学』　井村裕夫編（文光堂）2008 『新臨床内科学』　高久史磨ほか編（医学書院）2009 『病気がみえる（消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液）』（メデックメディア）2009			
成績評価基準		定期試験と出席率およびレポートを総合して判断する。			
受講上の 注意事項		多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および復習が必要である。			

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学Ⅱ	開講時期	2 年次／後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な血液造血器疾患、腎疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、感染症の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	代謝・栄養疾患	糖代謝異常（糖尿病）			田中 滋城
2	代謝・栄養疾患	脂質代謝異常（脂質異常症、肥満症）			
3	代謝・栄養疾患	尿酸代謝異常（痛風）、その他（ビタミン欠乏症）			
4	循環器疾患	心臓疾患（心不全、心弁膜症:僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症）			
5	循環器疾患	冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）			
6	循環器疾患	動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離）			
7	循環器疾患	血圧異常（高血圧、低血圧）			
8	血液・造血・疾患	赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血）			
9	血液・造血・疾患	白血球疾患（急性白血病、慢性白血病）			
10	血液・造血・疾患	リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）			
11	血液・造血・疾患	出血性素因（紫斑病、血友病）			
12	リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患（関節リュウマチ）、膠原病（全身性エリテマトーデス）			
13	リウマチ性疾患・膠原病	膠原病（強皮症、ベーチェット病）			
14	臨床検査基準値	血球検査、血液生化学検査、内分泌検査、血液凝固検査、腫瘍マーカー			
15	定期試験	定期試験および試験のまとめ			
教科書	『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄・佐藤千史 他編（医歯薬出版）2008				
参考書等	『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店）2007 『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂）2008 『新臨床内科学』 高久史磨ほか編（医学書院）2009 『病気がみえる（消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液）』（メデックメディア）2009				
成績評価基準	定期試験と出席率およびレポートを総合して判断する。				
受講上の 注意事項	多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および復習が必要である。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学Ⅲ	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な中枢神経疾患、末梢神経疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	メンタルヘルスケア学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	茶園 暁美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、心の健康とは何か、メンタルヘルスの基礎知識を学習する。適度なストレスやプレッシャーは向上心の糧ともなるが、過度なストレスはうつやパニック障害、その他様々な心因性の身体疾患の原因となりうる。ストレス、ストレッサーとは何か、精神的ストレスの評価法とその対処法などについて学習する。特にストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて考える。さらにストレスマネジメントの方法、リラクゼーション法について理解し、それらを鍼灸臨床に活かせるようにする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	こころの健康とは				茶園 暁美
2	人間理解				
3	こころの発達				
4	こころの病気				
5	ストレスとつきあう				
6	文化とこころの健康				
7	クオリティ・オブ・ライフ（QOL）				
8	スポーツとこころの関係				
9	人とのつながりを考える				
10	パーソナリティの理解				
11	集団の中で生きる				
12	社会的なつながり				
13	災害がもたらす影響				
14	こころの健康をめざして				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書					
参考書等	『メンタルヘルスと心理学』 吉武光世・小野瑠美子・窪内節子・山崎洋司共著（学術図書出版社）				
成績評価基準	メンタルヘルスの基礎知識の習得度を評価基準とする。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	整形外科学Ⅰ (スポーツ医学を含む)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な運動器疾患（頭頸部、上肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	整形外科とは				柚木 脩
2	運動器の基礎知識（骨・関節の基礎知識）				
3	運動器の基礎知識（筋・靱帯・腱の基礎知識・運動器の科学）				
4	整形外科診察法（姿勢，体幹と四肢のバランス・跛行）				
5	整形外科診察法（関節拘縮と強直・徒手筋力テスト・知覚の診断・反射）				
6	整形外科的治療法（保存療法）				
7	整形外科的治療法（観血的治療Ⅰ・Ⅱ）				
8	骨・関節損傷総論（骨折総論・関節の損傷）				
9	スポーツ整形外科とは・スポーツ外傷・障害総論				
10	整形外科的メディカルチェック				
11	上肢のスポーツ外傷・障害				
12	体幹のスポーツ外傷・障害				
13	下肢のスポーツ外傷・障害				
14	スポーツ活動中の重篤な外傷・年齢性別による特徴（女性、高齢者、発育期、等）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『整形外科学』 松下隆：福林徹（南光堂）				
参考書等	『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編（南光堂）				
成績評価基準	出席点および試験の得点で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義では、PP 及び標本などで視覚的に展開し、実技も実施するので出席が重要である。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	整形外科学Ⅱ	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な運動器疾患（体幹部、腰殿部、下肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	疾患別総論Ⅰ（炎症・腫瘍・変性疾患・全身性疾患・骨端症）				柚木 脩
2	疾患別総論Ⅱ（循環障害・神経疾患・筋疾患）				
3	感染性疾患・腫瘍				
4	非感染性軟部・骨関節疾患				
5	全身性の骨・軟部疾患				
6	四肢循環障害、神経・筋疾患				
7	体幹の疾患				
8	肩甲帯の疾患				
9	上腕から肘関節の疾患				
10	前腕から手指の疾患				
11	骨盤から股関節の疾患				
12	大腿から膝関節の疾患				
13	下腿から足関節の疾患				
14	スポーツ障害別各論				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『整形外科学』 松下隆：福林徹（南光堂）				
参考書等	『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編（南光堂）				
成績評価基準	出席点および試験の得点で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義では、PP や標本及び実技を中心に展開していくので、出席が重要である。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	画像診断学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師が、医療従事者として、医師と適切な連携を図るには基本的な知識が必要であることから、基本的な画像の成り立ちと、鍼灸と関連の深い主要疾患の画像を、医師が如何に取り扱っているかについて学ぶ。特に、鍼灸臨床で取り扱うことの多い、整形外科疾患においては、病態把握を行い、適応と限界を判断する上でも重要な位置にあることから、脊椎・脊髄疾患、骨関節疾患を中心として、X 線写真、造影 X 線写真、血管造影、CT、MRI などの画像を医師がどのように判読しているかについて学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	外科学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要と考えられる麻酔学および外科学について総合的に学習する。麻酔学においては、特にペインクリニックについて重点的に学習する。また、外科学として術後の管理等の基本について学習し、鍼灸臨床との関連性については事例を通して学習する。講義は、前半は外科学、後半は麻酔学とする。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	臨床医学各論Ⅰ	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要な泌尿器科・産婦人科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要、および性差医療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の深い疾患（前立腺肥大、前立腺炎、性機能障害、男女更年期障害、月経異常、男女不妊、乳汁分泌不全、妊娠悪阻など）については、詳細な内容まで学習する。また、老年医学に関しては、老化の概念、老化のメカニズム、疫学、老年者および老年者疾患の特徴について学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	臨床医学各論Ⅱ	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要と思われる眼科疾患、皮膚科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。講義は、皮膚科疾患、耳鼻咽喉科、眼科疾患の順番で進める。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	リハビリテーション医学総論	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにある。これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、リハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学習する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、装具療法など）について理解させる。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	リハビリテーション医学各論	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにある。これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、医学的リハビリテーションの対象疾患である脳血管疾患、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学習し、鍼灸治療と連携がはかれるようにする。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	救急法	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では鍼灸師として必要と思われる応急処置と救急救命法について学習する。傷病者の状態を判断することや、傷病者に対して適切な処置が出来るようになることは、臨床上必要なことである。とくに一次救命処置では A：気道の確保、B：人工呼吸、C：心臓マッサージの手順とその方法について理解させ、それらを実際に行えるよう実習を通して身につけさせる。さらに、AED（自動体外式除細動器）の使用方法についても実習を行う。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	看護の原形論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、看護の本質を明らかにする。特に、わが国で様々な現象している看護や福祉の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、鍼灸学科で学ぶ学生たちにとって、職業として共有すべき思考の原点を探っていく。さらに看護の歴史を紐解き、各々の職種が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望し、その専門性や独自性について様々な理論を紹介しながら追求する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	物理療法学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	古賀 義久	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床に関係の深い疾患や病態を取り上げ、それらに使用する物理療法について、その目的、作用、使用法、注意事項などについて学習する。授業ではいくつかの物理療法について体験的に学習させる。用いる機器の特性、効果やリスク管理を学ぶと共に電気刺激、温熱刺激、機械刺激等の各種の刺激特性の生体に対する効果、適応及び禁忌症を知り、物理療法を生体に安全かつ効果的に適用できるよう学習する。				
回	テ　ー　マ	内　　　容			担当教員名
1	総論	物理療法の概要			古賀 義久
2	機械的療法 1	上肢			
3	機械的療法 2	下肢			
4	機械的療法 3	頭頸部			
5	機械的療法 4	胸腹部部			
6	機械的療法 5	腰背部			
7	電気療法 1	低周波通電 1			
8	電気療法 2	低周波通電 2			
9	電気療法 3	超短波・極超短波・超音波			
10	光線療法	紫外線療法・赤外線療法・レーザー療法			
11	温熱・寒冷療法	ホットパック・パラフィン・極低温療法			
12	水治療法・温泉療法	全身浴・部分浴・交代浴			
13	運動療法 1	自動介助運動・自動運動			
14	運動療法 2	抵抗運動			
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	適宜プリントを配布する				
参考書等	『物理療法マニュアル』（医歯薬出版） 『普及版 EBM 物理療法』（医歯薬出版）				
成績評価基準	定期試験、出席状況及び授業態度を総合判断し判定する				
受講上の 注意事項	実習にあたり T シャツ、短パンを準備してください。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	栄養学 (スポーツ栄養学を含む)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	23年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	栄養学は、食事療法および栄養指導を通して疾病の治療に重要な役割を演じている。食事の適正化によってかなりの疾病が治療可能であり、しかも食事療法は薬物と異なり副作用がない等の利点を有している。本科目では、栄養学の基本と健康維持・増進を図るために必要な合理的な食物摂取の原理などについて理解させる。とくに栄養と健康障害、健康維持と栄養学、年齢に応じた栄養指導、主な疾患に対する食事療法などについて学習する。さらにスポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活についても学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	診療所実習	開講時期	3年次・通年	必修/選択/自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	実習	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、診療所を見学実習する。現代医学の医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。特に、鍼灸臨床で扱うことの多い整形外科疾患については、整形外科の医師の問診、診察から診断までの流れや画像診断などを実習・研修し、鍼灸治療の目的を理解する。 (田中 滋城・柚木 脩・鈴木 秀一・林 洋)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	東洋医学概論	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現在我が国で実践されている東洋医学の基本的な概念である陰陽説、五行説、経絡説を始め、東洋医学（鍼灸・漢方）で用いられる診断用語、および病態把握の方法論などについて基本的な事項を習得する。東洋医学の理論は、二千年近く前に中国で編纂された『黄帝内経』、『傷寒論』等の医書に基づいているが、これらの医学書は今日の医療で求められている「全人的な身体観」をその思想的基盤としており、これらの概念の学習を通じて、現代の医療で必要とされるホリスティックな医学観についても理解を深めていく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	オリエンテーション	天人相関論・陰陽論（古代中国の宇宙観） 五行論 総論 五臓（肝・心・脾） 五臓（肺・腎） 六腑（胆・小腸・胃） 六腑（大腸・膀胱・三焦）・奇恒の腑 気 血・津液 臓腑と経脈との関係 経穴について 四診 1（望診・聞診） 四診 2（問診・切診） 証とは何か？ 三因（内因・外因・不内外因）について－総論 外因 内因・不内外因 八綱弁証 1 八綱弁証 2 気血津液弁証 1 気血津液弁証 2 臓腑弁証 1 臓腑弁証 2 臓腑弁証 3 臓腑弁証 4 臓腑弁証 5 経脈の病証 定期試験および授業のまとめ			東郷 俊宏
2	東洋医学的身体観 1				
3	東洋医学的身体観 2				
4	蔵象学説 1				
5	蔵象学説 2				
6	蔵象学説 3				
7	蔵象学説 4				
8	蔵象学説 5				
9	気血津液 1				
10	気血津液 2				
11	臓腑経絡 1				
12	臓腑経絡 2				
13	診断論 1				
14	診断論 2				
15	定期試験				
16	病因論 1				
17	病因論 2				
18	病因論 3				
19	病因論 4				
20	病因論 5				
21	病因論 6				
22	病因論 7				
23	病因論 8				
24	病因論 9				
25	病因論 10				
26	病因論 11				
27	病因論 12				
28	病因論 13				
29	病因論 14				
30	定期試験				
教科書	『東洋医学概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等	講義において随時指導する				
成績評価基準	小テスト（随時実施）、定期試験（前学期・後学期）、出席状況を総合して判定する				
受講上の 注意事項	教科書に指定した『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）は初版から長い時間が経過しているため、学術上は不適切な部分も含まれています。講義ではその点に留意しながら聴講すること。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	経絡経穴学Ⅰ	開講時期	1年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主として経絡経穴学の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法（骨度法、同身寸法）、要穴について学習し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学習する。特に十二正経の経穴については、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるように学習を進める。さらに、鍼灸臨床で扱う疾患と経穴との関連も学習させる。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	臓腑経絡論	経穴を学ぶ上で最低限必要な臓腑論の概説			矢 瀧 裕 義
2	臓腑経絡論	経穴を学ぶ上で最低限必要な陰陽、五行論の概説			
3	意義と流注	経絡の走行を学ぶ			
4	定位と尺度	経穴を取穴するにあたり基準となる長さを学ぶ			
5	特定穴	要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ			
6	特定穴	要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ			
7	特定穴	要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ			
8	特定穴	要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ			
9	督脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
10	督脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
11	督脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
12	任脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
13	任脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
14	任脈	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
16	手太陰肺経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
17	手太陰肺経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
18	手陽明大腸経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
19	手陽明大腸経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
20	手陽明大腸経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
21	足陽明胃経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
22	足陽明胃経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
23	足陽明胃経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
24	足陽明胃経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
25	足陽明胃経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
26	足太陰脾経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
27	足太陰脾経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
28	足太陰脾経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
29	手少陰心経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
30	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書		『経穴経絡概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）			
参考書等					
成績評価基準		講義期間中におこなう小テスト、ならびに期末試験の成績をもって判定する。			
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	経絡経穴学Ⅱ	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、正経以外の経脈として十二経別・奇経八脈（任脈、督脈を除く）・絡脈・外連について学習する。絡脈についてはさらに細分化し、十五絡脈、孫絡などを理解する。外連についても細分化された十二経筋、十二皮部についての流注と走行、十二正経との関連について学ぶ。また、鍼灸臨床で扱う疾患と各経穴との関連性を知るとともに、経絡経穴学分野に関する研究の概要についても理解させ、経穴の意義を知ることのみならず、現代医学との関連性についても理解を深める。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	手太陽小腸経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			矢 瀧 裕 義
2	手太陽小腸経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
3	足太陽膀胱経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
4	足太陽膀胱経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
5	足太陽膀胱経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
6	足少陰腎経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
7	足少陰腎経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
8	手厥陰心包経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
9	手少陽三焦経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
10	手少陽三焦経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
11	足厥陰肝経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
12	足少陽胆経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
13	足少陽胆経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
14	足少陽胆経	各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教 科 書		『経穴経絡概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）			
参考書等					
成績評価基準		講義期間中におこなう小テスト、ならびに期末試験の成績をもって判定する。			
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	取穴学実習Ⅰ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕義 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、経絡経穴学Ⅰで学んだことを中心に実習する。ここでは骨度法の実習を踏まえ、各経脈に所属する経穴を取穴すると同時に、経穴名と取穴部位を関連させて学ぶ。特に取穴学実習で最も重要である奇経八脈の任脈、督脈および経絡経穴学Ⅰで学んだ一部の十二正経に所属する経穴の取穴では、骨度法や同身寸法を基準として取穴を行うため、これら骨度法や同身寸法を体表部から確認し、今後の取穴学実習の基礎を構築する。これらを踏まえた上で各経穴を取穴し、同時に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、刺鍼部位の意味を理解する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	督脈の取穴 (1)	督脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			矢 瀧 裕義 藤 本 英樹
2	督脈の取穴 (2)	督脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
3	督脈の取穴 (3)	督脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (1) を実施する。			
4	任脈の取穴 (1)	任脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の任脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
5	任脈の取穴 (2)	任脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の任脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
6	任脈の取穴 (3)	任脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (1) を実施する。			
7	手太陰肺経の取穴 (1)	手太陰肺経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陰肺経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
8	手太陰肺経の取穴 (2)	手太陰肺経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陰肺経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
9	手太陰肺経の取穴 (3)	手太陰肺経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (3) を実施する。			
10	手陽明大腸経の取穴 (1)	手陽明大腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手陽明大腸経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
11	手陽明大腸経の取穴 (2)	手陽明大腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手陽明大腸経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
12	手陽明大腸経の取穴 (3)	手陽明大腸経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (4) を実施する。			
13	足陽明胃経の取穴 (1)	足陽明胃経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足陽明胃経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
14	足陽明胃経の取穴 (2)	足陽明胃経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足陽明胃経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
15	足陽明胃経の取穴 (3)	手陽明胃経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (5) を実施する。			
教科書	1)『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）2009 2) 配布プリント				
参考書等	1)『鍼灸師・柔道整復師のための局所カラーアトラス』 北村清一郎：大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖（南江堂）1998 2)『針灸学：日中共同編集経穴篇 第2版』 天津中医薬大学：後藤学園（東洋学術出版社）2006 3)『運動療法のための機能解剖学的触診技術。上肢』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2005 4)『運動療法のための機能解剖学的触診技術。下肢・体幹』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2006				
成績評価基準	1) 授業回数の5分の4以上出席したものを対象に評価を行う。 2) 評価は、定期テストおよび小テスト、出席日数等を総合して行う。				
受講上の 注意事項	実習にあたり、Tシャツ、短パンを準備してください。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	取穴学実習Ⅱ	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、経絡経穴学ⅠおよびⅡで学んだことを中心に実習する。各経穴の部位については、取穴学実習Ⅰと同様に、体表から確認することのできる筋、腱、骨などのランドマークも併せて学習し、体表解剖・局所解剖との関連性を理解する。十二正経の各経穴の取穴後は、経絡経穴学Ⅱにおいて学習したことを中心に実習する。特に各奇経の走行や流注を体表部から確認した後、十二正経の各経穴の取穴同様に奇経を取穴し、体表解剖・局所解剖との関連性に重点を置いて、刺鍼部位の意味を理解する。その後は、経筋の走行や流注も奇経や正経と同様に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、経絡の意味を理解する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	手少陰心経の取穴 (1)	手少陰心経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陰心経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手少陰心経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陰心経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手少陰心経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (1) を実施する。 手太陽小腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽小腸経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手太陽小腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽小腸経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手太陽小腸経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (2) を実施する。 手太陽膀胱経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽膀胱経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手太陽膀胱経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽膀胱経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手太陽膀胱経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (3) を実施する。 足少陰腎経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陰腎経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足少陰腎経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陰腎経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足少陰腎経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (4) を実施する。 手厥陰心包経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手厥陰心包経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手厥陰心包経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手厥陰心包経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手厥陰心包経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (5) を実施する。 手少陽三焦経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陽三焦経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手少陽三焦経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陽三焦経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 手少陽三焦経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (6) を実施する。 足少陽胆経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陽胆経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足少陽胆経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陽胆経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足少陽胆経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (7) を実施する。 足厥陰肝経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足厥陰肝経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足厥陰肝経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足厥陰肝経脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 足厥陰肝経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (8) を実施する。 奇穴を理解し、筋・腱・骨等の奇穴の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 奇穴を理解し、筋・腱・骨等の奇穴の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。 奇穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (9) を実施する。 すべての経絡経穴の取穴を行う。			矢 瀧 裕 義 藤 本 英 樹
2	手少陰心経の取穴 (2)				
3	手少陰心経の取穴 (3)				
4	手太陽小腸経の取穴 (1)				
5	手太陽小腸経の取穴 (2)				
6	手太陽小腸経の取穴 (3)				
7	足太陽膀胱経の取穴 (1)				
8	足太陽膀胱経の取穴 (2)				
9	足太陽膀胱経の取穴 (3)				
10	足太陽膀胱経の取穴 (4)				
11	足少陰腎経の取穴 (1)				
12	足少陰腎経の取穴 (2)				
13	足少陰腎経の取穴 (3)				
14	手厥陰心包経の取穴 (1)				
15	手厥陰心包経の取穴 (2)				
16	手厥陰心包経の取穴 (3)				
17	手少陽三焦経の取穴 (1)				
18	手少陽三焦経の取穴 (2)				
19	手少陽三焦経の取穴 (3)				
20	足少陽胆経の取穴 (1)				
21	足少陽胆経の取穴 (2)				
22	足少陽胆経の取穴 (3)				
23	足少陽胆経の取穴 (4)				
24	足厥陰肝経の取穴 (1)				
25	足厥陰肝経の取穴 (2)				
26	足厥陰肝経の取穴 (3)				
27	奇穴の取穴 (1)				
28	奇穴の取穴 (2)				
29	奇穴の取穴 (3)				
30	まとめ				
教科書	1)『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）2009 2) 配布プリント				
参考書等	1)『鍼灸師・柔道整復師のための局所カラーアトラス』 北村清一郎：大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖（南江堂）1998 2)『針灸学：日中共同編集.経穴篇 第2版』 天津中医薬大学：後藤学園（東洋学術出版社）2006 3)『運動療法のための機能解剖学的触診技術.上肢』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2005 4)『運動療法のための機能解剖学的触診技術.下肢・体幹』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2006				
成績評価基準	1) 授業回数の5分の4以上出席したものを対象に評価を行う。 2) 評価は、定期テストおよび小テスト、出席日数等を総合して行う。				
受講上の 注意事項	実習にあたり、T シャツ、短パンを準備してください。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	刺鍼・施灸手技総論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、刺鍼・施灸手技および鍼灸用具に関する基礎的知識を学習する。刺鍼手技の基礎をなす刺鍼の方式（切皮の様式）、刺鍼の基本操作（前後の柔捏、押し手や刺し手の形成法等）、基本手技（17手技）を学習するとともに、鍼の基本構造（各部の名称、鍼尖の形状、種類、長さや太さ、材質等）についても理解する。施灸手技についても同様に、施灸手技の基礎をなす灸術の種類（有痕灸、無痕灸）や施灸方法（艾炷の形成方法から点火まで）を学習するとともに、材料である蓬の特徴、モグサの製法、モグサの種類、良質もしくは悪質モグサの鑑別についても理解する。				
回	テ　　マ　　お　よ　び　　内　　容				担当教員名
1	鍼灸施術の定義と意義について				高倉 伸有
2	鍼の構造と鍼管について				
3	古代九鍼について				
4	刺鍼の方式と術式について				
5	鍼施術の手技について				
6	特殊鍼法について				
7	灸の材料、もぐさの品質、灸術の種類について				
8	鍼灸施術の刺激量と個体の感受性について				
9	鍼灸療法の適応症と禁忌部位について				
10	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (1)				
11	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (2)				
12	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (3)				
13	感染症対策について				
14	総復習と重要ポイントの再確認				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう理論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎昭弘（医歯薬出版）2003				
成績評価基準	筆記試験により行う。対象は必要出席回数を満たした者とする。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸安全学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的として、 (1) 鍼灸臨床現場での感染防止対策としての感染症の基礎知識、手指・施術野の消毒法、クリーンニードルテクニック、および器具類の衛生管理の実際 (2) 低周波鍼通電装置等の鍼灸臨床に関連する管理医療機器の基礎知識と安全管理の実際 (3) 鍼灸治療の禁忌例等の過誤防止のための基礎知識 (4) 鍼灸臨床現場において生じ得る有害事象の具体例と、予防・対応策 (5) リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインをふまえて学習する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	基礎刺鍼手技実習	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼施術における刺鍼手技の基本を習得し、あわせて衛生管理についても学ぶ。刺鍼手技の基本の初期の段階では、管鍼法による刺鍼の手順と方法（前後の揉捏、押手や刺し手の形成法など）を習得する。中期段階においては、刺鍼練習器を用いて直刺、斜刺、横刺などの基本的な刺鍼方法を習得する。後期段階においては、消毒法、クリーンニードルテクニック（衛生的刺鍼法）などの衛生管理の方法を理解させ、自らの身体や学生同士による刺鍼を行い、基本的な刺鍼方法を習得する。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	授業概要の説明および鍼施術に用いる用具の紹介				菅原 正秋
2	刺鍼の手順および方法				
3	刺鍼練習機を用いた刺鍼および手洗い・手指衛生について				
4	刺鍼練習機を用いた刺鍼および用具の衛生管理について				
5	刺鍼練習機を用いた刺鍼および感染性廃棄物の処理について				
6	自身の下腿部への刺鍼および施術における諸注意について				
7	自身の下腿部への刺鍼およびクリーンニードルテクニックについて				
8	自身および他者の下腿部への刺鍼および有害事象への対処法について（その１）				
9	自身および他者の下腿部への刺鍼および有害事象への対処法について（その２）				
10	他者の下腿部への刺鍼および有害事象への対処法について（その３）				
11	他者の下腿部への刺鍼				
12	他者の前腕部および下腿部への刺鍼				
13	他者の前腕部および下腿部への刺鍼				
14	まとめ・復習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	適宜プリントを配布する。				
参考書等	特になし				
成績評価基準	実技試験、筆記試験、レポートおよび授業態度から総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	初回の授業で指導する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名		応用刺鍼手技実習	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		本科目では、身体各部（頭部・頸部・顔面部・上肢・背部・腹部・下肢）への刺鍼について実習する。また、刺鍼中の手技として17種類の手技についても実習する。加えて、身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経、内臓などの重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こすことがないように刺鍼上の諸注意を理解し、過誤を未然に防ぐ鍼施術のスキルを身につける。なお、身体各部への刺鍼では取穴学実習と関連づけ、経穴の解剖学的位置を理解し、その部位に刺鍼するようなかたちで実習を行う。				
回	テ ー マ および 内 容					担当教員名
1	授業概要の説明および1年次の復習					菅原 正秋
2	身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その1					
3	身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その2					
4	身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その3					
5	頭部の経穴への刺鍼					
6	頸部の経穴への刺鍼					
7	胸腹部の経穴への刺鍼					
8	背部の経穴への刺鍼					
9	上肢の経穴への刺鍼					
10	上肢の経穴への刺鍼					
11	上肢の経穴への刺鍼					
12	下肢の経穴への刺鍼					
13	下肢の経穴への刺鍼					
14	まとめ・復習					
15	定期試験および授業のまとめ					
教科書		適宜プリントを配布する。				
参考書等		特になし				
成績評価基準		実技試験、筆記試験、レポートおよび授業態度から総合的に評価する。				
受講上の 注意事項		初回の授業で指導する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	特殊鍼療法実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、低周波鍼通電療法（SSP、TENS 含む）、小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、良導絡などの特殊鍼法について学習する。とくに臨床上、主要な治療法である低周波鍼通電療法についての実習では、その理論と実際（筋パルス、神経パルスなど）について学び、鍼鎮痛を目的とした方法や血行動態（自律神経系）に影響を及ぼす方法などを理解する。これらの方法論を理解した上で、臨床応用が可能となるような技術（刺鍼技術や低周波治療器の取り扱い方法）を実習により習得する。				
回	テ　　ー　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	授業概要の説明および前学期の復習				菅原 正秋
2	皮内鍼および円皮鍼の実際				
3	小児鍼および灸頭鍼の実際				
4	良導絡治療の実際				
5	低周波鍼通電療法 概論				
6	低周波鍼通電療法 筋パルス その 1				
7	低周波鍼通電療法 筋パルス その 2				
8	低周波鍼通電療法 筋パルス その 3				
9	低周波鍼通電療法 筋パルス その 4				
10	低周波鍼通電療法 神経パルス その 1				
11	低周波鍼通電療法 神経パルス その 2				
12	低周波鍼通電療法 椎間関節部パルス				
13	まとめ・復習				
14	定期試験				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	適宜プリントを配布する。				
参考書等	授業の中で紹介する。				
成績評価基準	実技試験、筆記試験およびレポートにより評価する。				
受講上の 注意事項	実習室には身だしなみを整え、白衣を着用して入室すること。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	触診解剖と刺鍼手技	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	徳竹 忠司	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床において必要となる体表解剖学・局所解剖学の知識を確認しつつ、身体各部の触察について学習する。とくに臨床上重要な部位を選定し、触察することで解剖学的構造（骨、筋・神経・血管など）を理解し、触察技術を習得する。その上で、特定の部位（筋や神経の走行上）への的確に刺鍼できるようにする。その際、特に適応疾患と関連させ、その重要性を理解する。また、神経・血管の近傍への刺鍼では、その安全性について配慮できるように理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	基礎施灸手技実習	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、施灸における施灸手技の基本を習得し、あわせて消毒の実際も学ぶ。施灸手技の基本の初期段階では、もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方、点火の仕方等を習得する。中期段階においては、もぐさ燃焼温度測定機器を用いて形成した艾炷の温度を測定し、一定の大きさおよび一定の硬度で艾炷を形成させる事を習得する。後期段階においては、消毒方法を学習し、自らの体や学生同士による施灸手技の基本を実習し、施灸手技の基本を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	施灸について				矢 瀧 裕 義
2	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
3	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
4	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
5	点火の仕方				
6	点火の仕方				
7	灸温度センサーを用いての練習				
8	灸温度センサーを用いての練習				
9	灸温度センサーを用いての練習				
10	灸温度センサーを用いての練習				
11	灸温度センサーを用いての練習				
12	灸温度センサーを用いての練習				
13	灸温度センサーを用いての練習				
14	灸温度センサーを用いての練習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等					
成績評価基準	授業回数の 5 分の 4 以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	臨床施灸手技実習	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、身体各部（頭部頸部・上肢部・下肢部・背部・腹部・腰殿部）への施灸について実習する。身体各部への施灸では取穴学実習と関連づける。また身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経幹、内臓器等の重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こす事がないよう施灸上の諸注意を学習するとともに、過誤を未然に防ぐ灸技術のスキル（火傷を起こしにくい透熱灸の施灸技術など）を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	連続施灸の練習				矢 瀧 裕 義
2	連続施灸の練習				
3	連続施灸の練習				
4	知熱灸の練習				
5	知熱灸の練習				
6	知熱灸の練習				
7	身体各部位への施灸練習				
8	身体各部位への施灸練習				
9	身体各部位への施灸練習				
10	身体各部位への施灸練習				
11	身体各部位への施灸練習				
12	身体各部位への施灸練習				
13	身体各部位への施灸練習				
14	身体各部位への施灸練習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等					
成績評価基準	授業回数の 5 分の 4 以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名		応用施灸手技実習		開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		古賀 義久		授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		本科目は、焦灼灸、知熱灸、隔物灸（しょうが灸、にんにく灸、塩灸）、温灸（棒灸、間接灸）等の技術および、家伝の灸等の特殊な灸法について実習する。これらは家庭でもできる灸法であることから、一般市民に対する指導法についても習得する。					
回	テ ー マ		内 容				担当教員名
1	総論		各種応用施灸の概要				古賀 義久
2	知熱灸	1	目的・注意事項。温度センサーを用いた練習				
3	知熱灸	2	知熱灸の身体各部位への施灸練習 ①				
4	知熱灸	3	知熱灸の身体各部位への施灸練習 ②				
5	隔物灸	1	目的・注意事項。温度センサーを用いた練習				
6	隔物灸	2	隔物灸の身体各部位への施灸練習 ①				
7	隔物灸	3	隔物灸の身体各部位への施灸練習 ②				
8	隔物灸	4	隔物灸の身体各部位への施灸練習 ③				
9	温灸	1	目的・注意事項。温度センサーを用いた練習				
10	温灸	2	温灸の身体各部位への施灸練習 ①				
11	温灸	3	温灸の身体各部位への施灸練習 ②				
12	電気灸	1	目的・注意事項。温度センサーを用いた練習				
13	電気灸	2	電気灸の身体各部位への施灸練習 ①				
14	焦灼灸・打膿灸		目的・注意事項。温度センサーを用いた練習				
15	定期試験およびまとめ						
教科書		『はりきゅう実技 基礎編』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）					
参考書等		『図解鍼灸臨床手技マニュアル』（医歯薬出版） 『はりきゅう理論』（医道の日本社）					
成績評価基準		授業回数の 5 分の 4 以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。					
受講上の 注意事項		実習にあたり T シャツ、短パンを準備してください。					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸施術と運動法	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	藤井 亮輔	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床において、臨床効果を高めるために、鍼灸治療の補助的な運動法や患者に対する指導法として用いる運動法の意義、運動法を行う際の適応と禁忌、運動法の実践について学習する。内容は、可動域訓練、ストレッチ、筋力増強運動などで、整形外科疾患、神経性疾患、慢性疼痛性疾患などから主要な疾患や症状を取り上げ、実習する。特に、腰痛、肩こり、五十肩、変形性膝関節症など鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患や症状について、鍼灸臨床に応用できるようにするとともに、患者に説明し、指導できるようにする。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	運動療法の基礎	身体の基本面、運動軸、関節運動の表現法など、運動療法を行う上で必須の知識を体験的に学ぶ。			藤井 亮輔
2	関節の構造と機能（上肢）	運動療法の基礎として上肢帯及び上肢の主な関節の構造と機能を学習する。			
3	関節の構造と機能（下肢）	運動療法の基礎として下肢帯及び下肢の主な関節の構造と機能を学習する。			
4	上肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法	肩関節、肘関節、手関節の運動制限に対する ROM-T と他動的可動域訓練法の実践を学習する。			
5	下肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法	股関節、膝関節、足関節の運動制限に対する ROM-T と他動的可動域訓練法の基本を学習する。			
6	関節運動学の基礎	関節モビライゼーションに必要な関節運動学に関する基本事項を学習する。			
7	主な関節に対する関節モビライゼーションの実践	肩関節、膝関節などに対する関節モビライゼーションの実践を体験的に学習する。			
8	筋力評価の基礎と実際	徒手筋力検査（MMT）の考え方を解説し、上肢と下肢の主な筋に対する評価の実践を学習する。			
9	筋力低下に対する運動療法の実際	上肢及び下肢の筋力低下に対する筋力増強訓練の実践を学習する。			
10	肩・肘の痛みに対する運動療法と鍼灸療法	五十肩やテニス肘など上肢の疼痛性疾患に対する運動療法と鍼灸療法の実践を学習する。			
11	腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼灸療法（Ⅰ）	腰痛や坐骨神経痛に対する運動療法と鍼灸療法の複合療法の実践を学習する。			
12	腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼灸療法（Ⅱ）	膝 OA など膝の痛みに対する運動療法と鍼灸療法の複合療法の実践を学習する。			
13	肺理学療法の基礎と実際	呼吸器の構造と機能に関する知識を踏まえ、慢性呼吸器疾患に対する肺理学療法の実践を学習する			
14	片麻痺の維持期リハビリテーション（Ⅰ）	脳卒中片麻痺に対する回復段階評価と維持期リハの実践を、歩行訓練を中心に学習する。			
15	片麻痺の維持期リハビリテーション（Ⅱ）	脳卒中片麻痺に対する維持期リハの実践を、移乗動作や介助方法を中心に学習する。			
教科書					
参考書等					
成績評価基準	①実習中心の科目なので出席を重視する。②レポート及び授業態度も併せ総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	解剖学（運動器）、運動学に関する知識を基礎とした臨床に直結する科目なので、関連領域の				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、まず鍼灸刺激による生体の反応についてこれまでに国内外で報告された研究成果を理解できることを目標に学習をすすめる。鍼灸刺激が各種の生体機能に及ぼす影響（鎮痛効果・循環改善効果・筋緊張緩和効果・生体防御効果等）を示した報告は数多く存在する。これらの内容を理解するために必要な神経生理学を中心とした各種基礎知識を学習する。その上で鍼灸治療の作用機序について、それまでに学んだ知識をふまえて理解する。更に、今後の鍼灸治療に必要な基礎的な研究についても理解を深める。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	神経系の基礎 (1)	鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎 感覚の分類と体性感覚 皮膚受容器 神経線維の分類 脊髄の概要 伝導路（後索路・脊髄視床路） 痛みの分類 ゲートコントロール理論 鍼鎮痛の方法 鍼鎮痛のメカニズム 鍼鎮痛のメカニズム 鍼鎮痛のメカニズム 自律神経系の概要 交感神経 交感神経 副交感神経 体性神経反射 鍼刺激と体性反射 自律神経反射 鍼と自律神経反射 鍼と自律神経反射 炎症と免疫系 サイバネティックス学説 ストレス学説 レイリー現象・圧発汗反射			高倉 伸有
2	神経系の基礎 (2)				
3	神経系の基礎 (3)				
4	神経系の基礎 (4)				
5	神経系の基礎 (5)				
6	神経系の基礎 (6)				
7	鍼灸治効の基礎 (1)				
8	鍼灸治効の基礎 (2)				
9	鍼灸治効の基礎 (3)				
10	鍼灸治効の基礎 (4)				
11	鍼灸治効の基礎 (5)				
12	鍼灸治効の基礎 (6)				
13	鍼灸治効の基礎 (7)				
14	前学期の復習				
15	期末試験および授業のまとめ				
16	鍼灸の一般治効理論 (1)				
17	鍼灸の一般治効理論 (2)				
18	鍼灸の一般治効理論 (3)				
19	鍼灸の一般治効理論 (4)				
20	鍼灸の一般治効理論 (5)				
21	鍼灸の一般治効理論 (6)				
22	鍼灸の一般治効理論 (7)				
23	鍼灸の一般治効理論 (8)				
24	鍼灸の一般治効理論 (9)				
25	生体防衛に及ぼす鍼灸刺激の影響				
26	関連学説 (1)				
27	関連学説 (2)				
28	関連学説 (3)				
29	後学期の復習				
30	期末試験および授業のまとめ				
教科書	『鍼灸理論』（東洋療法学校協会編）				
参考書等	標準生理学				
成績評価基準	筆記試験により行う。対象は必要出席回数を満たした者とする。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論演習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸刺激が生体機能に影響を及ぼすことを示した報告をテーマとして取り上げ、学生はそれらの要点をまとめて発表することを通して鍼灸の治効機序を理解する。テーマの選定やまとめに必要な各種文献の検索方法も併せて学び、学生が自主性をもって学びたい報告を検索し、要点の発表を実施できるようにする。発表形式はグループ発表とし、発表後は、学生同士の討論を行う。各グループで数編の報告をした後、それらを総合し、各グループで検討した鍼灸の治効機序を発表し、個別の報告発表と同様に学生同士の討論を行う。 (高倉 伸有・木村 友昭)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論基礎実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸治効理論で取り上げた報告から実習に適切な課題を精選し、これらについて小グループによる追試的な実験実習を行う。このことを通して、科学における基本概念のひとつである再現性についてを理解する。また同様の実験をすることにより、研究目的に応じた各種の実験手法の適応と限界についてを学ぶ。このように実際に鍼灸刺激の生体に及ぼす効果を実験により体験させ、鍼灸治療の効果に対する実証的な態度を習得する。 (高倉 伸有・木村 友昭)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	最新鍼灸治効理論演習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、最新の鍼灸に関する臨床および基礎研究論文を教材として呈示し、現在、どのような研究が行われているのか、またその研究に至るまでの経緯等を学ぶ。鍼灸治効理論演習同様に小グループを編成して呈示された研究論文の経緯や要点を発表し、その後は、学生同士の討論を行う。学生同士の討論を通してディスカッションの能力を習得する。 (高倉 伸有・木村 友昭)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では中医診断学の基本を学習する。特に基本的な四診法（望診・聞診・問診・切診）について学習するとともに、動画などを用い、演習ならびに小グループでの実習を通じて、各診断技術を実践的に習得する。とりわけ、鍼灸臨床の場で有用だと思われる耳鍼・手鍼・眼鍼・小児鍼の治療に関連した中医眼診法・小児指紋診法・耳穴診断法などについても提示する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	中医学とその診療の特徴	中医学と鍼灸医療との関係、中医診断学の特徴			戴 昭宇
2	望診 1	全身の望診（神・色・形・態の把握）			
3	望診 2	舌診・舌質の望診とその実習			
4	望診 3	舌診・舌苔の望診とその実習			
5	望診 4	耳穴診断の概要、演習と実習			
6	望診 5	耳穴治療学の概要、小児指紋診法			
7	望診 6	眼診と眼鍼療法の概要			
8	切診 1	脈診の概要、実習			
9	切診 2	脈診と按診の応用、実習			
10	切診 3	腧穴診断の現状ならびにその応用			
11	聞診、問診 1	聞診および基本情報の問診			
12	問診 2	疼痛の問診とそれに基づいた診断			
13	問診 3	系統的問診から情報分析			
14	四診合参	中医カルテと四診の総合的応用			
15	定期試験	定期試験及び授業のまとめ			
教科書	『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）				
参考書等	『鍼灸学・基礎編』（劉公望ら編集、東洋学術出版社）、他は随時に提示する				
成績評価基準	数回の小テストとレポート、定期試験、出席状況を総合して判定する				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	演習・実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、四診（望診・聞診・問診・切診）の学習内容を踏まえ、中医学的弁証スタイルの病態把握法（病因弁証・八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・経絡弁証など）について学習する。とりわけ「証」という概念とその構成要素、弁証の意義とその方法・手順について、反復した症例の演習と実習を通じて、逐次に解説して習得する。また、最近の保健医療における「未病治」という課題に対しても、中医学的診察から病態判断に至るまでの方法論を提示する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	弁証総説	証と弁証、弁病について			戴 昭宇
2	病因弁証	病因理論、病因弁証とその演習			
3	八綱弁証	症例からみた八綱弁証とその演習			
4	気血津液弁証	気血津液理論、気血津液弁証とその演習			
5	臓腑弁証 1	心、小腸の生理病理と弁証演習			
6	臓腑弁証 2	肺、大腸の生理病理と弁証演習			
7	臓腑弁証 3	脾胃の生理病理と弁証演習			
8	臓腑弁証 4	肝胆の生理病理と弁証演習			
9	臓腑弁証 5	腎、膀胱の生理病理と弁証演習			
10	経絡弁証 1	経絡理論、経絡弁証の概要			
11	経絡弁証 2	経絡弁証の臨床応用演習			
12	六経弁証	六経弁証の概要と鍼灸臨床における応用			
13	衛気営血弁証と三焦弁証	衛気営血弁証・三焦弁証の概要とその応用			
14	未病における中医学診断	体質と個体特性、未病（半健康状態）に対する中医診断			
15	定期試験と授業のまとめ	定期試験及び授業のまとめ			
教 科 書		『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）			
参考書等		『鍼灸学・基礎編』（劉公望ら編集、東洋学術出版社）、他はその都度提示する			
成績評価基準		数回の小テストとレポート、定期試験、出席状況を総合して判定する			
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学演習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、中医診断学講義、実習の内容を踏まえ、四診による診断情報の収集から、弁証による治療方針の決定までのプロセスを習得し、臨床実習に対応できる診断能力を養うことを目的とする。すなわちまず中医学的なカルテの概要、構成を理解し、その上で疾患ごとに代表的な症例を呈示し、これらに対する弁証診断の演習を通じて、四診から弁証による治療方針決定までのプロセスを自分自身でできるようになるまで学習する。さらに、代表的な症例を呈示して、その症例についてどのような病証が立てられるか、弁証のプロセスを理解するとともに弁証の基本的な診察能力を習得する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸古典診断学		開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	松本 弘巳		授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本の伝統的な古典に基づく鍼灸治療について学習する。古典医学である素問・難経について現代の鍼灸臨床の視点から解説し、理解を深める。経絡経穴経筋、疾病観、脈診、望診について学習すると共に、特に、日本の鍼灸治療における代表的な診断法である腹証について、基礎から臨床までの診察治療体系について実習も交えて学習する。更に、古典に見られる刺鍼技術についても実習を交えて学習する。					
回	テ　　マ	内　　　　容				担当教員名
1	日本の鍼灸	日本の鍼灸医学がほかの国の鍼灸と違う部分。そうなった経過と現状。診察法の特徴と限界。鍼灸臨床と東西医学。日本の鍼灸医学と中医学－鍼灸の特徴と限界。時間が許されれば頭痛治療の現状を紹介してみたい。				松本 弘巳
2	素問・靈樞以前の医学の形成	素問・靈樞医学の形成に影響を与えた要因。古典医学以前の思想と医学理論の展開。局所と全体治療、胃之気・脾胃論、医学古典の学習法。中国思想 気・陰陽・中・和・過・不及・邪などの語句について。時間が許されれば頸肩腕痛治療 (1) の現状を紹介してみたい。				
3	『素問・靈樞』の理解 (1)	この医学体系を形成したもとの思考・哲学はどのようなものであったか。その現代的な意義。気、陰陽、三陰三陽、五行、時間が許されれば頸肩腕痛治療 (2) の現状を紹介してみたい。				
4	『素問・靈樞』の理解 (2)	養性、五藏六腑、経絡、臓象、血気精神。多く見られた症状……外感による風・痺・痿・厥・熱……。時間が許されれば肩こり治療の現状を紹介してみたい。				
5	経絡経穴経筋 (1)	経絡・経穴・経筋などの概念。(中国における経絡介証をどのようにうけとめるか?) その構造や機能、今日的な活用法について。時間が許されれば五十肩治療 (1) の現状を紹介してみたい。				
6	経絡経穴経筋 (2)	紀元前の漢墓から出土した資料などから考察する。経絡 経穴 経筋 血気について理解を深める。時間が許されれば五十肩治療 (2) の現状を紹介してみたい。				
7	病気 (1)	西洋医学における疾病や診断などの考え方を参考にしながら進める。邪、十二邪、虚実、陰陽や三陰三陽と症候、時間が許されれば腰痛治療の現状を紹介してみたい。				
8	病気 (2)	五藏六腑や五体（皮肉脉筋骨）の病気。病気の予後推定、経過観察……などについて調べる。そのほか特殊な病気や先天的な疾患について。時間が許されれば腰下肢痛治療の現状を紹介してみたい。				
9	診察法－1 脈診	東洋医学（鍼灸）の中で、ほかの診察法より重要視された脈診は人の生きさを診る、病気より病人を診るといわれる。脈診法の意義、脈診法の種類、気・呼吸・体温と脈、脈診と治療について学習する。病人を診る——気・呼吸・体温。時間が許されれば人迎脈診の具体的な方法をを紹介してみたい。				
10	診察法－2 望診	望診は脈診とともに最も関心のある“気”を診る診察法として扱われた。望診の区分、望診の目的別による活用。また、中国では温病学派が勃興してから弁舌驗齒を重視したので舌診の内容が発展した。舌と舌苔、その神色形態について学習する。時間が許されれば望診の具体的な方法をを紹介してみたい。				
11	診察法－3 腹診 (1)	西洋医学による腹診法の概略 →（東洋医学（鍼灸）の腹診の理解のために）時間が許されれば腹診の具体的な方法をを紹介してみたい。				
12	診察法－3 腹診 (2)	西洋医学における腹診法とは違った立場から腹診が行なわれたのでその目的・特徴について検討する。また、腹診の活用の仕方と特徴について、臓象と腹診、腹診と背診、腹診と治療について検討学習する。時間が許されれば絞扼性神経障害治療の現状を紹介してみたい。				
13	刺鍼技術 (1)	中国と日本の刺鍼技術の変遷と現状・新たな流れについて。生体反応を治療力に導くために前処置・切皮・進鍼・催気＝気至＝得気・退鍼・抜鍼・後処置などの操作を感受性に合わせて行ない、始めて有効な技術となる。時間が許されれば膝関節治療 (1) の現状を紹介してみたい。				
14	刺鍼技術 (2)	刺鍼の深さと針解篇の特殊鍼法（5 臓 9 変 12 節）三陽の刺鍼法について学習する（これは合わせて治療間隔にも及ぶ内容がある）。刺鍼技術の変遷・生体反応・感受性について。時間が許されれば膝関節痛治療 (2) の現状を紹介してみたい。				
15	東・西両医学を活かす	東洋医学は治療経験を分類して実践のための指針を体系づけることに主眼を置いて発展してきた、いわば実学の立場の特殊性が現われているが、現代では、さらに病態の把握、鍼灸の適応、予後推定、治療計画、患者への説明、生活指導、経過観察あるいは生活の質（QOL）が改善されているかなどについての配慮も大切である。鍼灸古典診断学の最後の授業なので併せて生徒からの質問に答えたい。				
教科書		各授業ごとにプリントを配布して進める。				
参考書等		『鍼灸臨床のための素問・靈樞医学』（松本弘巳著。たにぐち書店）を資料にする。				
成績評価基準		レポートによる評価を行う。現代に生かされる古典医学をどこまで理解されたかが大切である。				
受講上の 注意事項		必要に応じて実習を行うので、できれば白衣着用が望ましい。あまりきちっとしすぎた衣類では実習に耐えられないからである。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	東洋医学古典講読	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、東洋医学の基本的な古典文献資料の読解を通じ、二千年以上の歴史をもつ東洋医学の基礎理論、診断体系および疾病観、身体観について理解を深めることを目的とする。具体的には、中国の古典文献を読むための基礎的な知識（辞書・各種工具書の使用法、古典漢語の文法体系）を習得した後に、現在の東洋医学の成り立ちを知る上で重要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『十四経發揮』）を精選し、原文（白文）で読むことができるように指導を行う。また東洋医学の成立には、中国古代の思想文化が大きく関与していることから、これらの事項についても、関連する文献の読解を行い、東洋医学の理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	内科臨床鍼灸学Ⅰ	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	野口 栄太郎	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に呼吸器・循環器系疾患、消化器系疾患について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	内科臨床鍼灸学Ⅱ	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柏谷 大智	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に自己免疫疾患、アレルギー疾患、血液・造血器疾患について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	神経内科臨床鍼灸学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山口 智	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床と関連の深い、神経内科疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、神経変性疾患（パーキンソン病など）、機能性疾患（頭痛、神経痛、顔面神経麻痺など）について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では整形外科で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてはシミュレーション実習を行う。本科目は主として頸肩腕痛と腰下肢痛についてオムニバス方式で行う。 （坂井 友実／15回）頸肩腕痛を呈する頸部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群などである。 （山口 智／15回）腰下肢痛を呈する腰部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、いわゆる腰痛症、骨粗鬆症などである。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅱ	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では整形外科で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。本科目は四肢の関節疾患についてオムニバス方式で行う。 （水出 靖／15回）肩関節、肘関節、手関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は肩関節周囲炎、肘部管症候群、テニス肘、手根管症候群などである。 （野口 栄太郎／15回）股関節、膝関節、足関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は変形性股関節、変形性膝関節、足根管症候群などである。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	理学的検査法実習Ⅰ	開講時期	2年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として頭頸部、上肢部の理学的検査法を取り扱う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	頸部整形外科疾患と理学的検査	頸椎症、胸郭出口症候群、病態把握、診察法			坂井 友実
2	頸部整形外科疾患と理学的検査	各種の理学テストの解説と実際①			
3	頸部整形外科疾患と理学的検査	各種の理学テストの解説と実際②			
4	頸部整形外科疾患と理学的検査	ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①			
5	頸部整形外科疾患と理学的検査	ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②			
6	頸部整形外科疾患と理学的検査	総括（理学テストと神経学検査法）			
7	腰部整形外科疾患と理学的検査	腰椎椎間板ヘルニア、病態把握、診察法			
8	腰部整形外科疾患と理学的検査	各種の理学テストの解説と実際①			
9	腰部整形外科疾患と理学的検査	各種の理学テストの解説と実際②			
10	腰部整形外科疾患と理学的検査	ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①			
11	腰部整形外科疾患と理学的検査	ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②			
12	間欠跛行と理学的検査	神経性と血管性、病態、診察法①			
13	間欠跛行と理学的検査	神経性と血管性、病態、診察法②			
14	腰下肢痛と理学的検査	総括（理学テストと神経学的検査法）			
15	定期試験及び授業まとめ				
教科書	適宜資料を配布する。				
参考書等	1)『標準整形外科学』 鳥巢武彦、国分正一、総編集（医学書院） 2)『頸部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修（南江堂） 3)『腰痛診療のコツ』 菊地臣一（永井書店）				
成績評価基準	定期試験に授業態度、出席状況を合わせて総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	・骨、筋肉、神経、血管などの解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。 ・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	理学的検査法実習Ⅱ	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として体幹部、腰臀部、下肢部の関節の理学的検査法を取り扱う。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	総論	関節の診察の概要、理学的検査の意義と信頼性			水出 靖
2	測定法 (1)	関節可動域 (ROM)、四肢長および周径			
3	測定法 (2)	徒手筋力検査法 (MMT)			
4	肩関節の検査法 (1)	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①			
5	肩関節の検査法 (2)	各種の理学テスト②			
6	肩関節の検査法 (3)	各種の理学テスト③			
7	肘関節の検査法 (1)	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①			
8	肘関節の検査法 (2)	各種の理学テスト②			
9	手および指関節の検査法	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト			
10	股関節の検査法	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト			
11	膝関節の検査法 (1)	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①			
12	膝関節の検査法 (2)	各種の理学テスト②			
13	膝関節の検査法 (3)	各種の理学テスト③			
14	足関節の検査法	主な疾患、病態把握、各種の理学テスト			
15	定期試験及びまとめ				
教科書	適宜資料を配布する。				
参考書等	1.『標準理学療法学 理学療法評価学』 内山靖編 (医学書院) 2006 2.『目でみる運動機能療法』 竹内義亨、澤田規 (南光堂) 2005 3.『エビデンスに基づく整形外科徒手検査法』 柳澤健、赤坂清和監訳 (エルゼビアジャパン) 2007				
成績評価基準	定期試験の結果とともに出席状況・授業態度などを総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	・解剖学的知識がベースとなるので事前に復習しておくこと。 ・なるべく当該部位の露出が可能な服装で出席すること。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	臨床効果の評価法	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床で遭遇することの多い疾患や症状、ADL（Activity of daily living；日常生活動作）・QOL（Quality of life；生活の質）に関する評価尺度や治療効果判定基準について、その目的、種類・内容・使用法・判定方法を学習し、これらを用いた評価を行うことのできる能力を習得する。適切な臨床判断をするためには、臨床効果の正確な評価が不可欠である。授業では、提示された事例を実際に評価する演習を行うことで、より実践的な能力を身につける。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、眼科・耳鼻科・歯科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように理解を深める。また、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づく治療法について学習する。更に、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。本科目はオムニバス方式で行う。 （安野 富美子／3 回）眼科領域の鍼灸治療。眼精疲労、仮性近視、緑内障など。 （粕谷 大智／6 回）耳鼻科領域の鍼灸治療。耳鳴、難聴、アレルギー性鼻炎など。 （岡村 興一／6 回）歯科領域の鍼灸治療。歯痛、顎関節症、歯肉炎など。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小俣 浩	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、泌尿器科・皮膚科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	レディース臨床鍼灸学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、東西医学からみた女性の身体、女性のライフサイクルに応じた鍼灸治療、鍼灸基礎研究の現状について学習する。特に、鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態把握および東洋医学的な病証について学習するとともに鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。また、鍼灸治療の効果の評価と研究の現状についても学ぶ。 （安野 富美子／8 回）婦人科領域の鍼灸治療：月経困難症、月経不順、不妊、更年期障害、および冷え性などの不安愁訴。 （辻内 敬子／7 回）産科領域の鍼灸治療：逆子、乳汁分分泌不全、つわり、和痛分娩など。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	疼痛管理臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、疼痛管理に必要な知識として痛みの概念および評価と麻酔科・ペインクリニック領域で取り扱う疾患（Complex regional pain syndrome、帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、癌性疼痛など）の概念、原因、症状、現代医学的治療法（神経ブロック療法など）について学習する。実習では、鍼灸で取り扱うことの多い難治性の慢性疼痛疾患や病態に対する評価法と鍼灸治療法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	スポーツ鍼灸学Ⅰ	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	藤本 英樹 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ傷害の概念、各種疾患や症状についての原因、症状、診察方法および鍼灸治療の実際を中心に学習する。スポーツ鍼灸学Ⅰでは、代表的なスポーツ傷害として、特に日常的によく見られるスポーツ傷害を部位別に取りあげ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。ここでは、上肢、体幹部の代表的なスポーツ傷害（テニス肘、野球肩等）について学習する。 (宮本 俊和・藤本 英樹)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	スポーツ鍼灸学Ⅱ	開講時期	4年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	藤本 英樹 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ鍼灸学Ⅰの内容に続いて、下肢の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、ジャンパー膝等）について取り上げ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。鍼灸の目的は、発生した症状や病態の治療以外に、傷害を予防するためのコンディショニング、競技能力の向上など様々である。これらに加え、基本的なスポーツ傷害におけるテーピング法についても学習する。 （宮本 俊和・藤本 英樹）				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	老年臨床鍼灸学	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している老年者の鍼灸治療のあり方について学習する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。また、高齢者を取り巻く社会的環境や高齢社会における鍼灸医療の役割について理解する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	日本伝統鍼灸治療学	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	岡田 明三	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本における伝統的な鍼灸治療、特に戦前の日本で興った「経絡治療」について総合的に学習する。経絡治療の歴史から日本の鍼灸治療の特徴を学ぶ。また、経絡治療における蔵象および病理や、基礎となる四診（望診・聞診・問診・切診）、特に脈診や腹診、切経などについて実習を交えて学習する。これによって、臓腑経絡・虚実寒熱の理論に基づく病態把握、およびそれに基づく鍼灸治療体系について述べられることを目標とする。更に経絡治療に特徴的な運鍼法についても、より臨床に近い形での実技実習を通して学びを深めていく。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	中医鍼灸治療学	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	郭 珍	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、中国の鍼灸治療について学習する。中医鍼灸学の特徴としての弁証選穴、弁経選穴を取り上げ、その基礎から臨床までの診療体系について演習を通じて学習する。特に中国鍼毫鍼の刺法、得気の意義、候気法、催気法、行気法などの基本技術、補瀉基本手技などについて実習を交えて習得する。さらに三稜鍼、皮膚鍼、皮内鍼、頭皮鍼などの応用について、適応範囲、基本操作、注意事項などをシミュレーション実習により学習させる。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	医療面接	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基本的臨床技能として OSCE（客観的臨床能力試験）の中で重要な位置にある医療面接の目的、意義、技法を学習する。その主な内容は、医療面接と問診の違い、医療面接に必要な態度と技法、医療面接とコミュニケーション、質問法、患者の解釈モデルの呈示、患者への説明と教育、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、これらの医療面接の基本的な理論を学んだ後、学生同士が患者役と面接者役となってロールプレーを行うシミュレーション実習を行う。 （木村 友昭・坂井 友実・水出 靖・古賀 義久・菅原 正秋）				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	附属鍼灸センター実習Ⅰ	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。問診、診察による病態把握や病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の評価等の実際を見修する。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部分を担うことによって鍼灸師および医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。 （水出 靖・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・東郷 俊宏・古賀 義久・菅原 正秋・藤本 英樹・矢畠 裕義）				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	附属鍼灸センター実習Ⅱ	開講時期	4年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。鍼灸治療センターに来所する患者に対して問診、診察の実際を行い、病態の把握、鍼灸治療の適否の判断、病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の実際、評価等を教員の指導の下に行う。これら一連の診療行為を行うことによって鍼灸師および医療人としての自覚を更に高めるとともに、自立して鍼灸臨床が行える資質を養う。 (水出 靖・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・東郷 俊宏・古賀 義久・菅原 正秋・藤本 英樹・矢野 裕義)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	カンファレンス (症例検討)	開講時期	4年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、附属鍼灸治療センターで実際に治療した患者について症例を報告し、討論する。実際に治療した患者の問診や身体診察によって得られた所見を基にプレゼンテーションを行い、考察した病態を中心に討論する。また、治療プランの立て方、評価方法、得られた結果の考察についても討論する。このことを通して、症例報告の重要性とその意義について学ぶ。加えて、鍼灸臨床における問題点の把握の仕方と問題解決の方法についても学習する。 (木村 友昭・坂井 友実・安野 富美子・水出 靖・古賀 義久)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	症例報告の書き方・発表の仕方	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、症例報告の書き方、スライドの作成の仕方、発表の仕方などについて学習する。症例報告の書き方については、独自に作成した書式に従い、附属鍼灸治療センターで担当した症例をまとめ、発表し、学生同士で討論を行う。スライドの作成の仕方、発表の仕方については、情報リテラシーⅠ、Ⅱで学んだ技法を活かし、症例報告のひな形の例示を通して学ぶところから始め、学生自らがPCを活用して発表を行う。このことを通して症例報告の仕方を学ぶと共に、学会発表できる能力を養う。 (木村 友昭・坂井 友実・安野 富美子・水出 靖・古賀 義久)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	鍼灸医学総合演習Ⅰ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	演習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の基礎科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、人体の構造と機能、公衆衛生学、病理学、鍼灸医学系では経絡経穴学、鍼灸手技総論などを中心に、主要事項を取り上げ各科にまたがり総合的に演習を行う。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	鍼灸医学総合演習Ⅱ	開講時期	4年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	演習	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の臨床科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、内科学、整形外科、スポーツ医学、産婦人科学、泌尿器科、耳鼻科、眼科、皮膚科、鍼灸医学系では現代医学系の科目に準じた内容について、主要事項を取り上げ、総合的に学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	学外関連施設実習 (見学実習)	開講時期	4年次・集中	必修／選択／自由	必修
担当教員名	古賀 義久 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、学外の大学附属病院などの現代医学の医療施設で行われている鍼灸の見学実習、および介護鍼灸、レディース鍼灸、中医鍼灸などの特色ある鍼灸治療院での見学実習を行う。医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。また、開業鍼灸の現場を見学し、開業鍼灸師の役割を理解する。 (古賀 義久・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・水出 靖・菅原 正秋・藤本 英樹)				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実 他	授業形態	演習	単位数／時間数	4単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、学生自身による研究活動によって研究テーマについてのレポート（卒業論文）を作成する。この過程を通して、研究テーマに関する文献検索や資料の収集の仕方、実験や調査研究の方法、結果のまとめ、考察について学習するとともにそれらを文章化する能力を養う。研究テーマは、調査研究、文献研究、実験研究、症例研究など鍼灸に関連したものとし、担当教員の指導のもとに実施する。 （坂井 友実・小泉 政啓・高倉 伸有・高野 一夫・田中 滋城・西村 桂一・安野 富美子・木村 友昭・戴 昭宇・東郷 俊宏・水出 靖・古賀 義久）				

2 .

柔道整復学科

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名	栄養学 (スポーツ栄養学を含む)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	23年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	健康を保持・増進し、疾病を予防するためには、個人がそれぞれの生活習慣、とりわけ食生活を見直して生活の質を向上させていくことが必要であり、そのためには食品、食物、栄養に関する正しい知識をもち生活に活かすことが不可欠である。栄養学の講義を通して健康維持と栄養、疾病と栄養との関連を学ぶ。特に、それらに関連する基礎的事項として摂食、消化吸収、種々の栄養素あるいは機能性非栄養成分の栄養的特徴と体内での働きについて学ぶ。さらに、アスリートの栄養摂取・栄養教育などについても学習する。				

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名	薬物療法学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復学の基本となる整形外科などの医療分野における治療法を理解する上で、薬物療法学は重要な知識となる。まず、基礎薬理学として薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子、薬物中毒について学ぶ。次いで、薬物療法として、抗炎症薬、鎮痛薬、自律神経系に作用する薬物、運動神経・知覚神経系に作用する薬物などを主とする治療薬について学習する。さらには柔道整復治療で必要とする消毒薬について、また新薬の開発についても学ぶ。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	薬理学とは				荒井裕一郎
2	総論：薬物の作用点				
3	総論：薬物の生体内運命				
4	総論：薬効に影響を与える因子				
5	総論：薬物の毒性、新薬の開発				
6	自律神経系に作用する薬物：神経系の基礎				
7	自律神経系に作用する薬物：副交感神経系に作用する薬物				
8	自律神経系に作用する薬物：交感神経系に作用する薬物				
9	体性神経系に作用する薬物：運動神経薬、知覚神経薬				
10	中枢神経系に作用する薬物：抗パーキンソン病薬、抗うつ薬など				
11	循環器系、泌尿器系に作用する薬物				
12	鎮痛薬・抗炎症薬				
13	鎮痛薬・抗炎症薬				
14	骨・関節に作用する薬物、皮膚に適用する薬物、消毒薬などについて				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『シンプル薬理学』 野村隆英：石川直久（南江堂）				
参考書等	『グッドマン・ギルマン 薬理書』上、下 高折ら（廣川書店） 『NEW 薬理学』 田中、加藤（南江堂）				
成績評価基準	定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名	生化学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	医療の分野においては、生体の様々な生命現象を分子レベルで考察する生命科学を学ぶ必要がある。まず、生体を構成する生体分子をを理解し、タンパク質、糖質、脂質、酵素、ビタミン、ホルモンなどの構造と役割について学ぶ。次いで、生体分子の動的代謝として糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、呼吸の代謝、ホルモンの代謝、核酸の代謝などを学習する。さらに、筋収縮の生化学や脳の生化学などについても学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	解剖学Ⅰ (機能解剖学を含む)	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	佐藤 達夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅰでは解剖学概説および系統解剖学のうち神経系と感覚器を学ぶ。神経系では中枢神経系と末梢神経系に分け、中枢神経系は脳と脊髄について、末梢神経系は脳神経、脊髄神経および自律神経系について学ぶ。また感覚器では外皮(皮膚など)、視覚器、聴覚器、平衡覚器、味覚器および嗅覚器について学ぶ。さらに運動器の解剖と機能についても学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	総論				佐藤 達夫
2	脊髄神経				
3	頸神経叢				
4	腕神経叢				
5	上肢の神経				
6	上肢の神経				
7	腰神経叢				
8	仙骨神経叢				
9	下肢の神経				
10	下肢の神経				
11	脳神経				
12	脳神経				
13	模型観察				
14	脳神経				
15	定期試験				
16	自律神経				
17	自律神経				
18	脊髄				
19	脳				
20	脳				
21	脳				
22	脳				
23	模型観察				
24	感覚器				
25	感覚器				
26	運動器				
27	運動器と神経（上肢）				
28	運動器と神経（下肢）				
29	運動器と神経（体幹）				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書		『解剖学』 岸清、石塚寛編 全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）			
参考書等		『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫：坂本裕和（医歯薬出版）			
成績評価基準		定期試験、小テスト、出席状況及び授業態度を総合的判断し、評価する。			
受講上の 注意事項		柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要がある。			

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	解剖学Ⅱ		開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦		授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅱでは循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌器について学ぶ。循環器系では心臓、脈管など、消化器系では消化管、肝臓など、呼吸器系では喉頭、気管・気管支、肺など、泌尿器系では腎臓、膀胱など、生殖器系では男性・女性生殖器、内分泌器では内分泌腺の位置、構造、分泌するホルモンなどについて学ぶ。					
回	テ　　マ	内　　　容				担当教員名
1	総論	組織・発生				木村 明彦
2	循環器	総論 心臓				
3	循環器	心臓 動脈				
4	循環器	動脈				
5	循環器	動脈				
6	循環器	静脈				
7	循環器	リンパ 脾臓 造血臓器				
8	中間試験	試験および授業のまとめ				
9	消化器	総論				
10	消化器	口腔・咽頭 食道				
11	消化器	胃				
12	消化器	小腸 大腸				
13	消化器	肝臓				
14	消化器	膵臓 腹膜				
15	期末試験	試験および授業のまとめ				
16	呼吸器	鼻腔 喉頭				
17	呼吸器	気管・気管支				
18	呼吸器	肺 縦隔				
19	内分泌器	総論				
20	内分泌器	下垂体・松果体				
21	内分泌器	甲状腺 副腎				
22	中間試験	試験および授業のまとめ				
23	泌尿器	腎臓				
24	泌尿器	尿管 膀胱 尿道				
25	総論	尿道				
26	循環器	総論				
27	循環器	男性生殖器				
28	循環器	女性生殖器				
29	循環器	女性生殖器				
30	循環器	試験および授業のまとめ				
教 科 書		『解剖学』 全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）				
参考書等		『コメディカルのための専門分野テキスト 解剖学』 五味・岸編集（中外医学社） 『解剖学問題集5073』 五味敏昭ほか（犀書房） 『柔整・鍼灸・アマ指・看護・理作 国家試験問題（解剖学・生理学）10年間』 成瀬・木村 監修（犀書房）				
成績評価基準		出席状況、授業態度、課題レポート、定期試験により総合評価する。				
受講上の 注意事項		予習課題（1 週前に提示）を講義前に提出すること（評価対象）。プレテスト・ポストテストを非通知で行うことがあります（評価対象）。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	解剖学実習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の解剖学はさわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。解剖学実習では運動器解剖学（上肢・下肢・体幹の骨、関節、靱帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について各種模型を使用して理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習（組織学実習）を行う。 （成瀬 秀夫・木村 明彦）				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅰでは、生理学の基礎（細胞生理学）、血液、循環、呼吸、消化と吸収について学ぶ。血液では血液の役割・組成や血液の凝固機序を中心に学び、循環では心臓の機能と循環調節のメカニズムについて学ぶ。呼吸では呼吸器の構造とその調節メカニズムについて、消化と吸収では消化液の種類と分泌機序などについて学ぶ。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	生理学とは何か、生体恒常性の維持				高野 一夫
2	細胞生理学 1（細胞性成分とその機能 1）				
3	細胞生理学 2（細胞性成分とその機能 2）				
4	血液 1（血液成分とその機能 1）				
5	血液 2（血液成分とその機能 2）				
6	血液 3（血液凝固と血液型）				
7	血液 4（免疫 1）				
8	血液 5（免疫 2）				
9	循環 1（心臓の構造とその機能）				
10	循環 2（心周期）				
11	循環 3（心電図）				
12	循環 4（血管の構造とその機能）				
13	循環 5（特殊部位での循環とリンパ循環）				
14	循環 6（循環調節）				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	呼吸 1（呼吸器の構造とその機能）				
17	呼吸 2（呼吸運動）				
18	呼吸 3（ガス交換）				
19	呼吸 4（呼吸調節 1）				
20	呼吸 5（呼吸調節 2）				
21	呼吸 6（呼吸異常）				
22	消化と吸収 1（消化管の構造と機能）				
23	消化と吸収 2（口腔内および胃内における消化）				
24	消化と吸収 3（小腸および大腸内における消化吸収）				
25	消化と吸収 4（消化管ホルモン）				
26	消化と吸収 5（肝臓、排便）				
27	栄養と代謝 1（3 大栄養素）				
28	栄養と代謝 2（エネルギー代謝）				
29	栄養と代謝 3（ビタミンおよびミネラル）				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『シンプル生理学』 貴邑富久子：根来英雄（南江堂）				
参考書等	『ガイトン臨床生理学』 A・C ガイトン：J・E ホール（医学書院）1999 『オクスフォード・生理学 原書 2 版』 G・ポーコック：C・D リチャーズ（丸善）2005 『標準生理学 Standard textbook』 小澤濤司：本郷利憲（医学書院）2005 『細胞の分子生物学 第 4 版』 B・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009 『Principles of Neural Science』 ER Kandel（McGraw Hill）2000				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある者は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学Ⅱ (運動生理学を含む)	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅱでは栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系、生殖、骨の生理について学ぶ。栄養と代謝では栄養素の種類とその働きやエネルギー代謝について学び、内分泌系ではホルモンの種類や作用などについて学ぶ。生殖では男性生殖器と女性生殖器の構造とその働きを学び、骨の生理では骨の構造と再吸収・再形成に關与するカルシウム・リン代謝について学ぶ。さらに運動生理学についても学習する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	内分泌 1	内分泌とは 視床下部、下垂体ホルモン 甲状腺、上皮小体、膵臓ホルモン 副腎皮質、髄質ホルモン 性ホルモン 性分化 男性・女性の生殖機能 神経とは 興奮の発生 興奮の伝導 興奮の伝達 自律神経とは 交感神経系 副交感神経系 骨格筋と収縮タンパク 骨格筋の収縮形態 骨格筋の収縮エネルギー ネフロンの構造 糸球体ろ過 尿細管で再吸収 排尿 骨の構造 骨の形成と成長 カルシウム代謝 熱の産生 熱の放散 体温調節			高野 一夫
2	内分泌 2				
3	内分泌 3				
4	内分泌 4				
5	内分泌 5				
6	生殖 1				
7	生殖 2				
8	神経生理の基礎 1				
9	神経生理の基礎 2				
10	神経生理の基礎 3				
11	神経生理の基礎 4				
12	自律神経の生理学 1				
13	自律神経の生理学 2				
14	自律神経の生理学 3				
15	前期定期試験および授業のまとめ				
16	運動生理学の基礎 1				
17	運動生理学の基礎 2				
18	運動生理学の基礎 3				
19	尿の生成と排泄 1				
20	尿の生成と排泄 2				
21	尿の生成と排泄 3				
22	尿の生成と排泄 4				
23	骨の生理 1				
24	骨の生理 2				
25	骨の生理 3				
26	体温 1				
27	体温 2				
28	体温 3				
29	まとめ				
30	後期定期試験および授業のまとめ				
教科書	『シンプル生理学』 貴邑 富久子、根来 英雄（南江堂）				
参考書等	『ガイド臨床生理学』 A・C ガイトン：J・E ホール（医学書院）1999 『オクスフォード・生理学 原書 2 版』 G・ポーコック：C・D リチャーズ（丸善）2005 『標準生理学 Standard textbook』 小澤滯司：本郷利憲（医学書院）2005 『細胞の分子生物学 第 4 版』 B・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009 『Principles of Neural Science』 ER Kandel（McGraw Hill）2000				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある者は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学Ⅲ	開講時期	3年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅲでは、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、化学感覚（味覚、嗅覚）、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学実習	開講時期	4年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3年間で学んだ生理学の知識をもとに、自分達自身あるいは動物から摘出した組織を対象として生理学の基礎をなす種々のテーマについて実習する。自身が測定装置を直接操作することによって生理機能を計測・把握する能力を習得するとともに医用電子機器の基礎を理解する。血液成分の測定から血液の組成、尿成分の測定から腎機能を学習する。さらに、心電図や肺気量測定から呼吸・循環機能、脳波測定では脳の高次機能、筋電図では筋活動を学習する。 (高野 一夫・西村 桂一)				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	運動学	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人間の正常な身体運動を科学的に分析し運動障害や運動異常を理解する基礎知識を学ぶ。人間が運動する際、骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などが関与する。そのため、解剖学および生理学と関連づけて人間が運動するときの骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などの機能を理解する。まず運動の基礎力学や神経機能を学習した後、四肢・体幹の運動、姿勢、歩行などについて学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	運動学実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	運動学講義で学習した人間の正常な人体の運動について、実習を通じてより深く理解することを目指す。その目標を達成するため、人間の正常な運動や歩行などを肉眼的に観察するとともに、様々な分析装置を利用して測定・分析する。姿勢の分析、関節運動の分析、重心と重心動揺の測定、姿勢保持と姿勢反射の分析、筋力の測定、呼吸の測定・分析、歩行の分析などを学習する。 (柚木 脩・高橋 康輝)				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学Ⅰ	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅰでは病理学の意義、疾病の分類・経過・予後・転帰、内因（素因、遺伝など）と外因（栄養障害、物理的・化学的・微生物学的病因作用）、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、循環障害（充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞、リンパ液の循環障害）、進行性病変（肥大、再生、化生、移植、創傷治癒、異物の処理）について学習する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	病理学とはどのような学問か	病理学と医療との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ			寺井 政憲
2	病気についての基本的な考え方	病気の概念、病気の分類（先天性と後天性）について学ぶ			
3	病気についての基本的な考え方	病気の分類（遺伝性と非遺伝性）について学ぶ			
4	病気についての基本的な考え方	病気の分類（全身性と限局性、器質的と機能的）について学ぶ			
5	病気についての基本的な考え方	病気の分類、病気の症候と経過について学ぶ			
6	病因について（内因）	内因（素因と体質、遺伝）について学ぶ			
7	病因について（内因）	内因（染色体異常）について学ぶ			
8	病因について（内因）	内因（代謝異常、奇形）について学ぶ			
9	病因について（内因）	内因（内分泌）について学ぶ			
10	病因について（内因）	内因（免疫；抗原と抗体、細胞性免疫と液性免疫）について学ぶ			
11	病因について（外因）	外因（栄養素）について学ぶ			
12	病因について（外因）	外因（物理的病因）について学ぶ			
13	病因について（外因）	外因（化学的病因）について学ぶ			
14	病因について（外因）	外因（生物的病因）について学ぶ			
15	定期試験				
16	循環障害について	循環系（大循環、小循環、リンパ循環、門脈循環）について学ぶ			
17	循環障害について	循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ			
18	循環障害について	充血、うっ血、貧血、虚血、側副循環について学ぶ			
19	循環障害について	出血の機序、止血の機序について学ぶ			
20	循環障害について	血栓、塞栓、梗塞について学ぶ			
21	循環障害について	浮腫、ショックについて学ぶ			
22	生活習慣病について	胆石症、糖尿病、動脈硬化、痛風について学ぶ			
23	退行性病変について	萎縮、変性について学ぶ			
24	退行性病変について	壊死とアポトーシスについて学ぶ			
25	進行性病変について	肥大、増殖、再生について学ぶ			
26	進行性病変について	再生、化生、移植について学ぶ			
27	進行性病変について	肉芽組織、創傷治癒について学ぶ			
28	進行性病変について	骨折の治癒について学ぶ			
29	進行性病変について	異物の処理について学ぶ			
30	定期試験				
教科書	『病理学概論改訂第2版』 監修 社団法人全国柔道整復学校協会 著者 関根一郎（医歯薬出版株式会社） 『新クイックマスター 病理学』 監修 堤 寛（医学芸術社）				
参考書等	『からだをまもる免疫のふしぎ』 編集 日本免疫学会（羊土社）				
成績評価基準	定期試験（筆記試験）により評価する。				
受講上の 注意事項	授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしています。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学Ⅱ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅱでは炎症（原因、形態学的変化、特異性炎と非特異性炎）、免疫異常（抗原と抗体、液性免疫と細胞性免疫、免疫不全、自己免疫疾患）、アレルギー（定義、分類）、腫瘍（定義、肉眼的形態、発生段階、原因・診断・治療、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍）、先天性異常（遺伝子と染色体、遺伝疾患、奇形）について学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	病理学講義で学習した種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について実習を通じてより深く理解することを目的とする。まず、人体の正常な組織標本作製法（H-E染色、免疫組織学的染色法、蛍光染色など）および組織（上皮組織、骨組織、筋組織、ネフロン、内分泌腺など）の顕微鏡観察法について学ぶ。次いで種々の疾患の病理標本（肝細胞の脂肪変性、肝硬変の肝臓組織、腫瘍組織など）の顕微鏡的観察を行う。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学総論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。代表的な臨床症状について、問診による病歴聴取法、視診、触診、打診、聴診による身体所見の取り方、知覚検査、反射検査（表在反射、深部反射、病的反射）を含む神経学的所見の取り方、体温、血圧、脈拍の測定法と呼吸状態の観察法、そして、臨床検査としての生理機能検査と検体検査について学習する。特に柔道整復師の日常診療に関連の強い内科疾患の病態と治療については詳しく解説し、実際の診療で応用可能となることを目標とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション				林 洋
2	問診				
3	視診 (1) 視診の意義、体格と体型、体位と姿勢、栄養状態				
4	視診 (2) 精神状態、異常運動				
5	視診 (3) 歩行、皮膚				
6	視診 (4) 頭部、顔面				
7	視診 (5) 頸部、胸部、腹部、腰背部				
8	視診 (6) 四肢				
9	打診 (1) 胸部				
10	打診 (2) 腹部				
11	聴診 (1) 胸部				
12	聴診 (2) 腹部				
13	触診 (1) 触診の意義、皮膚、筋				
14	触診 (2) 骨、胸部、腹部、リンパ節				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	生命徴候 (1) 体温、血圧				
17	生命徴候 (2) 脈拍、呼吸				
18	神経学総論				
19	知覚検査 (1) 表在、深部				
20	知覚検査 (2) 複合、その他				
21	反射検査 (1) 表在、深部				
22	反射検査 (2) 病的				
23	反射検査 (3) クローヌス、自律神経				
24	代表的な臨床症状 (1) 発熱、出血傾向、リンパ節腫脹				
25	代表的な臨床症状 (2) 意識障害、チアノーゼ、関節痛				
26	代表的な臨床症状 (3) 浮腫、肥満、やせ				
27	生理機能検査 (1)				
28	生理機能検査 (2)				
29	検体検査				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『一般臨床医学 第2版』 奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一（医歯薬出版）1999				
参考書等	『内科診断学 改訂第16版』 武内重五郎（南江堂）2003				
成績評価基準	定期試験、小テスト（レポート）、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学各論Ⅰ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。 内科学各論Ⅰでは、内科疾患のうち呼吸器疾患（気管支喘息など）、循環器疾患（心筋梗塞など）、消化器疾患（胃癌など）、代謝疾患（糖尿病など）、内分泌疾患（バセドウ病など）、血液疾患（白血病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学各論Ⅱ (スポーツ医学を含む)	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。 内科学各論Ⅱでは、内科疾患のうち腎疾患（糸球体腎炎など）、神経筋疾患（進行性筋ジストロフィー症など）、感染症（エイズなど）、リウマチ疾患（膠原病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。また、アスリートの健康管理とスポーツ医学についても学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	外科学概論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	外科学の基礎を身につけることを主目的とする。ここでは、その基盤となる外科学概論を学ぶ。損傷（創傷、熱傷）、外傷（交通外傷、頭部外傷など）、炎症（局所の変化と全身的变化、外科的感染症）、腫瘍（成因、分類、前癌病変、症状、診断・検査、治療）、ショック（分類、症状、診断、治療）、輸血と輸液、滅菌と消毒、各種手術法、麻酔（麻酔前投与、全身麻酔と局所麻酔）、移植と免疫、出血と止血、蘇生術などについて学習する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	外科学の歴史と専門分化	紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程			鈴木 秀一
2	損傷	損傷の分類、外傷			
3	創傷	創傷治癒、創傷処置			
4	熱傷	原因と分類、範囲の診断、重症度判定、治療			
5	炎症と外科感染症	炎症の定義と分類、代表的な外科感染症			
6	腫瘍	腫瘍の概念と分類、腫瘍の発育形式、診断と治療			
7	ショック	ショックの分類、ショックに対する緊急処置			
8	輸液と輸血	輸血に関する基礎知識、輸血の実際、輸液療法			
9	消毒と滅菌	主な消毒薬とその特徴、各種滅菌法			
10	手術療法	手術に関する基礎知識			
11	麻酔学	麻酔の概要、麻酔の進歩、各種麻酔法			
12	免疫と臓器移植	移植に関する用語、代表的な臓器移植			
13	出血と止血法	出血の分類、止血法、出血をきたす代表的疾患			
14	心肺蘇生法	意識状態の評価、蘇生法の手順			
15	脳神経外科	頭部及び中枢神経系の構造と脳神経疾患の主要兆候			
16	脳神経外科	脳神経外科領域の検査			
17	脳神経外科	脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、手術療法			
18	頸部の外科	甲状腺疾患、上皮小体疾患、頸部の腫瘍			
19	胸部外科	胸部の構造と機能、診断のための検査			
20	胸部外科	開胸法と胸腔ドレナージ、肺疾患			
21	胸部外科	縦隔疾患、胸膜疾患、胸部外傷			
22	心臓外科	診断のための検査、手術法、先天性心疾患			
23	心臓外科	弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症、心臓腫瘍			
24	血管外科	動脈疾患、静脈疾患			
25	乳腺外科	乳腺の解剖、生理、検査法、乳腺疾患			
26	消化器外科	消化器の構造と生理			
27	消化器外科	消化器外科疾患の主な症状、診断のための検査			
28	消化器外科	食道疾患、胃疾患、大腸疾患			
29	消化器外科	肝・胆・膵の疾患、その他の疾患			
30	まとめ				
教科書		『外科学概論 改訂第3版』 社団法人全国柔道征服学校協会監修、炭山嘉伸編（南光堂）			
参考書等					
成績評価基準		評価は定期試験の成績と講義への出席状況を勘案して行う。成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。			
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	外科学各論	開講時期	3 年次・通年	必修/選択/自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	外科学の基礎を身につけることを主目的とする。2 年次で学んだ外科学概論を基礎として、ここでは日常臨床の場において遭遇することの比較的多い、外科学で扱う代表的疾患の病態、治療を理解する。脳神経外科疾患（脳腫瘍、脳血管疾患、頭部外傷）、胸壁・肺・縦隔疾患（肺癌、肺結核、自然気胸、胸部損傷）、乳腺疾患（乳癌など）、心臓疾患（虚血性心疾患など）、脈管疾患（大動脈瘤など）、腹部外科疾患（胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌など）について学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	救急法	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	演習	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	救急を必要とする病態に対し、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などの状態確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AED などについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	整形外科学Ⅰ (スポーツ医学を含む)	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	柔整必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅰでは、整形外科学の基礎となる運動器の解剖学を学びながら、整形外科学のうち肩関節の疾患（肩関節周囲炎など）、肘関節の疾患（テニス肘など）、手関節の疾患（ド・ケルバン病など）、体幹の疾患（椎間板ヘルニアなど）、股関節の疾患（先天性股関節脱臼など）、膝関節の疾患（半月板損傷など）、足関節の疾患（足関節捻挫など）および骨端症（オスグッド・シュラッテル病など）について学習する。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。				
回	テ　　マ　　お　よ　び　内　　容				担当教員名
1	整形外科とは				柚木 脩
2	運動器の基礎知識（骨の基礎知識）				
3	運動器の基礎知識（関節の基礎知識）				
4	運動器の基礎知識（筋・靱帯・腱の基礎知識）				
5	運動器の基礎知識（運動器の科学）				
6	整形外科診察法（姿勢、体幹と四肢のバランス・跛行）				
7	整形外科診察法（関節拘縮と強直・徒手筋力テスト）				
8	整形外科診察法（知覚の診断・反射）				
9	整形外科的治療法（保存療法）				
10	整形外科的治療法（観血的治療Ⅰ）				
11	整形外科的治療法（観血的治療Ⅱ）				
12	骨・関節損傷総論（骨折総論）				
13	骨・関節損傷総論（関節の損傷）				
14	整形外科総論のまとめ				
15	定期試験				
16	スポーツ整形外科とは				
17	スポーツ外傷・障害総論				
18	代表的なスポーツ種目と特徴的な怪我				
19	整形外科的メディカルチェック				
20	上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
21	上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
22	体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
23	体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
24	下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
25	下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
26	スポーツ活動中の重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血、等）				
27	年齢性別による特徴（女性、高齢者、発育期、等）				
28	スポーツ整形外科学のまとめⅠ				
29	スポーツ整形外科学のまとめⅡ				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『整形外科学』 松下隆：福林徹（南光堂）				
参考書等	『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編（南光堂）				
成績評価基準	出席点、レポート課題および試験の得点で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義では、ビジュアルプレゼンテーションを中心に展開していくので、出席は重要である。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	整形外科科学Ⅱ	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	柔整必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	整形外科科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科科学Ⅱでは、臨床的に遭遇する整形外科的疾患や鑑別診断などを理解し、柔道整復師として必要な整形外科的な知識を学習し、臨床に対処できるようになることを目標とする。整形外科診断学、整形外科治療法、全身性の骨・軟部疾患、感染性疾患、非感染性軟部・関節疾患、神経・筋の系統疾患、骨・軟部腫瘍などについて学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	疾患別総論Ⅰ（炎症・腫瘍・変性疾患）				柚木 脩
2	疾患別総論Ⅰ（全身性疾患・骨端症）				
3	疾患別総論Ⅱ（循環障害・神経疾患・筋疾患）				
4	感染性疾患				
5	腫瘍				
6	非感染性軟部・骨関節疾患				
7	全身性の骨疾患				
8	全身性の軟部疾患				
9	四肢の循環障害				
10	四肢の神経疾患				
11	四肢の筋疾患				
12	頸椎の疾患				
13	胸椎の疾患				
14	腰椎の疾患				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	肩甲帯の疾患 1				
17	肩甲帯の疾患 2				
18	上腕から肘関節の疾患 1				
19	上腕から肘関節の疾患 2				
20	前腕から手指の疾患 1				
21	前腕から手指の疾患 2				
22	骨盤から股関節の疾患 1				
23	骨盤から股関節の疾患 2				
24	大腿から膝関節の疾患 1				
25	大腿から膝関節の疾患 2				
26	下腿から足関節の疾患 1				
27	下腿から足関節の疾患 2				
28	スポーツ外傷各論				
29	スポーツ障害各論				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『整形外科科学』 松下隆：福林徹（南光堂）				
参考書等	『整形外科科学用語集』 日本整形外科学会編（南光堂）				
成績評価基準	出席点および試験の得点で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義では、PP 及び標本などで視覚的に展開し、実技も実施するので出席が重要である。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	リハビリテーション医学 (検査・測定を含む)	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーションとは、「障害を受けた者を、彼のなし得る最大の身体的、精神的、社会的、職業的、経済的な能力を有するまでに回復させることである。」と定義される。まず、障害の種類、評価法・診断法（徒手筋力テスト、関節可動域測定、日常生活動作評価、運動年齢テストなど）を学習し、その後、リハビリテーションの治療学概論（理学療法、作業療法、言語療法、補装具など）、さらに代表疾患（脊髄損傷、脳性麻痺、脳卒中、関節リウマチなど）のリハビリテーションを学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	リハビリテーション（以下リハと略）の理念	リハの概念と歴史、障害とは何かを学ぶ			関 寛之
2	リハの基礎医学（Ⅰ）	関節運動、筋の活動、姿勢・歩行・運動のコントロール			
3	リハの基礎医学（Ⅱ）	上肢、下肢、脊柱の運動と機能解剖			
4	障害学	関節拘縮・変形、筋萎縮、末梢神経および中枢神経麻痺			
5	治療学	関節拘縮・筋萎縮の治療、麻痺筋の再教育、痛の治療			
6	リハ医学での評価（Ⅰ）	患者のとらえ方、身体計測法、関節可動域測定法			
7	リハ医学での評価（Ⅱ）	徒手筋			
8	リハ医学での評価（Ⅲ）	小児運動発達の評価法、協調性の評価法			
9	リハ医学での評価（Ⅳ）	失認・失行の評価法、心理評価、障害の受容			
10	リハ医学での評価（Ⅴ）	日常生活動作の評価、電気生理学的診断、画像診断			
11	リハ治療学の各論（Ⅰ）	理学療法（運動療法、物理療法、牽引・徒手矯正）			
12	リハ治療学の各論（Ⅱ）	作業療法（身体障害作業療法、精神領域作業療法）			
13	リハ治療学の各論（Ⅲ）	補装具（義肢・装具の目的と種類、上肢の装具）			
14	リハ治療学の各論（Ⅳ）	補装具（下肢の装具、体幹の装具）			
15	リハ治療学の各論（Ⅴ）	補装具（義肢、義手と義足、移動用補助具）			
16	リハ治療学の各論（Ⅵ）	言語治療、構音障害と失語症			
17	リハ医学と関連職種	チーム医療について			
18	リハの実際（疾患別のリハ）	脳卒中（脳卒中の分類・障害、病期別のリハ）			
19	リハの実際（疾患別のリハ）	脊髄損傷（病態、合併症と対策、損傷高位別のリハ）			
20	リハの実際（疾患別のリハ）	小児疾患（脳性まひ、二分脊椎）			
21	リハの実際（疾患別のリハ）	小児疾患（筋ジストロフィ、血友病、心疾患）			
22	リハの実際（疾患別のリハ）	切断（切断の原因疾患、切断の原則、義肢装着訓練）			
23	リハの実際（疾患別のリハ）	末梢神経損傷（神経の構造、損傷タイプと重症度）			
24	リハの実際（疾患別のリハ）	関節リウマチ（RA の診断・治療とリハの位置づけ）			
25	リハの実際（疾患別のリハ）	整形外科疾患（腰痛、頸肩腕痛、五十肩）			
26	リハの実際（疾患別のリハ）	整形外科疾患（変形性関節症、骨折）			
27	リハの実際（疾患別のリハ）	心疾患（虚血性心疾患の評価法とリハ・プログラム）			
29	リハの実際（疾患別のリハ）	呼吸器疾患（拘束性換気障害と閉塞性換気障害）			
30	リハの実際（疾患別のリハ）	高齢者疾患の特徴とリハの取り組み、リハと福祉			
教科書		『リハビリテーション医学（改定第2版）』 全国柔道整復学校協会監修、三上真弘編（南江堂） 必要により資料配布、スライド、DVD、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。			
参考書等					
成績評価基準		試験による。			
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	リハビリテーション医学実習 (検査・測定を含む)	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	実習	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の講義で学習した障害学について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。まず評価法として触診、四肢長と四肢周径測定、関節可動域測定（ROM）、筋力検査（MMT）、神経学的検査（知覚検査、表在反射、深部反射、病的反射）などの手技を理解し、次いで運動療法、物理療法、補装具、自助具、杖歩行、各種作業療法を実習学習し、さらに各種ファシリテーションテクニック（PNF など）について学ぶ。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	柔道整復の歴史	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中川 敏郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人類が人間としての営みを始めたときから「医学と医療」は始まり、人間の歴史と共に医学の歴史は歩んでいる。日本の医学の歴史も飛鳥時代以降のものが記録に残されているが、当然記録にはないそれ以前の「医学と医療」もあったわけである。接骨医学についても、一般的な医学・医療と共に発展してきたが、わかっている限りでは、古武術の中の「活法」、中国で発展した「漢方医学」の中の接骨術、室町時代以降に移入されたヨーロッパの外科医学などが今日の「接骨医学」の基礎となっている。医学の歩みを学ぶことによって、歴史の中で正しく医療を捉え、先師たちが努力の末に残してくれた知識や技能を学習し、将来の指針とする。さらに、柔道整復「Judo Therapy」が WHO（世界保健機構）で伝統医学として認知されるまでの経過、韓国・モンゴル国・ポルトガル・ミクロネシア連邦などでの活動状況、これからの柔道整復師の国際交流についての展望などについても学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	古代アジアの医学・・・古代インドの医学。古代中国の医学。				中川 敏郎
2	古代日本の医学・・・古墳時代から飛鳥時代へ。仏教伝来と聖徳太子の医療福祉。				
3	奈良時代の医学・・・大宝律令の「医疾令」。行基の社会福祉事業。鑑真の来日。				
4	平安時代の医学・・・我国最初の「薬書」（薬経太素）と「医書」（医心方）。漢和辞典。				
5	鎌倉時代の医学・・・仏教僧侶の医療活動。栄西・叡尊・忍性・性全の福祉活動と医書。				
6	室町時代の医学・・・僧医有隣・月湖の医書。最初の総合大学「足利学校」。				
7	安土桃山時代の医学・・・李朱医学の展開京都曲直瀬診療所。最初の西洋式病院。				
8	江戸時代の医学 1・・・中国医学の展開。最初の「医学史」。ヨーロッパ医学の移入。				
9	江戸時代の医学 2・・・解剖学の発展・進歩。「三大木骨」の出現。				
10	江戸時代の医学 3・・・接骨医学の名著。「三大接骨書」の刊行。				
11	江戸時代の医学 4・・・医学教育の進歩。医科大学の創設と発展。				
12	明治初期の医学・・・オランダ医学からフランス医学ドイツ医学へ				
13	明治から昭和へ・・・ヨーロッパ医学からアメリカ医学へ				
14	国際交流・・・韓国・モンゴル。他				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	担当教員の著書による「柔道整復史」（非製本）				
参考書等	『整骨・整形外科辞典大系 全13巻』（オリエント出版） 『日本整骨術全集 上』（梓書房） 『日本整骨術全集 下』（梓書房）				
成績評価基準	講義への出席状況、受講態度および試験の成績等で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義中の私語や携帯電話による通話および操作は禁止する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	関係法規	開講時期	3年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	法の意義、体系（法律、政令、省令、条例、規則）を理解した後、柔道整復師として遵守すべき基本的法律である柔道整復師法を中心に、柔道整復師法施行令、柔道整復師施行規則について学ぶ。また、医師法、医療法、歯科医師法、薬事法、薬剤師法、保健師助産師看護法、診療放射線技師法など他の医療関係法規についても、医療人として当然知らなければならない事項について学習する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ここでは、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	総論 (1) イントロダクション・様々な倫理綱領について				林 洋 東郷 俊宏
2	総論 (2) Informed consent・守秘義務について				
3	各論 (1) 医療過誤・薬害について				
4	各論 (2) 臨床研究実施上の倫理問題について (1)				
5	各論 (3) 臨床研究実施上の倫理問題について (2)				
6	各論 (4) 臨床研究実施上の倫理問題について (3)				
7	各論 (5) ハンセン病患者隔離の歴史 (1)				
8	各論 (6) ハンセン病患者隔離の歴史 (2)				
9	各論 (7) タスキギー研究				
10	各論 (8) 生殖医療の現在				
11	各論 (9) 臓器移植について				
12	各論 (10) 再生医療、遺伝子治療、出生前診断				
13	各論 (11) 終末期医療と倫理（尊厳死など）				
14	各論 (12) 鍼灸師・柔道整復師としての倫理				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	講義で随時指定する。				
成績評価基準	出席状況、レポート（2 回ほど）、定期試験の結果を総合的に判断する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	柔整医療安全学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田渕 健一	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ここでは、医療現場における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的に、(1) 患者の正確な病態把握と柔道整復師の業務範囲の認識の重要性、(2) 外傷と感染防止対策、(3) 各種物理療法の禁忌症、安全な物理療法の取り扱い、(4) 施術後の指導管理の重要性、(5) 医療全般において生じる有害事象の具体例とその予防・対応策、(6) リスクマネージメントの基本的な考え方とインシデントレポートの作成法などを中心に学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	柔道整復師と医療安全				田渕 健一
2	インシデントレポートの作成と分析				
3	柔道整復業務におけるアクシデントの予防と対応、施術における安全管理				
4	物理療法の安全管理				
5	頭頸部、顔面の外傷に対するリスクマネージメント				
6	胸背部の外傷に対するリスクマネージメント				
7	腰部の外傷に対するリスクマネージメント				
8	肩・肩周囲の外傷に対するリスクマネージメント				
9	上腕、肘、前腕の外傷に対するリスクマネージメント				
10	手、指の外傷に対するリスクマネージメント				
11	股関節周囲の外傷に対するリスクマネージメント				
12	膝の外傷に対するリスクマネージメント				
13	下腿、足関節、足部の外傷に対するリスクマネージメント				
14	柔道整復業務における訴訟、裁判の実例				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔整医療安全学』 田渕 健一 他（南江堂）				
参考書等	・『医療安全対策ガイドライン』 嶋森 好子（じほう） ・『医療のための安全学入門』 篠原 一彦（丸善） ・『人は誰でも間違える』 L. コーン 他（日本評論社）				
成績評価基準	定期試験、出席状況および授業態度を総合的に判断し、評価する。				
受講上の 注意事項	柔道整復師として医療に携わる上で重要な安全管理について学ぶ。 将来、ヒヤリハットやアクシデントをおこさないように十分学習すること。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	研究の展開	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」で学んだ基本的な情報処理方法や、「研究の基礎」で学んだ基本的な研究についての考え方を基盤として、さらに研究についての理解を深め、展開していく。研究活動の必要性を各人の倫理観に基づいて理解することから始め、研究はいかなる行為であるのか、研究は学問の発展にどのように貢献していくのか、社会へどのように還元されていくのか、等について自分自身で考察できる能力を身につけさせる。その上、研究を進めるために重要である文献検索法及び参考論文の読み方を学ぶ。疑問点や問題点を明らかにするために必要な研究課題、仮説をどのように設定し、さらにその問題点は現時点においてどこまで明らかにされているのか、そしてどのように解決していくことができるかを知るために必須な手段となる。その際に文献、論文の解釈に必要となる標本の抽出法、統計手法、検定の意味など注意すべき点等について学ぶ。一連の研究の流れを研究計画書の作成、研究の成果を効果的に伝えるための図・表の作成、研究発表の実際などを通じて実践的に学習する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	柔道Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である加納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	オリエンテーション	授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道 柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動 受け身（後ろ・横・前）、姿勢、組み方、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）体捌き（前・後ろ・前廻り・後ろ回り）、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）崩し（八方）、進退動作、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）進退動作（継ぎ足、歩み足） 前廻り受け身、投げ技の基本動作・固め技の基本動作 前廻り受け身、膝車、大外刈り・袈裟固め、横四方固め 前廻り受け身、体落とし、出足払い・上四方固め、縦四方固め 前廻り受け身、背負い投げ、大腰・崩れ袈裟固め、 前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め 前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰・後ろ袈裟固め 前廻り受け身、送り足払い、払いつり込み足、内股・肩固め 前廻り受け身、釣り込み腰、一本背負い投げ、跳ね腰、 受け身・投げ技・抑え技の理解度 かかり練習、約束練習、自由練習・腕がらみ、十字締め かかり練習、約束練習、自由練習・腕挫ぎ十字固め、送り襟締め かかり練習、約束練習、自由練習・腋固め、裸締め かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合 かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 投げ技・固め技の習熟度			橋本 昇 徳安 秀正
2	オリエンテーション				
3	基本動作・体ほぐし運動				
4	基本動作・体ほぐし運動				
5	基本動作・体ほぐし運動				
6	基本動作・体ほぐし運動				
7	基本動作・体ほぐし運動				
8	基本動作・対人的技能				
9	基本動作・対人的技能				
10	基本動作・対人的技能				
11	基本動作・対人的技能				
12	基本動作・対人的技能				
13	基本動作・対人的技能				
14	基本動作・対人的技能				
15	定期試験				
16	対人的技能				
17	対人的技能				
18	対人的技能				
19	対人的技能				
20	対人的技能				
21	対人的技能				
22	対人的技能				
23	対人的技能				
24	対人的技能				
25	対人的技能				
26	対人的技能				
27	対人的技能				
28	対人的技能				
29	対人的技能				
30	定期試験				
教科書					
参考書等		『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房			
成績評価基準		柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。			
受講上の 注意事項		柔道衣は各自で準備する。			

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名		柔道Ⅱ	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		柔道における技の習熟を目標とし、立技（大外刈、送り足払、払腰など）においては崩し、作り、掛けを学び、寝技においては基本的な抑え技（袈裟固、横四方固、上四方固など）を習得する。それに伴い、体捌き、動きの応用動作を身につけ、乱取や試合練習ができるように学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容				担当教員名
1	基本動作	礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習				橋本 昇 徳安 秀正
2	基本動作	礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習				
3	基本動作	礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習				
4	対人的技能	礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習				
5	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
6	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
7	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
8	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
9	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
10	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
11	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
12	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
13	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
14	対人的技能	投げ技の連絡変化・自由練習				
15	定期試験	礼法・受け身・投げ技の習熟度				
16	対人的技能	投げの形（手技）・自由練習				
17	対人的技能	投げの形（手技）・自由練習				
18	対人的技能	投げの形（手技）・自由練習				
19	対人的技能	投げの形（腰技）・自由練習				
20	対人的技能	投げの方（腰技）・自由練習				
21	対人的技能	投げの形（腰技）・自由練習				
22	対人的技能	投げの形（足技）・自由練習				
23	対人的技能	投げの形（足技）・自由練習				
24	対人的技能	投げの形（足技）・自由練習				
25	対人的技能	投げの形（全）・得意技習得				
26	対人的技能	投げの形（全）・得意技習得				
27	対人的技能	投げの形（全）・得意技習得				
28	対人的技能	固め技・自由練習				
29	対人的技能	固め技・自由練習				
30	定期試験	投げ技・固め技の習熟度				
教科書						
参考書等						
成績評価基準						
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	柔道Ⅲ	開講時期	3年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	2年間行ってきた柔道（礼法・受身・乱取）に対する総復習を行うとともに、技の理合を理解するために投の形（手技、腰技、足技）を練習する。女子については、投の形と柔の形（第1教、第2教、第3教）を練習する。また、審判規定を学びながら、試合ができるように練習し、最終的に初段修得を目標とする。 （橋本 昇・徳安 秀正）				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	今井 常彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅰでは健康の概念、感染症、環境保健、母子保健、学校保健などを学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	衛生学公衆衛生学の意義と目的 健康の概念の変遷と世界保健機関の健康の定義				今井 常彦
2	予防医学の概念 一次予防、二次予防、三次予防の概念				
3	ライフスタイルと健康① 食物、飲酒と健康				
4	ライフスタイルと健康① 食物、飲酒と健康				
5	衛生統計 衛生統計の種類、主な死因の推移、健康状況に関する調査				
6	環境保健① 環境と適応、温熱環境、生気象学				
7	環境保健② 騒音、振動、電離放射線、非電離放射線と健康				
8	環境保健③ 住居と健康、衣服と健康				
9	環境保健④ 上水道と下水道				
10	環境保健⑤ 廃棄物、医療廃棄物				
11	環境保健⑥ 公害（定義、発生要因、現状と対策）				
12	環境保健⑦ 地球環境問題（温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、野生生物の減少）				
13	まとめ				
14	感染症① 感染症の現況（新興感染症と再興感染症）、パンデミック、生物テロ				
15	定期試験				
16	感染症② 病原微生物の種類（ウイルス、細菌、原虫、真菌など）				
17	感染症③ 感染症対策（感染源対策、感染経路対策、感受性者対策）				
18	感染症④ 主な感染症（インフルエンザ、結核、エイズ、性感染症）				
19	感染症⑤ 免疫（受動免疫と能動免疫）、予防接種				
20	消毒① 消毒の意義、滅菌と消毒、消毒法（理学的消毒法と化学的消毒法）				
21	消毒② 滅菌と消毒の実際（手指の消毒、器具の滅菌、感染性廃棄物処理）				
22	母子保健① 母性保健の意義、家族計画、妊産婦死亡、流・早。死産、周産期死亡				
23	母子保健② 小児保健（体格、乳児死亡、幼児死亡、未熟児および障害児）				
24	母子保健③ 母子保健対策（母子保健制度、母子保健施策）				
25	歯科保健 歯・口腔の機能、歯の形成、虫歯の原因および予防				
26	学校保健① 学齢期の健康状況（体格、体力、死亡、傷病）				
27	学校保健② 学校保健対策（健康診断、学校環境衛生）、学校安全（安全管理、安全教育）				
28	学校保健③ 学校伝染病予防				
29	まとめ				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『衛生学・公衆衛生学』 鈴木庄亮：久道茂（南江堂）				
参考書等	『国民衛生の動向 2008年』 厚生統計協会（厚生統計協会）				
成績評価基準	定期試験 60点以上、必要出席数				
受講上の 注意事項	必要に応じプリントを配布する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の理念）

授業科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ		開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	今井 常彦		授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅱでは産業保健、成人・老人保健、精神保健、地域保健、衛生行政、疫学などを学習する。					
回	テ　　マ		内　　　容			担当教員名
1	産業保健	①	労働衛生行政・労働衛生関連法規と 3 管理			今井 常彦
2	産業保健	②	職業性疾患（粉塵、ガン）			
3	産業保健	③	職業性疾患（作業様態、物理的原因）			
4	産業保健	④	産業災害			
5	産業保健	⑤	産業中毒（金属中毒）			
6	産業保健	⑥	産業中毒（有機溶剤中毒、農薬中毒）			
7	成人保健	①	成人・老人の健康状態と疾病の特徴			
8	成人保健	②	生活習慣病各論			
9	老人保健		老人保健対策と高齢者医療			
10	精神保健	①	精神保健福祉法と地域精神保健活動			
11	精神保健	②	精神疾患各論			
12	精神保健	③	アルコール関連問題			
13	予備					
14	前期試験		前期試験および授業のまとめ			
15	生活環境	①	上下水道			
16	生活環境	②	廃棄物処理			
17	生活環境	③	住居環境・室内環境・化学物質化過敏症			
18	生活環境	④	衣服と健康			
19	食品保健	①	国民栄養			
20	食品保健	②	食中毒・食品の機能と安全性			
21	地域保健		在宅医療・救急医療・僻地医療・地域医療情報システム			
22	国際保健		国際交流と国際協力、WHO の活動			
23	衛生行政と保健医療		衛生行政機構・医療制度・工費医療			
24	疫学	①	疫学の概念・疫学の指標			
25	疫学	②	疫学の研究法			
26	疫学	③	疫学と EBM			
27	衛生統計		人口静態統計と人口動態統計、健康諸指標			
28	まとめ	①				
29	まとめ	②				
30	後期試験		後期試験および授業のまとめ			
教科書	『衛生学・公衆衛生学』 全国柔道整復学校協会監修 鈴木庄亮・久道 茂・小川正行編（南江堂）					
参考書等	『国民衛生の動向 2009』 厚生統計協会					
成績評価基準	定期試験 60点以上					
受講上の 注意事項	講義時に参考資料としてプリントを配布する。					

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	運動器系の解剖	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫	授業形態	講義	単位数／時間数	4 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復学では骨・関節・筋などの運動器に加わる急性、亜急性の原因によって生ずる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などを学ぶ。そのため、その基礎をなす運動器系の解剖学を十分に理解する必要がある。ここでは、骨学として、骨の役割・構造・発生を理解した上で、人体を構成する骨の名称・部位名を学ぶ。また、靱帯学として、関節の一般構造を理解した後に、各関節の構成、補強靱帯などを学んでいく。さらに、筋系として、各骨格筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。				
回	テーマ および 内 容				担当教員名
1	講義の進め方、骨の種類				成瀬 秀夫
2	骨学総論				
3	靱帯学（関節学）総論				
4	上肢の骨				
5	上肢の関節				
6	上肢の骨と上肢の関節（模型観察）				
7	下肢の骨				
8	下肢の関節				
9	下肢の骨と下肢の関節（模型観察）				
10	脊柱を構成する骨				
11	脊柱の連結				
12	胸郭を構成する骨とその連結				
13	頭蓋の骨（1）				
14	頭蓋の骨（2）				
15	定期試験				
16	筋系総論				
17	上肢帯筋、上腕の筋				
18	前腕の筋（1）				
19	前腕の筋（2）、手の筋				
20	上肢の筋（模型観察）				
21	下肢帯筋、大腿の筋				
22	下腿の筋				
23	足の筋				
24	下肢の筋（模型観察）				
25	頭部の筋				
26	頸部の筋				
27	胸部の筋				
28	腹部の筋				
29	背部の筋				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『解剖学』 全国柔道整復学校協会（医歯薬出版） 『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社） 『解剖学問題集5073』（犀書房） 『解剖学用語』 日本解剖学会編（丸善）				
成績評価基準	定期試験、小テスト、出席状況及び授業態度を総合的判断し、評価します。				
受講上の 注意事項	柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要があります。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	骨の損傷概論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	櫻井 敬晋	授業形態	講義	単位数／時間数	4 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	骨の損傷（骨折）は柔道整復学において、主体をなす分野である。ここでは部位別の骨折学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす骨折の概論を学ぶ。骨折の定義、分類（骨損傷の程度による分類、外力の働き方による分類など）、症状（一般外傷症状と骨折の固有症状）、合併症（併発症・続発症・後遺症）、骨折の治癒経過、骨折の治療原則などを学ぶとともに、小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴を理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	骨の形態と機能				櫻井 敬晋
2	柔道整復学を学ぶ上で必要な基礎情報				
3	骨を損傷を引き起こす力の種類				
4	骨損傷の分類 (1)				
5	骨損傷の分類 (2)				
6	骨損傷の分類 (3)				
7	不全骨折の種類				
8	骨折の経過による分類				
9	骨折の治癒に要する期間				
10	四肢長骨骨折の部位による分類				
11	骨折の治癒機転				
12	小児骨折の特徴				
13	骨端軟骨板損傷の分類				
14	高齢者骨折の特徴				
15	定期試験				
16	骨折の症状 (1)				
17	骨折の症状 (2)				
18	骨折の合併症 (1)				
19	骨折の合併症 (2)				
20	骨折の合併症 (3)				
21	骨折の合併症 (4)				
22	骨折の合併症 (5)				
23	骨折の合併症 (6)				
24	骨折の整復法 (1)				
25	骨折の整復法 (2)				
26	骨折の固定法 (1)				
27	骨折の固定法 (2)				
28	骨折の治癒に影響を与える因子				
29	総復習				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学・理論編』 全国柔道整復学校協会編（南江堂）				
参考書等					
成績評価基準	定期試験および出席状況により判定する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	関節の損傷概論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	関節の損傷（脱臼）は、骨折とともに柔道整復学において、主要な分野である。ここでは部位別の脱臼学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす脱臼の概論を学ぶ。脱臼の定義、分類（関節の性状による分類、脱臼の時期による分類、頻度と機序による分類など）、症状（一般外傷症状と脱臼の固有症状）、合併症、脱臼の整復障害因子、経過と予後、脱臼に対する整復法の一般原則などを理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	関節の形態と機能				中澤 正孝
2	関節損傷の概説と分類				
3	脱臼の症状と合併症				
4	脱臼の経過と予後				
5	脱臼の整復と固定法				
6	肩関節の機能解剖と脱臼概論				
7	肩鎖関節の機能解剖と脱臼概論				
8	肘関節の機能解剖と脱臼概論				
9	手関節の機能解剖と脱臼概論				
10	指関節の機能解剖と脱臼概論				
11	股関節の機能解剖と脱臼概論				
12	膝関節の機能解剖と脱臼概論				
13	膝蓋大腿関節の機能解剖と脱臼概論				
14	足関節の機能解剖と脱臼概論				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『神中整形外科学 上巻』（南山堂） 『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学 第1巻』（金原出版）				
成績評価基準	定期試験及び出席状況により判定する。				
受講上の 注意事項	柔道整復理論の他に解剖に関する内容も含まれているため、運動器系の解剖学書を参考にして下さい。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	久米 信好	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師は臨床の場において、骨折、脱臼のほか、筋・腱・靱帯・血管・神経などの損傷にも遭遇する。ここでは種々な筋・腱・靱帯の損傷を学ぶ上で基礎となる事項を理解する。筋・腱・靱帯の形態・構造・機能を学び、筋損傷、腱損傷、靱帯損傷の種類、症状、治癒経過を理解する。さらに、末梢神経の構造、神経損傷の分類・症状、神経損傷の治癒機序や血管損傷の分類・症状などを理解する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	筋の損傷	筋の形態と機能・筋損傷の概説			久米 信好
2	筋の損傷	筋損傷の分類・筋損傷の症状			
3	筋の損傷	筋損傷の治癒機序・筋損傷の予後			
4	腱の損傷	腱の構造と機能			
5	腱の損傷	腱損傷の概説・腱損傷の分類			
6	腱の損傷	腱損傷の症状・腱損傷の治癒機序			
7	末梢神経の損傷	神経の構造と機能			
8	末梢神経の損傷	神経損傷の概説・神経損傷の分類			
9	末梢神経の損傷	神経損傷の症状・神経損傷の治癒機序			
10	血管系・リンパ系の損傷	血管系・リンパ系の構造と機能			
11	血管系・リンパ系の損傷	四肢血管損傷の概説			
12	血管系・リンパ系の損傷	血管損傷の分類・血管損傷の症状			
13	皮膚の損傷	皮膚の形態と機能			
14	皮膚の損傷	皮膚損傷の概説・創傷の治癒機序			
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学・理論編（改訂第5版）』				
参考書等					
成績評価基準	定期試験、出席状況、授業態度にて総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	総論だけで軟部組織の損傷を理解するのではなく、著明な疾患の病態と併せて講義を進めることで理解を得たい。また、頭の中だけで皮下にある組織を理解するのではなく、実際に触察することで、手というセンサーから覚えてみたい。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	後療法学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小山 浩司	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復学、特に骨折や脱臼においては整復・固定とともに、後療法は機能的な予後に大きな影響を与える。また、軟部組織損傷においても後療法は重要である。まず、手技療法の種類・応用・禁忌を学ぶとともに、運動療法として運動の基本型、全身運動療法、適応と禁忌を学ぶ。さらに、物理療法として、電気療法（低周波電気療法など）、寒冷療法、光線療法（赤外線療法など）、温熱療法（極超短波療法、超音波療法など）の種類とそれらの適応と禁忌について理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	後療法の意義・必要性・種類				小山 浩司
2	運動療法（1）				
3	運動療法（2）				
4	手技療法（1）				
5	手技療法（2）				
6	物理療法総論				
7	赤外線療法・低周波療法				
8	極超短波療法・超音波療法				
9	ホットパック・パラフィン療法				
10	寒冷療法				
11	脊椎牽引療法				
12	後療法の実際（1）				
13	後療法の実際（2）				
14	後療法の実際（3）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『リハビリテーション医学』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『アスレティックリハビリテーション 専門テキスト⑦』 財団法人 日本体育協会				
成績評価基準	定期試験、出席状況及び授業態度を総合判断し、判定する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	上肢の骨折理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	福田 格	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨損傷の概論を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に理解していく。 鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、橈骨・頸骨折、モンテギア骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	鎖骨骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位			福田 格
2	鎖骨骨折	症状、画像の見方、種々な整復法			
3	鎖骨骨折・肩甲骨骨折	固定法と考え方、経過、後療法、肩甲骨骨折			
4	上腕骨外科頸骨折	解剖、肩の運動、発生機序、症状、画像の見方、診断上の要点			
5	上腕骨外科頸骨折	骨折方分類、外転骨折の整復法、内転骨折の整復法			
6	上腕骨外科頸骨折	それぞれの固定法、経過、3parts, 4parts の骨折についての考え方			
7	上腕骨骨幹部骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、筋作用			
8	上腕骨骨幹部骨折	整復法、固定法			
9	上腕骨顆上骨折	解剖、骨端核出現図と画像、発生機序、骨折線の走行と分類			
10	上腕骨顆上骨折	整復法、固定法			
11	上腕骨顆上骨折	固定法、包帯法			
12	上腕骨顆上骨折	後療法、経過上の対策、後遺症、異常経過			
13	上腕骨外顆骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
14	上腕骨顆部及び関節内骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
15	橈骨頭・頸骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
16	肘頭骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
17	モンテギア・ガレアッジ骨折	解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
18	前腕骨骨幹部骨折	解剖、発生機序、骨片転位、筋作用			
19	前腕骨骨幹部骨折	整復法、固定法、経過			
20	橈骨遠位端骨折（Colles）	解剖、発生機序、骨折の分類と骨折線の走行、症状			
21	橈骨遠位端骨折（Colles）	整復法と方法の選択			
22	橈骨遠位端骨折（Colles）	固定法と固定角度、経過と合併症、機能的治癒に対する考え方			
23	橈骨遠位端骨折（Smith）	発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法			
24	手根骨骨折	舟状骨骨折、解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法、その他の骨折			
25	中手骨骨折（ボクサー骨折）	中手骨部周辺の解剖と特徴、発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
26	中手骨骨折（骨幹部）	発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
27	中手骨骨折（ベネット）	発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
28	指骨骨折	指部の解剖と特異点、基節骨骨折の発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
29	指骨骨折	中手骨骨折発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
30	指骨骨折	末節骨骨折について、マレットフィンガー、脱臼骨折の発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過			
教科書	『柔道整復学理論書（改訂第5版）』				
参考書等					
成績評価基準	定期試験、小テスト、出席状況および授業態度を総合的に判断し評価する				
受講上の 注意事項					

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	下肢・体幹の骨折理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	久米 信好	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹の骨折について部位別に理解していく。骨盤骨骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨顆部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、脊椎骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	顔面・頭蓋部の骨折	頭蓋骨骨折・眼窩底破裂骨折			久米 信好
2	顔面・頭蓋部の骨折	上顎骨骨折・頬骨および頬骨弓骨折			
3	顔面・頭蓋部の骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折・下顎骨骨折			
4	体幹部の骨折	肋骨骨折・肋軟骨骨折			
5	体幹部の骨折	胸骨骨折			
6	脊椎部の骨折	頸椎骨折Ⅰ			
7	脊椎部の骨折	頸椎骨折Ⅱ			
8	脊椎部の骨折	胸椎および腰椎骨折Ⅰ			
9	脊椎部の骨折	胸椎および腰椎骨折Ⅱ			
10	下肢部の骨折	骨盤骨単独骨折			
11	下肢部の骨折	骨盤骨輪骨折			
12	下肢部の骨折	大腿骨近位端部骨折Ⅰ			
13	下肢部の骨折	大腿骨近位端部骨折Ⅱ			
14	下肢部の骨折	大腿骨骨幹部骨折			
15	下肢部の骨折	大腿骨遠位端部骨折			
16	下肢部の骨折	膝蓋骨骨折			
17	下肢部の骨折	分裂膝蓋骨			
18	下肢部の骨折	下腿骨近位端部骨折			
19	下肢部の骨折	下腿骨骨幹部骨折			
20	下肢部の骨折	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅰ			
21	下肢部の骨折	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅱ			
22	下肢部の骨折	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅱ			
23	下肢部の骨折	足根骨骨折Ⅰ			
24	下肢部の骨折	足根骨骨折Ⅱ			
25	下肢部の骨折	足根骨骨折Ⅲ			
26	下肢部の骨折	足根骨骨折Ⅳ			
27	下肢部の骨折	中足骨骨折Ⅰ			
28	下肢部の骨折	中足骨骨折Ⅱ			
29	下肢部の骨折	足指骨骨折			
30	定期試験および授業のまとめ				
教 科 書	『柔道整復学・理論編（改訂第 5 版）』				
参考書等					
成績評価基準	定期試験、出席状況、授業態度にて総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	顔面・頭蓋・脊椎・体幹・下肢の骨折は、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、柔道整復師の適応であるか否かの判断がつけられる能力を身につけたい。また、臨床上経験することが少ない骨折であっても国家試験には出題されるため、そのポイントの理解を得る。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名		上肢の脱臼理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		福田 格	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		1 年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは上肢の脱臼について部位別に理解していく。 肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指 節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法に ついて、理論的に学んでいく。				
回	テ ー マ		内 容			担当教員名
1	鎖骨の脱臼		胸鎖関節脱臼：特徴、解剖、分類、画像、整復、固定			福田 格
2	鎖骨の脱臼		肩鎖関節脱臼：特徴、解剖、分類、画像、整復、			
3	鎖骨の脱臼		肩鎖関節脱臼：固定法			
4	鎖骨の脱臼		肩鎖関節脱臼：経過、機能的治癒の考え方			
5	肩関節脱臼		前方脱臼：概論、特徴、解剖、分類、画像の見方			
6	肩関節脱臼		前方脱臼：発生機序、症状、合併症、鑑別診断			
7	肩関節脱臼		前方脱臼：脱臼経路と整復法			
8	肩関節脱臼		前方脱臼：脱臼時副損傷と整復阻害因子と対策			
9	肩関節脱臼		前方脱臼：固定法、後療法、新しい考え方			
10	肩関節脱臼		後方脱臼：発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、後療法			
11	肩関節脱臼		下方・上方脱臼：発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、後療法			
12	肩関節脱臼		反復性脱臼と因子 スポーツ障害に継ぐ因子			
13	肘関節脱臼		特徴、分類、解剖、発生機序、画像の見方			
14	肘関節脱臼		後方脱臼：症状、整復法			
15	肘関節脱臼		後方脱臼：固定法、後療法、経過			
16	肘関節脱臼		側方脱臼：症状、整復法、固定法、後療法、経過			
17	肘関節脱臼		前方脱臼：症状、整復法、固定法、後療法、経過 その他の脱臼			
18	肘関節脱臼		PIP、DIP 関節脱臼：整復、固定、経過			
19	肘関節脱臼		橈骨頭単独脱臼 発生機序、本態、症状、鑑別診断、整復法、固定法			
20	手関節部の脱臼		遠位橈尺関節脱臼 解剖、分類、症状			
21	手関節部の脱臼		遠位橈尺関節脱臼 整復、固定、経過			
22	手関節部の脱臼		橈骨手根関節脱臼 解剖、分類、症状、整復、固定、経過			
23	手根骨の脱臼		月状骨および月状骨周囲脱臼 解剖、分類、症状、整復、固定			
24	手根中手関節脱臼		症状、整復、固定			
25	指の脱臼		母指 MP 関節脱臼：分類、症状、整復、固定			
26	指の脱臼		他指 MP 関節脱臼：分類、症状、整復、固定			
27	指の脱臼		ロッキングフィンガー			
28	指の脱臼		PIP、DIP 関節脱臼：解剖、症状、脱臼の分類と考え方			
29	指の脱臼		PIP、DIP 関節脱臼：整復、固定、経過			
30	指の脱臼		PIP、DIP 関節脱臼に合併する骨折や支持組織の断			
教科書		『柔道整復学理論編（改訂第 5 版）』				
参考書等						
成績評価基準		定期試験、小テスト、出席状況および授業態度を総合的に判断して評価する。				
受講上の 注意事項						

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名		下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		櫻井 敬晋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		1 年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼について部位別に理解していく。股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、胸鎖関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				
回	テ ィ マ および 内 容					担当教員名
1	顎関節の機能解剖					櫻井 敬晋
2	顎関節脱臼各論（1）					
3	顎関節脱臼各論（2）					
4	顎関節脱臼各論（3）					
5	脊柱の機能解剖					
6	頸椎の脱臼各論					
7	胸椎の脱臼各論					
8	股関節の機能解剖（1）					
9	股関節の機能解剖（2）					
10	股関節脱臼各論（1）					
11	股関節脱臼各論（2）					
12	股関節脱臼各論（3）					
13	股関節脱臼各論（4）					
14	まとめ					
15	定期試験および授業のまとめ					
16	膝関節の機能解剖					
17	膝蓋骨脱臼各論（1）					
18	膝蓋骨脱臼各論（2）					
19	膝関節脱臼各論（1）					
20	膝関節脱臼各論（2）					
21	膝関節脱臼各論（3）					
22	足関節の機能解剖（1）					
23	足関節の機能解剖（2）					
24	足関節脱臼各論					
25	ショパール関節脱臼各論					
26	リスフラン関節脱臼各論（1）					
27	リスフラン関節脱臼各論（2）					
28	足指の脱臼					
29	まとめ					
30	定期試験および授業のまとめ					
教科書		『柔道整復学・理論編』 全国柔道整復学校協会編（南江堂）				
参考書等						
成績評価基準		定期試験および出席状況により判定する。				
受講上の 注意事項						

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷各論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ軟部組織損傷概論を基礎として、ここでは軟部組織損傷について部位別に理解していく。腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの発生機序、臨床症状、治療法などについて、理論的に学んでいく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	運動器の軟部組織	皮膚、筋、腱、靱帯、神経、血管の障害の診断の進め方			関 寛之
2	皮膚損傷	皮膚損傷の分類、創傷の再生と修復、皮膚欠損の治療法			
3	筋の損傷	筋の形態と機能、筋損傷の分類、損傷治癒機序			
4	腱の損傷	腱の構造と機能、腱損傷の分類、損傷治癒機序			
5	靱帯の損傷	靱帯の構造と機能、損傷の分類、靱帯損傷治癒機序			
6	末梢神経の損傷	末梢神経の構造、神経損傷の分類、症状と治癒機序			
7	四肢の血流障害	四肢血管損傷、損傷以外の動脈および静脈血流障害			
8	軟部組織損傷の初期処置	初期処置の要点、固定法、後療法			
9	運動療法	運動療法の基本型、筋収縮特性と運動療法、物理療法			
10	軟部組織損傷各論 (1)	むちうち損傷の分類、病期別治療法、胸郭出口症候群			
11	軟部組織損傷各論 (2)	胸背部の捻挫・挫傷、腰痛症とその他の脊椎疾患			
12	軟部組織損傷各論 (3)	肩部の損傷と障害、インピンジメント症候群、肩関節周囲炎			
13	軟部組織損傷各論 (4)	肘と前腕の障害、肘のスポーツ障害、コンパートメント症候群			
14	軟部組織損傷各論 (5)	上肢の末梢神経損傷および絞扼性神経障害			
15	軟部組織損傷各論 (6)	手関節と手の障害、三角線維軟骨複合体損傷、手の			
16	軟部組織損傷各論 (7)	外傷、手関節と手指の変形や疼痛を生じる疾患			
17	軟部組織損傷各論 (8)	股関節大腿の障害、梨状筋症候群、大腿四頭筋拘縮症			
18	軟部組織損傷各論 (9)	膝関節部の軟部組織損傷、半月板損傷、十字靱帯損傷			
19	軟部組織損傷各論 (10)	膝関節の変形や機能障害、膝関節周囲の滑液包炎等			
20	軟部組織損傷各論 (11)	下腿の軟部組織障害、コンパートメント症候群、アキレス腱			
21	軟部組織損傷各論 (12)	障害、足関節の外傷と障害、捻挫、腓骨筋腱脱臼			
22	軟部組織損傷各論 (13)	足部の損傷、変形、下肢の絞扼性神経障害と疼痛障害			
23	軟部組織損傷各論 (14)	代謝性疾患、アミロイドーシス、痛風、偽痛風			
24	軟部組織損傷各論 (15)	スポーツ障害とスポーツ外傷			
25	軟部組織損傷各論 (16)	高齢者の軟部組織障害、廃用症候群			
26	軟部組織損傷各論 (17)	神経筋障害による小児疾患、脳性まひ、筋ジストロフィ			
27	軟部組織損傷各論 (18)	感染症による軟部組織障害、糖尿病性壊疽			
28	軟部組織損傷各論 (19)	腫瘍性疾患、軟部腫瘍と腫瘍類似疾患			
29	軟部組織損傷各論 (20)	臨床徒手検査法・症状誘発試験（上肢・胸郭）			
30	軟部組織損傷各論 (21)	臨床徒手検査法・症状誘発試験（下肢・脊柱）			
教科書		レジメ、資料を配布する。スライド、DVD、ビデオなど視聴覚教材も用いる。			
参考書等		『柔道整復学・理論編（改定第5版）』 全国柔道整復学校協会監修（南江堂）2009			
成績評価基準		試験による。			
受講上の 注意事項					

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	画像診断学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師が医師との連携により治療にあたる際、画像診断の基礎的事項を理解しておく必要がある。骨折、脱臼や軟部組織損傷を診断するにあたり、発生機序や臨床症状とともに、X 線画像、MRI 画像や超音波画像が重要な手がかりとなる。ここでは、主要な関節の X 線画像の見方、主な骨折・脱臼・骨腫瘍の X 線画像、正常な MRI 画像の見方、腰椎椎間板ヘルニアや膝関節障害（半月損傷、靱帯損傷）の MRI 像、骨格筋の超音波画像の見方などについて学ぶ。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	運動器系の解剖総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨学、靱帯学、筋学などの運動器について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。骨組織の光学顕微鏡観察、骨の構造、各関節の関節包・靱帯、骨格筋の起始・停止・作用・神経支配の復習、骨格筋の 3 次元的な理解とともに、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	骨折理論総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨折理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	脱臼理論総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に脱臼理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に軟部組織損傷の理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。筋・腱・靱帯の光学顕微鏡観察を行い、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名		包帯実技	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		小山 浩司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的治療の固定においては、高度な包帯法の技術が要求される。基本包帯法（環行帯、亀甲帯、麦穂帯、折転帯など）、冠名包帯法（デゾー包帯など）、部位別包帯法、三角巾による提肘、さらしによる固定法、各種固定材料の作製法と固定の実際について学ぶ。1 年間にわたる包帯実技により、治療目的に対して合理的で、見た目も美しく、均一な圧で心地よい包帯が巻けるようになることを目指す。				
回	テ ィ マ および 内 容					担当教員名
1	固定の目的、固定材料の種類					小山 浩司
2	巻軸帯の巻き方及び巻き戻し					
3	基本包帯 (1)					
4	基本包帯 (2)					
5	部位別包帯法：肩部①					
6	部位別包帯法：肩部②					
7	部位別包帯法：肘部・前腕部					
8	部位別包帯法：手関節部・手指部					
9	部位別包帯法：股関節部・大腿部					
10	部位別包帯法：膝関節部					
11	部位別包帯法：下腿部					
12	部位別包帯法：足関節部・足指部					
13	部位別包帯法：胸部・背部					
14	前学期復習					
15	定期試験					
16	部位別包帯法：頭部・顔面部①					
17	部位別包帯法：頭部・顔面部②					
18	冠名包帯法：デゾー包帯①					
19	冠名包帯法：デゾー包帯②					
20	冠名包帯法：ヴェルポー包帯					
21	冠名包帯法：ジュール包帯					
22	三角巾による固定					
23	固定材料の作製と固定例：厚紙副子					
24	固定材料の作製と固定例：金属副子					
25	固定材料の作製と固定例：ギプス					
26	テーピング (1)					
27	テーピング (2)					
28	テーピング (3)					
29	後学期復習					
30	定期試験および授業のまとめ					
教科書		『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等						
成績評価基準		定期試験、出席状況及び授業態度を総合判断し、判定する。				
受講上の 注意事項						

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の骨折実技Ⅰ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	佐奈木 篤司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨頭骨折、上腕骨解剖頸骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の骨折実技Ⅱ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	福田 格	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは肘頭骨折、橈骨頭骨折、橈骨頸骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、ベンネット骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	下肢の骨折実技	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	根本 恒夫	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の下肢の骨折の理論を基礎として、ここでは大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨上端部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	体幹の骨折実技	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	根本 恒夫	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の体幹の骨折の理論を基礎として、ここでは肋骨骨折、胸骨骨折、脊椎骨折、骨盤骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の脱臼実技	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	本間 琢英	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	下肢（顎関節を含む）の脱臼実技	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	本間 琢英	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の下肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	軟部組織損傷の実技	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小山 浩司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ軟部組織損傷概論、2 年次で学んだ部位別の軟部組織損傷各論を基礎として、ここでは腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの軟部組織損傷の徒手検査法・治療法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習 I	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／45 時間
授業の目的 および 到達目標	実際の臨床実習の前段階として、医療人としての倫理観、医療人に相応しい服装・容姿・態度・マナー・話し方、柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携などについて学ぶとともに、3 年次・4 年次に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場で必要な基本的知識を学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	医療人としての倫理観				成瀬 秀夫
2	医療人に相応しい服装、容姿、態度、マナー、話し方				小山 浩司
3	柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携				櫻井 敬晋
4	受付対応法				中澤 正孝
5	問診法、施術録の記入法				成瀬 秀夫
6	患者の診察手順				櫻井 敬晋
7	徒手検査法の実際：上肢				成瀬 秀夫
8	徒手検査法の実際：下肢				櫻井 敬晋
9	徒手検査法の実際：体幹				小山 浩司
10	徒手検査法の実際：体幹				中澤 正孝
11	画像診断装置の見学、理解 (1)				成瀬 秀夫
12	画像診断装置の見学、理解 (2)				櫻井 敬晋
13	画像診断装置の見学、理解 (3)				小山 浩司
14	画像診断装置の見学、理解 (4)				中澤 正孝
15	口頭試問、実技試験				成瀬、小山 櫻井、中澤
16	物理療法機器の理解と体験 (1)				小山 浩司
17	物理療法機器の理解と体験 (2)				中澤 正孝
18	柔整手技療法 (1)				成瀬 秀夫
19	柔整手技療法 (2)				櫻井 敬晋
20	模擬患者によるトレーニング (1)				小山 浩司
21	模擬患者によるトレーニング (2)				中澤 正孝
22	模擬患者によるトレーニング (3)				成瀬 秀夫
23	口頭試問、実技試験				成瀬、小山 櫻井、中澤
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『リハビリテーション医学』 全国柔道整復学校協会（南江堂）				
成績評価基準	口頭試問、実技試験および実習態度を総合的に判断し、評価する。				
受講上の 注意事項	3 年次以降に実施される実際の臨床現場での実習が、有意義に行えるようにしっかりと 学習すること。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習Ⅱ	開講時期	3年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	2年次に実施した臨床実習事前トレーニングを踏まえ、3年次では、大学付属接骨院（臨床実習施設）において、指導教員の指示の下、種々の疾患に対する問診法、触診法、検査法および治療法について見学実習する。少人数で実習し、毎回レポートの提出、自己評価と指導教員による評価を行うとともに、カンファレンスを経験させる。 （中澤 正孝・小山 浩司・櫻井 敬晋）				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習Ⅲ	開講時期	4年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	2年次での臨床実習事前演習、3年次での学内付属接骨院での見学実習、さらに3年次までに学んだ講義および実技実習を踏まえ、4年次では学内の付属接骨院およびクリニックでの実習に加え、学外の整形外科医院および接骨院での見学実習を実施する。 （中澤 正孝・小山 浩司・櫻井 敬晋）				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	演習	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	4 年間学んできた中で、自身が最も関心をもった事項につき、主体的にテーマを設定し、担当教員の指導の下で、当該分野の過去の論文を検索して検討するとともに、自ら種々な研究技法を用いて論文としてまとめていく。また、研究成果を口述やポスターなどの形式で発表経験することで、プレゼンテーションの方法や技法を学ぶ。 (関 寛之・柚木 脩・荒井 裕一郎・鈴木 秀一・寺井 政憲・成瀬 秀夫・木村 明彦・久米 信好・高橋 康輝・橋本 昇・小山 浩司・櫻井 敬晋・徳安 秀正・笹木 正悟)				

3 .

アスレティックトレーナー・
スポーツプログラマー・
健康運動実践指導者科目

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ社会学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	田蓑 健太郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、今やスポーツは人々の生活に分かちがたく深く切り結んでいるが、スポーツは単独で存在しているのではなく、社会事象の一部として存在する。したがって、スポーツを社会的に理解しようとするとき、社会事象を踏まえることが必要不可欠である。とりわけ、現代の我が国に焦点を当てると、価値観の多様化、少子高齢化は、スポーツの側面からも看過することのできないものである。 そこで、本講義では、スポーツを歴史・文化・社会の側面から捉えることによって、現代社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割について学習することによって、スポーツについて理解を深めるものである。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	スポーツとは				田蓑健太郎
2	スポーツの概念と歴史について				
3	文化としてのスポーツとその特性				
4	社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割				
5	我が国のスポーツプロモーション				
6	スポーツプロモーションの課題と展望				
7	高齢者及び障害者のためのスポーツ				
8	試験				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	特になし				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ経営学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	田中 宏和 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、わが国における行政とスポーツのかかわりの現状と課題について認識を深める。またスポーツ組織の経営や運営に必要な基礎的知識について学習するとともに、スポーツに関わる現代的課題について解説する。 (時本 識次／2 回) 我が国のスポーツ振興政策と行政とスポーツのかかわりについて教授する。 (田中 宏和／5.5 回) 地域スポーツクラブや広域スポーツセンターの機能と役割、スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価について教授する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	我が国におけるスポーツ行政組織及び関係組織（国、地方自治体）				時本 識次
2	我が国におけるスポーツ振興施策及び地域におけるスポーツ振興の現状と課題				
3	地域スポーツクラブとしての「スポーツ少年団」				田中 宏和
4	スポーツ経営学の対象（スポーツとは）、近接関係領域について				
5	スポーツ組織の運営及びスポーツ事業の計画・運営・評価①				
6	スポーツ組織の運営及びスポーツ事業の計画・運営・評価②				
7	総合型地域スポーツクラブ及び広域スポーツセンターの機能と役割				
8	試験				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	特になし				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	競技者育成システム論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育て・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。講義のポイントとして 1 週間、1 年間などの一定期間内に行う指導を、どのように実施するかを示す指導計画立案に含まれるべき内容、項目の理解、さらに一定期間内だけではなく、将来、競技者として最高のパフォーマンスを発揮できるようにするために、指導計画に考慮すべき内容、項目を理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	競技者育成と評価				堀野 博幸
2	スポーツ指導と指導者のあり方についての評価				
3	競技者育成システムにおける指導計画				
4	指導計画の時期区分				
5	競技力向上のためのチームマネジメント				
6	競技スポーツと IT				
7	映像を利用した技術指導				
8	試験				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	集中講義にて実施する				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	発育発達論	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	広瀬 統一	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキヤモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ心理学総論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目ではスポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的な内容として、「パフォーマンスの向上」と「スポーツへの適応」をスポーツ心理学アプローチによって考察する。また、生活習慣病予防の行動変容やなりやすい性格、行動パターン、ストレス解消の生理・心理・社会的側面を理解させるとともにスポーツ相談についても学ばせる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	スポーツと心				堀野 博幸
2	スポーツにおける動機づけ（生活習慣病の人に対する行動変容）				
3	行動心理学（個人・集団）				
4	コーチングの心理				
5	メンタルマネジメント				
6	指導者のメンタルマネジメント				
7	スポーツ心理学の現状と今後の課題				
8	試験				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	『新版 運動心理学入門』 松田岩男、杉原隆（大修館書店） 『最新スポーツ心理学－その奇跡と展望』 日本スポーツ心理学会（大修館書店） 『スポーツメンタルトレーニング教本』 日本スポーツ心理学会（大修館書店）				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	集中講義にて実施する				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	コーチング論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	前山 定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目は、国民の一人一人が、豊かで活力のある生活・暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適正・興味・関心など、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツを構築していくという社会、いわゆる生涯スポーツ社会を実現していくための助言者と成りえるための知識を理解、習得させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	スポーツ指導者とは				前山 定
2	指導者の心構え・視点				
3	競技者育成プログラムの理念				
4	指導計画のたて方①				
5	指導計画のたて方②				
6	スポーツ活動と安全管理①				
7	スポーツ活動と安全管理②				
8	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①				
9	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任②				
10	スポーツと人権				
11	プレーヤーと指導者の望ましい関係①				
12	プレーヤーと指導者の望ましい関係②				
13	ミーティングの方法				
14	競技者育成プログラムの理念に基づく展開				
15	試験				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	特になし				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニング科学総論	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	高橋 康輝 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、体力と体力の諸要素を高めるためのトレーニングについて学習する。体力とは大きく身体的要素と精神的要素があり、それぞれに「防衛力」としての体力と、「行動力」としての体力に分けられる。この概念を把握するとともに、さまざまな体力の特性や分類について理解を深める。またトレーニングを実行する際の効果的なトレーニング処方や、ウォーミングアップとクーリングダウンの目的、方法を理解する。さまざまなバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、さまざまなトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。 (高橋 康輝/3 回) 体力についてとトレーニングの種類や進め方について教授する。 (伊藤 良彦/6 回) トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストについて教授する。 (若山 章信/6 回) スポーツバイオメカニクスの基礎、スキルの獲得やその習得過程においても教授し理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1 2	体力とは トレーニングの進め方				高橋 康輝
3 4 5 6 7 8	トレーニングの種類 トレーニング理論とその方法 トレーニング計画とその実際 トレーニングの評価方法 コーチング理論 体力テストとその活用				伊藤 良彦
9 10 11 12 13 14	形態および身体組成の測定と評価について 筋力・筋パワーの測定と評価について 無酸素・有酸素性能力の測定と評価について スキルの獲得とその獲得過程 スポーツバイオメカニクスの基礎 スポーツバイオメカニクスの実際				若山 章信
15	試験				高橋 康輝
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	『トレーニングの科学的基礎－現場に通じるトレーニング科学の基礎』 宮下充正（ブックハウス HD） 『競技力向上のトレーニング戦略』 ポンパ・チューダー（大修館書店） 『トレーニングによる体の適応』 平野裕一、加賀谷淳子（杏林書店）				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	特になし				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ医学総論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツと健康を中心に外科系ではスポーツ活動中の外傷・障害について、内科系では内科的障害や健康管理、アンチドーピングについて学ばせる。またアスレティックリハビリテーションからコンディショニングの基本を学ばせる。 (柚木 脩／3 回) アスリートの健康管理としてメディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて理解させる。 (辻 秀一／4 回) アスリートの内科的障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法を理解させる。 (小出 清一／4 回) アスリートの外傷・障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その予防法や対処法、テーピング、ストレッチング、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画として、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解させる。 (辻 秀一／4 回) アスリートの精神障害と対策として、アスリートは過剰なストレスによる精神的な障害も起り得るということを理解し、適切な対応ができるよう学習する。特殊環境下での対応として、特殊環境（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。				
回	テ ィ マ オ および 内 容				担当教員名
1	スポーツと健康（健康の概念について）				柚木 脩
2	我が国における健康づくり施策 （特定健診・特定保健指導事業・運動基準・エクササイズガイド等）				
3	スポーツ活動中に多いケガや病気（内科・外科）				辻 秀一
4	健康運動およびスポーツ実施者の健康管理				
5	健康運動およびスポーツ実施者の内科的障害と対策				
6	運動器のしくみと働き（筋系）				
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給機構				
8	スポーツによる精神障害と対策				
9	特殊環境下での対応				
10	アンチドーピング				
11	健康運動およびスポーツ実施者の外傷・障害と対策				小出 清一
12	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画				
13	コンディショニングの手法（ストレッチング・テーピング・アイシング・スポーツマッサージ）				
14	救急処置（救急蘇生法・RICE）				
15	試験				柚木 脩
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	『スポーツ指導者のためのスポーツ医学－改訂第2版』小出清一、福林徹（南江堂）2009 『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・傷害－改訂第2版』市川宣恭（南江堂）2000				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	授業時間割変更に注意して受講すること				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティックトレーナーの役割	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーの変遷と日本体育協会が掲げるアスレティックトレーナーの役割を学ばせる。 (泉 秀幸／4 回) スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を教授し理解させる。 (村木 良博／7 回) アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取ってサポートしていく方法について教授し理解させる。 (溝口 秀雪／4 回) アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序やアスレティックトレーナーと倫理について教授し、倫理観を身につけさせるよう学ばせる。				
回	テ ィ マ お よ び 内 容				担当教員名
1	アスレティックトレーナーとは				泉 秀幸
2	アスレティックトレーナー制度の歴史				
3	諸外国におけるアスレティックトレーナーに相当する制度				
4	アスレティックトレーナーの任務と役割				村木 良博
5	アスレティックトレーナーの業務				
6	アスレティックトレーナーの活動（合宿・遠征・試合）				
7	競技別アスレティックトレーナー活動①				
8	競技別アスレティックトレーナー活動②				
9	医科学スタッフの構成と役割				
10	スポーツドクターとの連携協力、コーチとの連携協力				
11	アスレティックトレーナーの組織・運営・管理				溝口 秀雪
12	アスレティックトレーナーの目的と社会的立場				
13	アスレティックトレーナーの倫理				
14	アスレティックトレーナーと法的諸問題				
15	試験				泉 秀幸
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキストⅠ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』 ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000 『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.ブレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	特になし				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニング科学	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	伊藤 良彦	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者のパフォーマンス向上に必要なトレーニングとは何か。各トレーニングの目的・効果・方法を理解し、正確に指導できる知識を身につける。また、トレーニング計画を立てる際に、トレーニング環境や負荷の増減、疲労などの問題があることを理解し、それらに対する対処・解決策を身につける。また講義の中で実技指導を実施し、スポーツ選手をサポートする現場で役立つ知識を習得させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ・バイオメカニクス	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	23年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツにおける身体運動を力学的立場から検証し、スポーツ技能の理解や、スポーツ技術の分析力、批判力、創造力を高めることを目的とする。講義のポイントとして、バイオメカニクスの基礎や走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴る、滑る、押す、回る、打つバイオメカニクスを中心に、運動の力学的な捉え方を学習することで、動きの記述、動きの原因の説明、動きの改善や最適化、良い動きの創造などスポーツの分析的な考察ができるようにする。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	運動生理学	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、運動器の構造、機能と機能解剖に関する基礎的知識を理解し、身体を動かす運動器の働きを系統的に学び、スポーツに関するよりよい動作の獲得の手がかりを得る。講義のポイントとして、筋肉、骨、関節、神経に関する基本的知識とそれぞれがどのようにつながり、動きをおこさせているかを理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ心理学	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動（行動）は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	運動器の解剖と機能	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小出 清一	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基礎解剖学を踏まえ、運動器の解剖と機能を中心に、運動器の構造と機能、関節・骨格筋の構造と機能を理解させる。体幹の基礎解剖と運動では脊柱、頸椎、胸郭、腰椎、骨盤の運動について学ぶ。上肢の基礎解剖と運動では、上肢帯、肩関節、肘関節、手関節・手部の運動について学ぶ。下肢の基礎解剖と運動では股関節、膝関節、足関節・足部について学ぶことにより、アスレティックトレーナーが行う、競技者の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解させる。そのために、運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ外傷障害の基礎知識	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーがトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血など）、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得させる。 （柚木 脩／4 回）総論と体幹のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （小出 清一／4 回）上肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （田淵 健一／4 回）下肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （福林 徹／3 回）重篤な外傷や年齢・性別による特徴、スポーツ整形外科的メディカルチェックについて教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	健康管理とスポーツ医学	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	赤間 高雄 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスリートにみられる内臓器官の疾患（病気）、感染症（呼吸器、血液、皮膚）、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）、特殊環境下（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。またドーピングコントロールとして、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項などを学び、スポーツ選手に指導することができるようにする。 （赤間 高雄／6 回）アスリートにみられる内臓器官の疾患や病的現象、感染症に対する対策について理解させる。 （辻 秀一／9 回）特殊環境のスポーツ医学や年齢・性別による特徴について教授する。内科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	身体 の 検 査 ・ 測 定 と 評 価 (体力測定を含む)	開講時期	2 年 次 ・ 後 学 期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	高橋 康輝 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査・測定手技について、その目的と意義を理解し、実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。具体的には、姿勢、身体アライメントの観察と計測、関節可動域、関節弛緩性の計測、徒手筋力検査、身体組成の測定、機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法を習得させる。 (広瀬 統一／8 回) アスレティックトレーナーに必要な評価と全身持久力、敏捷性身体組成や体力測定について教授し理解させる。 (高橋 康輝・笹木 正悟／7 回) スポーツ動作の観察と分析について理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	体力測定の理論				広瀬 統一
2	体力測定の方法				
3	全身持久力・筋力の測定				
4	身体活動量				
5	身体組成の測定方法				
6	測定結果の処理と評価				
7	体力評価とスポーツプログラム①				
8	体力評価とスポーツプログラム②				
9	「運動基準」と「運動指針」				高橋 康輝 笹木 正悟
10	歩行・走動作のバイオメカニクス				
11	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス				
12	跳動作のバイオメカニクス				
13	投動作のバイオメカニクス				
14	外傷の発生機転となるような動作の特徴とメカニズム				
15	試験および本講義のまとめ				
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	『測定と評価－現場に活かすコンディショニングの科学』 山本利春（ブックハウス HD） 『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』 西園秀嗣（大修館書店） 『スポーツバイオメカニクス』 深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良（朝倉書店） 『バイオメカニクス－身体運動の科学的基礎』 金子公有、福永哲夫（杏林書店）				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	実習に適した服装に着替えて受講すること。 (1)～(8)は集中講義にて実施する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニングⅠ	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目ではコンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者（競技者）が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を理解させる。また、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境づくりの方法やコンディショニングの方法と実際についても理解させる。 （村木 良博/5 回）コンディショニングの把握と管理について教授する。 （石山 信男/5 回）競技力向上を目的としたコンディショニングの方法について教授する。 （泉 秀幸/5 回）フィットネス（基礎体力）テストやフィールドテストについて教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニングⅡ (テーピング・ストレッチングを含む)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	溝口 秀雪 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、コンディショニングの方法と実際として、ストレッチングの理論とその方法について学び、それを通して柔軟性の獲得、指導及び教育ができるようにする。テーピングの理論とその方法を学ぶ。テーピングの際の注意点や基本のテーピングを理解するとともに身体各部位が巻けるようになる。またコンディショントレーニング（機能調整、回復、向上）である 1）代謝系トレーニング（有酸素（減脂肪、持久力向上）、無酸素）、2）筋力トレーニング、コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングの指導ができるようにする。 （津田 清美・岩本 紗由美/5 回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてストレッチングについて教授し実践できるようにする。 （茂木 奈津子/5 回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてテーピングについて教授し実践できるようにする。 （溝口 秀雪・22年度以降就任予定 1 名/5 回）疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際について教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニングⅢ	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小山 浩司 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性とコンディショニング」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について各競技別に学ぶ。 (門馬 崇文/2 回) 冬季系競技であるスキー競技やスケート競技のコンディショニング方法について教授する。 (増田 雄一/3 回) 記録系競技で陸上競技や水泳競技のコンディショニング方法について教授する。 (古舘 昌宏・竹田 康成・石山 信男/7 回) 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技のコンディショニング方法について教授する。 (小山 浩司/3 回) 採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングのコンディショニング方法について教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティックリハビリテーションⅠ	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	加藤 知生 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。講義ポイントとして、アスレティックリハビリテーションの定義、歴史、現場における AT の活動内容などの総論に加え、アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法（運動療法、物理療法）を理解させる。 (加藤 知生/10回) アスレティックリハビリテーション総論と運動療法（アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズ）基礎知識を教授する。 (関 寛之/3 回) 物理療法総論と温熱療法や寒冷療法、電気療法について教授する。 (板倉 尚子/2 回) 補装具についてと、アスレティックリハビリテーションで使用される装具について教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのアスレティックリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解することにより、スポーツドクター、アスレティックトレーナーとの緊密な連携を取った上でトレーニング計画を作成することの重要性について理解させる。講義ポイントとしてアスレティックリハビリテーションの基本的な進め方、受傷後から復帰までのアスリハプログラミングについて具体的な段階を理解させる。 (泉 秀幸/3 回) 体幹部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (加藤 知生/6 回) 上肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (板倉 尚子/6 回) 下肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティックリハビリテーションⅢ	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小山 浩司 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について学ぶ。 (増田 雄一/2 回) 冬季系競技であるスキー競技やスケート競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (加藤 知生/3 回) 記録系競技で陸上競技や水泳競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (広瀬 統一/7 回) 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (小山 浩司・笹木 正悟/3 回) 採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングの種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ栄養学	開講時期	4年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	平成22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高めるとともに競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。また、合宿、遠征などの特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、アスリートに対する管理ができるようにする。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	エアロビック運動の実際Ⅰ	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	戸松 哲男 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させるとともに、有酸素性作業能力を評価する指標としての最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の意義を理解させる。また実習として、エアロビックダンス一連の運動動作を実習し、それらの特徴と注意点を理解させる。 (伊藤 句里子／7 回) エアロビックダンスの特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 (戸松 哲男／4 回) 高齢者の運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。 (長井 雅子／4 回) 障害者スポーツの運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	エアロビックエクササイズ				伊藤句里子
2	エアロビックダンスとは				
3	エアロビックダンスの実施効果				
4	エアロビックダンスの基本的動作				
5	エアロビックダンスのプログラムの構成と作成				
6	エアロビックダンスにおける動作の構成（心拍数を利用した運動強度の調節）				
7	エアロビックダンスの全体構成（対象に応じたプログラム作成）				
8	対象者に合わせた実施方法と指導中の心得				長井 雅子
9	障害者のフィットネスプログラム①				
10	障害者のフィットネスプログラム②				
11	障害者のフィットネスプログラム③				
12	中高齢者のフィットネスプログラム①				戸松 哲男
13	中高齢者のフィットネスプログラム②				
14	中高齢者のフィットネスプログラム③				
15	試験および本講義のまとめ				
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	実習に適した服装に着替えて受講すること				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	エアロビック運動の実際Ⅱ	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	徳安 秀正 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、運動強度と心拍出量、心拍数の関係、運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解させるとともに、実習として、運動プログラムを作成し、心拍数でそれぞれの強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを理解させる。また水泳・水中運動として、水の性質の理解や各種泳法を実習させ、指導上の留意点を理解させる。 (徳安 秀正・笹木 正悟/6回) 水中・水泳運動の特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 (長井 雅子・小柳 佑華/5回) 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニスの運動や指導方法について理解させ実践指導できるようにする。 (笹木 正悟/2回) 採点競技系の体操競技や格技系の柔道の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。 (竹田 康成/2回) 記録系競技の陸上の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニングの理論と実際	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	伊藤 良彦 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方や目的に応じた体操の重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導法を学ばせる。またウェイトトレーニング・サーキットトレーニングの原則・効果・安全性について説明し、実習を通して効果的かつ安全に行えるよう指導法を学ばせる。 (伊藤 良彦／2 回) 補強運動としてのトレーニング方法やプログラミングについて教授する。 (岩本 紗由美／4 回) アイソメトリック・アイソキネティックトレーニングについて理解させ実践させる。 (伊藤 良彦／6 回) ウェイトトレーニングについて理解させ実践させる。 (岩本 紗由美／3 回) サーキットトレーニングや準備運動について理解させ実践させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	筋力トレーニングの原理原則と注意点				伊藤 良彦
2	筋力トレーニング				
3	フリーウエイトとトレーニングマシンの特性				
4	マシントレーニングの実際①				
5	マシントレーニングの実際②				
6	アネロビックな動作・運動				
7	アネロビックな動作・運動の種類とプログラム立案				
8	ウォーミングアップとクーリングダウン				岩本紗由美
9	スピードトレーニング				
10	筋持久力のトレーニング				
11	柔軟性系				
12	調整力系				
13	サーキットトレーニングの理論と実際				
14	器具を利用しないレジスタンストレーニング				
15	試験および本講義のまとめ				伊藤 良彦
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及び試験・レポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	実習に適した服装に着替えて受講すること。 (1)～(7)は集中講義にて実施する。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	健康づくりと運動プログラム	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、健康づくりのための運動プログラム作成上の原則を運動強度、時間、頻度の視点から理解させるとともに、スポーツを行わせる際の安全性と指導上の問題点を理解させる。トレーニングの原則と効果やウォーミングアップとクーリングダウンの方法やエアロビクス運動の理論についても学ぶ。また、スポーツ指導者の役割や障害者福祉や障害者スポーツ指導方法についても併せて学ばせる。 (戸松 哲男/2 回) 運動不足が健康や生活習慣病に与える影響を理解させ、トレーニングの原則や運動方法、プログラミング方法、ウォーミングアップやクーリングダウンについて教授し理解させる。 (伊藤 句里子/4 回) エアロビクス運動の理論について教授し理解させる。 (泉 秀幸/7 回) スポーツ指導者(健康運動実践指導者、スポーツプログラマー)の役割や障害者福祉論、障害者スポーツ指導員の役割について教授し理解させる。 (溝口 秀雪/2 回) スポーツマッサージについて理解させその方法について教授する。				
回	テ マ オ および 内 容				担当教員名
1 3	運動と健康 ウォーミングアップとクーリングダウン				戸松 哲男
6 7 8 9	全身持久力とエアロビクス運動の理論 有酸素性作業能力の指標 有酸素性作業能力を向上させるトレーニングの方法 有酸素運動の強度設定と健康増進				伊藤句里子
4 5	マッサージの効果 アイシングの効果				溝口 秀雪
2 10 11 12 13 14 15	有資格者の役割 フィットネスプログラムの基本的な方法 各年代別・性別におけるフィットネスプログラム 子供のフィットネスプログラム スポーツ行動における性差 女性のフィットネスプログラム 試験および本講義のまとめ				泉 秀幸
教科書	『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』(日本体育協会) 『健康運動実践指導者養成用テキスト』(健康・体力づくり事業財団)				
参考書等	特になし				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	実習に適した服装に着替えて受講すること				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅰ (見学実習)	開講時期	1年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	溝口 秀雪	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ現場や医療機関においてスポーツドクターや指導者との連携、トレーナーの施設、整備、運営方法やアスレティックトレーナーが担当する役割について学ばせる。また、スポーツの現場におけるアスレティックトレーナー業務、スポーツドクターの役割についてスポーツ関連施設を通して、スポーツと社会やその成り立ちについて学ばせる。 1. トレーニングルーム、スポーツ関連施設について見学させ理解させる。 2. アスレティックトレーナーのトレーナールームや医療の現場やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。 3. スポーツドクターの医療機関やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。 4. 各スポーツの練習や試合観戦を通し、競技ルールや現場におけるアスレティックトレーナーの業務について理解させる。				
回	テーマ および 内 容				担当教員名
1	現場実習オリエンテーション				溝口 秀雪
2	大学付属臨床施設 施設見学				戸松 哲男
3	体育施設 施設見学				長井 雅子
4	体育施設 施設見学および利用規定について				茂木奈津子
5	トレーナー見学実習①				
6	トレーナー見学実習②				
7	トレーナー見学実習③				
8	トレーナー見学実習④				
9	トレーナー見学実習⑤				
10	トレーナー見学実習⑥				
11	トレーナー見学実習⑦				
12	トレーナー見学実習⑧				
13	トレーナー見学実習⑨				
14	トレーナー見学実習⑩				
15	まとめ				
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』 ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000 『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.ブレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007 『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	1) (財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。そのため、授業には必ず参加すること。 2) 現場実習に適した服装に替えて受講すること。 3) 現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅱ (測定と評価、プログラミング)	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	笹木 正悟 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ外傷、評価、リハビリテーション手法に関する知識を統合させ、例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになるとともに、身体的リスクに考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようスポーツ現場や医療機関を通して学ばせる。 1. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて競技者の身体検査・測定と評価について教授し実践させる。 2. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて各外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラムについて教授し実践させる。 (笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃)				
回	テ マ オ よ び 内 容				担当教員名
1	現場実習オリエンテーション				笹木 正悟
2	スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価①				泉 秀幸
3	スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価②				津田 清美
4	医療現場における競技者の身体検査・測定と評価①				伊藤句里子
5	医療現場における競技者の身体検査・測定と評価②				長井 雅子
6	トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価①				門馬 崇文
7	トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価②				大室 紫乃
8	スポーツ現場における外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム①				
9	スポーツ現場における外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム②				
10	スポーツ現場における外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム③				
11	医療現場における外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム①				
12	医療現場における外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム②				
13	トレーナールームにおける外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム①				
14	トレーナールームにおける外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラム②				
15	まとめ				
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』 ロナルド・P.ファイファー：プレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000 『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.プレントイス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007 『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	1) (財) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。そのため、授業には必ず参加すること。 2) 現場実習に適した服装に着替えて受講すること。 3) 現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅲ (スポーツ現場実習)	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるように主としてその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。 1. 医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 2. 各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 (泉秀幸・笹木正悟・津田清美・伊藤句里子・長井雅子・門馬崇文・大室紫乃)				
回	テ マ オ よ び 内 容				担当教員名
1	現場実習オリエンテーション				泉 秀幸
2	医療現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践①				笹木 正悟
3	医療現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践②				津田 清美
4	トレーナールームにおけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践①				伊藤句里子
5	トレーナールームにおけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践②				長井 雅子
6	競技別スポーツ現場実習①				門馬 崇文
7	競技別スポーツ現場実習②				大室 紫乃
8	競技別スポーツ現場実習③				
9	競技別スポーツ現場実習④				
10	競技別スポーツ現場実習⑤				
11	競技別スポーツ現場実習⑥				
12	競技別スポーツ現場実習⑦				
13	競技別スポーツ現場実習⑧				
14	競技別スポーツ現場実習⑨				
15	まとめ				
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』 ロナルド・P.ファイファー：プレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000 『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.ブレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007 『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001				
成績評価基準	出席状況、授業態度及びレポートにより総合的に評価する				
受講上の 注意事項	1) (財) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180 時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。そのため、授業には必ず参加すること。 2) 現場実習に適した服装に替えて受講すること。 3) 現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅳ (アスレティックリハビリテーション)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。 1. 医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 2. 各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 (泉 秀幸・笹木 正悟・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・23年度以降就任予定 1 名)				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅴ (総合実習)	開講時期	3 年次・集中	必修/選択/自由	自由
担当教員名	笹木 正悟 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう総合的に学ばせる。 現場実習 1) 2) 3) 4) を段階的に学ばせ、総合実習としてスポーツ現場や医療機関において、これまでに学習してきた内容を含む包括的な実習を行う。またスポーツドクターやコーチ、選手を取り巻く関係者との連携、トレーナー室の施設、整備や運営方法についてもその基本を学ばせる。長期、中短期の練習スケジュールにあわせた競技者のコンディショニング、合宿や遠征、試合を通してスポーツ現場や医療機関において日本体育協会が定めるトレーナーの役割スポーツドクターやコーチと緊密な連携を 1. 医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。 各競技スポーツの現場においてトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。 (笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・23年度以降就任予定 1 名)				

全学融合科目

共通基礎科目

鍼灸学科

専門基礎科目

専門科目

柔道整復学科

専門基礎科目

専門科目

健康運動実践指導者
コースプログラムの
アシスタント！

看護学科

専門基礎科目

専門科目

Ⅲ．看護学部

1.

看護学科

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の構造Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	佐藤 達夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。看護学科で学ぶ多くの臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。人体の構造Ⅰでは、概論、運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系を系統的に解剖学を学ぶ。2 次元的数据だけではなく、さらに人体模型や立体映像等を用いて 3 次元的なイメージをつけさせ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、看護師・保健師にとって必要な、人体の構造の基本を理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	総論				佐藤 達夫
2	運動器（骨）				
3	運動器（筋）				
4	消化器				
5	呼吸器				
6	泌尿器				
7	生殖器				
8	内分泌器				
9	心臓・血管				
10	血管・リンパ系				
11	脊髄神経・自律神経				
12	脳神経				
13	脳・脊髄				
14	感覚器				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『入門人体解剖学』 藤田恒夫（南江堂）1999				
参考書等	『からだの地図帳』 高橋長雄（講談社）1989 『胸部の地図帳』 佐藤達夫（講談社）2008				
成績評価基準	定期試験、小テスト、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項	看護学の基礎となる科目であり、十分に学習し理解する必要がある。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の構造Ⅱ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、人体の構造Ⅰで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。人体の構造Ⅱでは系統解剖学のみならず局所（臨床）解剖学・体表解剖学についても理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習（組織学実習）を行う。また、注射・導尿・聴診などの看護師・保健師が行う業務に関する解剖学的知識を理解させるよう学ばせる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
	前期後半より開講のため2時限連続で行う				木村 明彦
1	解剖学総論（組織・発生・体表の区分け）、上肢・下肢の解剖学				
2	（骨学的体表ポイント、注射部位を中心として）				
3	頭部・頸部の解剖学				
4	（鼻部・口部内臓を中心として）				
5	胸部の解剖学				
6	（心臓・気管・肺を中心として）				
7	腹部の解剖学				
8	（消化管・消化腺を中心として）				
9	腹部の解剖学				
10	（泌尿器・動静脈・内分泌系を中心として）				
11	解剖見学				
12	（東邦大学医学部解剖学実習室を予定）				
13	骨盤部の解剖				
14	（生殖器を中心として）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	・人体の構造Ⅰで使用するもの ・『カラスケッチ解剖学（第3版）』 嶋井和世 監訳（廣川書店）				
参考書等	『解剖学 コメディカルのための専門分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社）2004				
成績評価基準	出席、課題レポート、実習態度、定期試験により総合評価する。				
受講上の 注意事項	授業開始前に課題レポートの提出があります。詳細は5月後半（開講2週間前）に発表します。 授業中に色鉛筆（12色で十分です）を使用します。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の機能Ⅰ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅰでは、生理学の基礎、体液、血液、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄について学ぶ。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	細胞の構造と構成成分の機能				高野 一夫
2	体液組成と物質の移動				
3	血液 1（血液組成とその機能）				
4	血液 2（血液凝固と血液型）				
5	循環器系 1（心臓の機能）				
6	循環器系 2（血管・リンパ管の機能）				
7	循環器系 3（循環調節）				
8	呼吸器系 1（呼吸運動）				
9	呼吸器系 2（ガス交換）				
10	呼吸器系 3（呼吸調節）				
11	消化器系 1（食欲・咀嚼・嚥下）				
12	消化器系 2（消化・吸収）				
13	消化器系 3（消化管ホルモンと排便）				
14	体温				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ナースینگ・グラフィカ 解剖生理学』 林正健二編集（メディカ出版）2008				
参考書等	『ガイトン臨床生理学』 A・C ガイトン：J・E ホール（医学書院）1999 『オクスフォード・生理学 原書 2 版』 G・ポーコック：C・D リチャーズ（丸善）2005 『標準生理学 Standard textbook』 小澤澁司：本郷利憲（医学書院）2005 『細胞の分子生物学 第 4 版』 B・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009 『Principles of Neural Science』 ER Kandel（McGraw Hill）2000				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が、定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のあるものは上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の機能Ⅱ	開講時期	1 年次／後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅱでは内分泌系、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。内分泌系ではホルモンの種類や作用など、神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。				
回	テーマ および 内 容				担当教員名
1	内分泌系 1（内分泌とは、視床下部・下垂体ホルモン）				高野 一夫
2	内分泌系 2（甲状腺・上皮小体・膵臓・副腎皮質・髄質ホルモン）				
3	生殖器系（生殖器の機能と性ホルモン）				
4	泌尿器系 1（尿の生成）				
5	泌尿器系 2（尿の排泄）				
6	筋系 1（骨格筋の収縮機序と収縮の種類）				
7	筋系 2（骨格筋の収縮エネルギー）				
8	神経系 1（ニューロンと興奮の発生）				
9	神経系 2（興奮伝導とシナプス伝達）				
10	神経系 3（末梢神経系と自律神経）				
11	神経系 4（中枢神経系と高次機能）				
12	感覚系 1（体性感覚）				
13	感覚系 2（聴覚と平衡感覚）				
14	感覚系 3（視覚）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 林正健二編集（メディカ出版）2008				
参考書等	『ガイトン臨床生理学』 A・C ガイトン：J・E ホール（医学書院）1999 『オクスフォード・生理学 原書 2 版』 G・ポーコック：C・D リチャーズ（丸善）2005 『標準生理学 Standard textbook』 小澤滯司：本郷利憲（医学書院）2005 『細胞の分子生物学 第 4 版』 B・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009 『Principles of Neural Science』 ER Kandel（McGraw Hill）2000				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が、定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のあるものは上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	病理学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	病理学とはヒトはどのようにして病気になるのかを科学的に説明する医学で、病気の診断や治療の基本になる学問である。病理学は基礎から臨床への橋渡しの役割があり、構造と機能の異常、すなわち病気を中心とした講義とする。病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解することが必要である。目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病気の基本について、医学的に平易に解説するとともに、難解な病理学的用語についても分かり易く説明する。国家試験は最終目標ではないが、受講学生の合格につながることに配慮した授業を行う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	病理学と病理診断	病理学と看護との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ			寺井 政憲
2	細胞障害	細胞障害の内因、外因について学ぶ			
3	細胞障害	細胞障害の内因、外因について学ぶ			
4	先天異常	先天奇形、染色体異常による疾患について学ぶ			
5	循環障害	循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ			
6	炎症	炎症のプロセス、炎症細胞について学ぶ			
7	炎症	急性炎症、慢性炎症の詳細、創傷治癒について学ぶ			
8	幹細胞と再生医学	幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ			
9	免疫異常とアレルギー	抗原と抗体、免疫担当細胞について学ぶ			
10	免疫異常とアレルギー	免疫異常（アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患）について学ぶ			
11	感染症	病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ			
12	腫瘍	腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍）の違い、腫瘍の特徴について学ぶ			
13	腫瘍	悪性腫瘍の特徴について学ぶ			
14	腫瘍	腫瘍発生の内因、外因について学ぶ			
15	定期試験				
教科書	『新クイックマスター 病理学』 監修 堤 寛（医学芸術社）				
参考書等	『からだをまもる免疫のふしぎ』 編集 日本免疫学会（羊土社）				
成績評価基準	定期試験（筆記試験）により評価する。				
受講上の 注意事項	授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名		薬理学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		種々疾患の治療には必ずと言っていいほど薬物が用いられている。治療ばかりではなく予防、検査・診断、健康診断にも薬物は用いられる。医療現場には看護師の存在が欠かせず、その医療現場では看護師にも当然、薬物の知識が求められる。そのために、薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子などの基礎薬理学、および、医療用医薬品の薬理作用・副作用、使用上の注意点などの応用薬理学を学ぶ。さらに、新薬を開発する際には看護師が必要でかつ重要な役割を担う治験が行われるが、この新薬の開発についても学ぶ。				
回	テ ー マ		内 容			担当教員名
1	総論		薬理学とは、薬物の作用点			荒井裕一郎
2	総論		薬物の作用点、薬物の生体内運命			
3	総論		薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子			
4	総論		薬効に影響を与える因子、薬物の毒性			
5	総論		薬物の毒性、新薬の開発			
6	自律神経系に作用する薬物		副交感神経系に作用する薬物			
7	自律神経系に作用する薬物		交感神経系に作用する薬物			
8	体性神経系に作用する薬物		筋弛緩薬、局所麻酔薬			
9	中枢神経系に作用する薬物		全身麻酔薬、向精神薬、抗パーキンソン薬など			
10	中枢神経系に作用する薬物		抗てんかん薬、抗認知症薬など			
11	下熱・鎮痛・抗炎症薬		オータコイド、下熱・鎮痛・抗炎症薬、抗アレルギー薬など			
12	循環器、泌尿器系、血液系に作用する薬物		心臓作用薬、降圧薬、利尿薬、抗凝血薬など			
13	呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物		喘息薬、抗潰瘍薬、瀉下薬、子宮収縮薬、ホルモンなど			
14	化学療法薬、その他		抗菌薬、抗腫瘍薬、抗免疫薬、抗ウイルス薬など			
15	定期試験および授業のまとめ					
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学『疾病の成り立ちと回復の促進 [2]』 大鹿英世ら（医学書院）				
参考書等		『グッドマン・ギルマン 薬理書』 上、下 高折ら（廣川書店） 『NEW 薬理学』 田中、加藤（南江堂）				
成績評価基準		定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	生化学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて看護学的な視点から重要となる疾患関連の代謝異常などについて学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	生体の構成物質				荒井裕一郎
2	細胞の基本構造と機能				
3	生体成分の構造と機能：糖質、脂質				
4	生体成分の構造と機能：タンパク質、核酸、ビタミンなど				
5	代謝：酵素、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸・タンパク質代謝など				
6	核酸とタンパク質の生合成など				
7	ホルモンなど				
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『コンパクト生化学 改訂第2版』 大久保岩男：賀佐伸省（南江堂）2005				
参考書等	『レーニンジャーの生化学』 上、下 監修：山科郁夫（廣川書店）				
成績評価基準	定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	臨床疾患学Ⅰ (内科系)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	4 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	内科系諸疾患（呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経系）および、小児科系疾患、泌尿器科系疾患、産婦人科系疾患の疾病の成り立ちと治療法について学習する。基礎医学科目で学習した内容をもとに、具体的な臨床疾患の種類と病因について概説するとともに、各疾患の治療法の基本的な事項についての知識を習得させる。特に、内科系疾患の診療に特徴的な、病態の包括的把握法を学習し、看護学の講義、実習を受けるための基礎を作る。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション				林 洋
2	診断と治療				
3	身体所見				
4	主な症状				
5	循環器疾患				
6	循環器疾患				
7	呼吸器疾患				
8	呼吸器疾患				
9	消化管疾患				
10	消化管疾患				
11	肝・胆道・膵疾患				
12	肝・胆道・膵疾患				
13	腎・尿路系疾患				
14	腎・尿路系疾患				
15	内分泌疾患				
16	内分泌疾患				
17	代謝疾患				
18	代謝疾患				
19	自己免疫疾患				
20	アレルギー疾患				
21	血液疾患				
22	血液疾患				
23	神経疾患				
24	神経疾患				
25	小児科系疾患				
26	小児科系疾患				
27	泌尿器科系疾患				
28	産婦人科系疾患				
29	授業のまとめ				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『シンプル内科学』 寺野 彰（南江堂）2008				
参考書等	『内科学 第九版』 杉本恒明・矢崎義雄（朝倉書店）2007				
成績評価基準	定期試験、小テスト（レポート）、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名		臨床疾患学Ⅱ (一般外科系)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		外科学総論に関する知識の習得を基盤として、外科的治療が人体に及ぼす影響、生命の危機状態にある患者に対する診断・治療・管理に関して、学習する。				
回	テ ー マ		内 容			担当教員名
1	外科学の歴史と専門分化 外科学総論－1		紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程 損傷、創傷、熱傷、外科感染症			鈴木 秀一
2	外科学総論－2		腫瘍、ショック、消毒と滅菌、目的別に見た手術の種類、手術の侵襲と生体反応			
3	麻酔学		局所麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック			
4	麻酔学		全身麻酔			
5	消化器外科領域の手術		急性虫垂炎、そけいヘルニア、胆石症、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、膀胱癌、食道癌			
6						
7						
8	胸部外科領域の手術		自然気胸、肺良性腫瘍、肺癌、転移性肺腫瘍、弁膜症、虚血性心疾患、大動脈瘤			
9						
10						
11	乳腺外科領域の手術		乳腺炎、乳腺良性腫瘍、乳癌			
12	脳神経外科領域の手術		硬膜外血腫、硬膜下血腫、くも膜下出血、脳内出血、脳腫瘍、水頭症			
13	小児外科領域の手術		ボクダレックヘルニア、鎖肛、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症			
14	移植外科		肝臓移植、腎臓移植、小腸移植、心臓移植			
15	まとめ					
教科書		特に指定しない。				
参考書等		『成人看護学 周術期看護論』 雄西智恵美、秋元典子編（ヌーベルヒロカワ） 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』 北島政樹、藤村龍子編（医学書院）				
成績評価基準		評価は定期試験の成績と講義への出席状況を勘案して行う。成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。				
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名		臨床疾患学Ⅲ (整形・リハビリテーション)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		運動器の構造と機能、症状・病態生理を基盤に、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官疾患に関する診断、治療、管理、リハビリテーション（リハ）に関して学習する。				
回	テ ー マ	内 容				担当教員名
1	整形外科における診断と治療	運動器疾患の診断法（理学的検査、画像診断などの補助診断法）、整形外科の治療法（保存療法と手術療法）				関 寛之
2	運動器の構造と機能	骨、軟骨、中枢神経・末梢神経、筋、膠原線維の構造と機能				
3	外傷学	軟部組織（皮膚、筋腱等）損傷の修復と再生、骨折の治癒機序、骨・関節損傷の診断治療とリハ				
4	部位別の外傷と疾患 (骨盤・下肢)	骨盤骨折、股関節脱臼、大腿骨頸部骨折、膝内障、下腿骨骨折、踵骨骨折などの診断治療とリハ				
5	部位別の外傷と疾患 (脊椎・上肢)	脊椎骨折、むち打ち損傷、肩関節、上腕、肘関節、前腕、手関節、手の外傷と疾患の診断治療とリハ				
6	脊椎、脊髄疾患	頸肩腕障害、腰痛、変形性脊椎症と脊椎変性疾患、椎間板ヘルニア				
7	全身性疾患	関節リウマチと類縁疾患、変形性関節症				
8	代謝、内分泌疾患	骨粗鬆症、骨軟化症・くる病				
9	感染症、骨腫瘍	骨髄炎、化膿性関節炎、骨の良性腫瘍と悪性腫瘍、骨腫瘍類似疾患				
10	小児疾患、骨系統疾患	先天性股関節脱臼、先天性内反足、特発性側弯症、骨形成不全症、軟骨無形成症、マルファン症候群				
11	神経疾患、筋疾患	末梢神経の構造と機能および末梢神経損傷、脳性まひ、筋ジストロフィなどの診断治療とリハ				
12	四肢循環障害、骨壊死	閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、特発性大腿骨頭壊死、骨端症				
13	切断と義肢	上肢、下肢の切断と義手、義足によるリハ、義肢・装具の目的と機能				
14	脳卒中と脊髄損傷のリハ	脳卒中の病態と分類、脊髄損傷の高位別リハ、中枢神経障害の合併症とその対策、中枢神経障害の合併症とその対策				
15	廃用症候群とそれを予防するリハ	寡動による廃用症候とその予防するためのリハ				
教科書		『新体系看護学全書25、運動器』 黒澤尚、青木きよ子編（メジカルフレンド社）2007 『成人看護学、リハビリテーション看護論』 中西純子、石川ふみよ編（ヌーヴェルヒロカワ）2008 必要に応じてレジメを配布し、視聴覚教材としてスライド、DVD、ビデオなども用いる。				
参考書等						
成績評価基準		試験による。				
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	栄養学と食育	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	加藤　チイ	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人が生きるためには栄養、すなわち食物から必要な物質を取り込んで代謝・同化する過程が必要であることから、どのような食物をどれだけ摂れば健康を維持・増進できるかについて理解する。また、一つの食品で理想的な栄養素を含むものは存在しないし、誤った食事の摂り方により疾患になることもある。栄養素がバランスよく摂れ、消化しやすいように調理され、食べる側の嗜好や楽しみにも応じた食事のありかたについて考える。「栄養学」を理解することにより食を正しく選択し、信頼できる情報に基づく適切な食行動が実践できること、「食育」が実践できることを学習のねらいとする。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	看護と栄養	栄養学・食育を学ぶ意義を理解する。			加藤　チイ
2	食品について知る	食品群と補給できる栄養素、食品毎の栄養成分の特徴などを理解する。			
3	栄養の基礎 (1)	どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(エネルギー、タンパク質、脂質、糖質など)			
4	栄養の基礎 (2)	どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(ビタミン、ミネラルなど)			
5	疾病と食事 (1)	胃・腸、肝臓など消化管、消化器疾患の栄養・食事のとり方を理解する。			
6	疾病と食事 (2)	高血圧症、循環器疾患、糖尿病、肥満症、脂質異常症などの栄養・食事のとり方を理解する。			
7	疾病と食事 (3)	腎疾患の栄養・食事のとり方を理解する。			
8	疾病と食事 (4)	手術後、外傷、褥瘡などの栄養・食事のとり方を理解する。			
9	ライフステージと栄養 (1)	小児、妊産婦の栄養・食事のとり方を理解する。			
10	ライフステージと栄養 (2)	高齢者の栄養・食事のとり方を理解する。			
11	食事機能と食形態	摂食機能に対応した食事について理解する。			
12	特殊な食品について	治療用特殊食品、特定保健用食品などについて理解する。			
13	栄養教育、食の援助	食品の表示や栄養情報の利用のしかたについて理解する。(栄養指導や健康教育において留意すべき事項)			
14	まとめ	健常時および傷病時にはどのような食品をどのようにして食べたらいいか、学習した知識を確認する。			
15	定期試験				
教科書	『看護栄養学』　尾岸恵三子：正木治恵（医歯薬出版）2007 『糖尿病食事療法のための食品交換表』　日本糖尿病学会（文光堂）2002				
参考書等	『腎臓病食品交換表：治療食の基準』　中尾俊之：黒川清（医歯薬出版）2008				
成績評価基準	試験　80％　　　平常点　20％（授業態度、課題やレポートの内容）				
受講上の 注意事項	栄養・食事は生命につながるとも大切なものです。この科目で学んだことを実践して下さい。食事の記録などのレポートがあります。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	感染症学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	感染症は、各臓器別疾患の共通した病因の 1 つであるとともに、臨床の場において日常的に認められる疾患でもあるところから、十分な知識を習得する必要がある。そのためには、病因となる微生物、すなわち、ウイルス、細菌、真菌、原虫にたいする微生物学的素養や小動物にたいする理解を深めるだけではなく、感染にたいする生体防御機構についても学習し、さらに感染症がおこった後の治療法に加えて、予防法についても習得することを目指す。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	感染症と感染防御				林 洋
2	病原微生物				
3	細菌感染症				
4	ウイルス感染症				
5	真菌、原虫、寄生虫感染症				
6	治療法、予防法、院内感染、感染症法				
7	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『シンプル内科学』 寺野 彰（南江堂）2008				
参考書等	『シンプル微生物学』 東 匡伸・小熊恵二（南江堂）2006				
成績評価基準	定期試験、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	認知心理学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	山下 雅子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護・介護の臨床活動に有用な、認知のメカニズムについての基本的知識を得るとともに応用的分野へとつながる研究について理解する。記憶、思考といった認知機能についての基本的な知識に加えて、エイジングによる記憶能力やその他の認知機能の変化の様相、感情と認知の関係、情動の認知、環境の認知、対人感情認知などについて、適宜、ワークを行いながら研究方法と合わせて理解を深め、臨床活動の基礎の一部となりうる知識を得ることを目的とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
	受講生はグループまたは個人で担当する文献のアウトラインをまとめ、持ち回りで発表する。担当教員はそのテーマごとに解説を加える。受講生全員で議論しながら、理解を深める。				山下 雅子
1	ガイダンス				
2	発表と討議				
3	発表と討議				
4	発表と討議				
5	発表と討議				
6	発表と討議				
7	発表と討議				
8	発表と討議				
9	発表と討議				
10	発表と討議				
11	発表と討議				
12	発表と討議				
13	発表と討議				
14	発表と討議				
15	総括				
教科書	『情報処理心理学』 中島義明 著（サイエンス社）を予定している。				
参考書等	適宜紹介するが、原則として、発表に必要な文献については各担当者において検索を行うこと。				
成績評価基準	出席と発表内容等によって総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	各章を、1 人または数人で担当し順に発表する。討議は全員で行うので、発表担当箇所以外も予習が必要である。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名		公衆衛生学と疫学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		近代医学の発展に公衆衛生学が果たした役割を概説するとともに、現代の公衆衛生学が取り組んでいる諸分野、すなわち、環境問題、生活習慣病、感染症、地域保健、産業保健、国際協力等について学習し、医療全体を広い視野から捉えられる態度を養う。また、疫学の研究法を紹介するとともに、その成果を学習することによって、医療人としての素養を身に付け、さらに保健医療統計の実際に触れて、看護学学習の意欲を高めることを目指す。				
回	テ ィ マ および 内 容					担当教員名
1	オリエンテーション					林 洋
2	保健統計					
3	保健統計					
4	疫学					
5	疫学					
6	疾病予防と健康管理					
7	感染症とその予防					
8	生活習慣病予防					
9	生活習慣病予防					
10	環境保健					
11	環境保健					
12	地域保健と保健行政、母子保健					
13	学校保健、産業保健					
14	老人保健・福祉、精神保健、国際保健医療、保健医療の制度と法規					
15	定期試験および授業のまとめ					
教 科 書		『シンプル衛生公衆衛生学』 鈴木庄亮・久道 茂（南江堂）2010				
参考書等		『国民衛生の動向』（厚生統計協会）2009				
成績評価基準		定期試験、レポート（小テスト）、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	保健福祉行政論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	大井 照	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義・演習を通じて学習することを目指す。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	公衆衛生概論	公衆衛生の概論と新しい健康観			大井　　照
2	近代公衆衛生の発展と衛生行政	諸外国と日本の衛生行政の歴史から学ぶ			
3	地域保健法	法の背景と目標、基本理念について学ぶ			
4	健康危機管理	重大な健康被害を想定した危機管理に対し平時からの被害拡大を防ぐには			
5	健康増進法と健康日本21	第三次国民健康づくり運動の推進			
6	生活習慣病予防	健診でメタボリック症候群を早期に見つけ保健指導を実施			
7	介護保険法・自立支援法	保健・福祉・医療の連携からなる在宅ケアの推進			
8	試験及び授業のまとめ				
教科書	特になし				
参考書等	『国民衛生の動向2009』 衛生行政大要（改定第18版） 『福祉・衛生統計年報（平成20年度）』 東京都福祉保健局				
成績評価基準	定期試験や出席状況を総合して評価を行う。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	高齢者保健福祉論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	熊谷 徹子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	生活上の困難を有する高齢者を支援する場合、身体的・精神的部分だけを取り上げるのではなく、社会的背景と現状のほか心理的・社会的特性などを含め、総合的に捉えなければ適切な解決はできない。当該科目では、高齢者の生活困難な状況や福祉・保健医療サービスのニーズの捉え方、支援の際の留意すべき理念と考え方を学ぶ。また、高齢者に対する支援の方法と人的資源、高齢者の福祉・保健制度と介護保険制度、高齢者の福祉・保健・医療サービスの体系と内容、高齢者の生活と年金・公的扶助・雇用施策について、適宜ワークを取り入れて理解を深め、看護職の実践的活動となる知識を得ることを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	科目オリエンテーション 少子高齢社会と高齢者	高齢者の身体的・精神的・社会的特性、少子高齢社会の現状			熊谷 徹子
2	高齢者を取り巻く現状	高齢者と家族の生活の現状、介護実態と課題			
3	高齢者保健医療に関する法律	高齢者保健福祉制度・施策 高齢者福祉に関する関連法規			
4	介護保険制度の概要	介護保険制度の仕組みとサービス体系と課題			
5	高齢者を支援する組織・機関と役割の実際	行政および地域包括支援センターの役割と実際			
6	高齢者支援の方法と実際	高齢者支援の方法と実際			
7	まとめ	高齢者保健福祉のまとめ			
8	試験	定期試験			
教科書	『国民衛生の動向』 2009年版 厚生統計協会				
参考書等	授業中に適宜紹介する				
成績評価基準	出席状況10%、授業参加姿勢10%、定期試験50%、小レポート課題30%を総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	地域で暮らす高齢者の暮らしぶりと課題について関心を持って授業に臨んでください。 高齢者の生活実態事例を通して、支援のあり方を考えて行きましょう。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	障害者福祉論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	高田 明子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	授業目標は、障がい者福祉と、障がい者への福祉サービスに関する知識を学び、看護師としてケア現場において活用できるようにすることである。 授業内容は、①障がいの概念と障がい者の実態②障がい者福祉の基本理念③障がい者福祉サービスの体系と内容④事例研究（看護を必要とする障がい児、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、重複障がい者、高齢障がい者等）⑤障がい当事者から学ぶ（講演と質疑応答）の5点である。 授業形態は、講義を中心とするが、必要に応じて DVD 学習・ゲストスピーカー・ミニレポート・グループ討論などを取り入れる。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	障害者の実態とニーズ	1. オリエンテーション 2. 障害とは何か 3. 障害者の実態と生活状況			高田 明子
2	障害者福祉の概念と理念	1. 人権保障と権利擁護 2. 国際生活機能分類（ICF） 3. ノーマライゼーション、リハビリテーションなど			
3	障害種別の定義と福祉サービス	1. 障害者の法体系 2. 障害者の法的定義と手帳制度 3. 障害のある人の生活の理解Ⅰ （視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害） 4. ミニレポート①			
4	障害事例研究	1. 障害当事者から学ぶ（ゲストスピーカー） 2. ミニレポート②			
5	障害者自立支援法と福祉サービス	1. 障害者自立支援法 2. 障害者自立支援法による福祉サービス体系			
6	障害事例研究	1. 障害のある人の生活の理解Ⅱ （知的障害 精神障害、高次脳機能障害、発達障害） 2. ビデオ学習（知的障害の地域生活支援） 3. ミニレポート③			
7	障害者に関連する福祉サービス	1. 年金・手当等の経済支援 2. 就労・雇用支援、教育支援 3. バリアフリー、情報保障、生きがい支援など			
8	試験	1. 試験 2. 家族への支援、チームアプローチなど 3. まとめ			
教科書	『新・介護福祉士養成講座 障害の理解』（中央法規出版社） 2008				
参考書等	初回授業のオリエンテーションで提示				
成績評価基準	筆記試験（持ち込み不可 50%） ミニレポート（3 回 30%） 出席状況・受講態度（20%）				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	精神保健福祉論	開講時期	2 年次／前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	大塚 ゆかり	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、精神に障害をもつ人々への医療と福祉両面からの支援を学ぶ。その基礎となる障害者福祉の理念と意義、人権等について学ぶ。現代社会における精神障害者の現状と自立支援法をはじめとする精神保健福祉施策や関連施策を学び、今後の在宅ケアに関するチームアプローチの重要性や住民との連携を基にした地域支援システムを考察する。また精神障害者に限らず、国民の精神保健福祉に関する予防や教育も視野に入れ、幅広い視点をもった看護、介護従事者を養成する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	障害者福祉の理念と意義	障害者の歴史 障害者福祉の理念と意義			大塚ゆかり
2	障害および精神障害の概念	障害の概念 精神障害の概念			
3	精神保健福祉の歴史と理念	精神障害者福祉の歴史と理念の変化 精神保健福祉法と精神障害者			
4	障害者福祉の基本施策	障害者基本法 障害者プランの背景と動向 新障害者プランと障害者施策統合			
5	障害者サービス	障害者サービスと生活支援 精神障害者福祉の展望 精神障害者社会復帰施設のこれからと障福祉サービスの実際			
6	現代社会と精神障害	精神障害者の現状、家族の状況 精神障害者と地域社会、ノーマライゼーション 国際比較による我が国の精神障害者			
7	精神障害者の人権	精神障害者の権利擁護 精神科医療における権利擁護 地域社会における権利擁護			
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉論』 日本精神保健福祉士養成校協会編集（中央法規出版）				
参考書等					
成績評価基準	出席 30%、試験 50%、授業態度他（ミニレポートなど）、20%				
受講上の 注意事項	障害者のおかれている状況や権利擁護などについて、日ごろからニュースなどを通して情報を得、自分で考えてみましょう。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	子ども福祉論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	千葉 喜久也	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	誰もが通ってきた子ども時代を振り返りながら、子どもの生活と福祉について学習する。豊かな社会といわれる中で、核家族化が進展し共働き家庭が一般化した。また離婚などの増加によって、一人親家庭が増加している。こうした状況は、直接的に子どもの生活に影響を及ぼすことになる。 本科目は、こうした子どもを取り巻く生活（社会現象）の背景に迫りながら、児童福祉の制度やしくみについて学習する。主な学習内容は、①子ども家庭福祉の発展 ②子ども家庭福祉サービスの内容 ④市町村と児童相談所の機能と役割 ⑤児童虐待など。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	現代社会と子ども福祉	児童虐待の現状と虐待の定義			千葉喜久也
2	子どもの権利と発達保障	児童虐待と子どもの権利保障			
3	児童福祉の実施体制	児童福祉行政の仕組みと役割			
4	児童相談所の機能と役割	児童相談所の機能と役割。市町村との連携について			
5	児童福祉施設の機能と役割	児童福祉施設の機能と役割			
6	少子化対策と子育て支援	児童手当から子ども手当てへの転換			
7	子ども相談活動の実際	相談援助活動の実際と援助の内容			
8	試験および授業のまとめ				
教科書	最初の授業時に指示します。				
参考書等	必要に応じて授業の中で指示します。				
成績評価基準	定期試験（60%）、授業への参加（20%）、課題レポート（20%）を目安に、総合的に評価します。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	地域福祉論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名		授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	福祉課題の解決や発生予防のための住民相互の連帯を促す地域福祉について、その現代的意義や、在宅福祉活動など地域福祉サービス提供の体系、推進方法を概観し分析・考察する。特に、地域福祉計画や組織化をはじめとするシステム整備にとどまらず、施設における介護や看護との関連や、それらの地域生活への連続性の確保の可能性を前提にして、実際の地域福祉活動の具体的展開を検討し、生活を総合的にとらえ地域福祉活動を展開できる視点と技能をもつ人材の育成を図る。 患者や利用者の本来の生活が、病院や福祉施設の外にあることを認識でき、あるべき地域福祉活動の具体的な姿を描けることを目指す。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	地域福祉の概念	地域福祉の概念と考え方			
2	都市化とコミュニティ	地域福祉の基盤となる「コミュニティ」を理解する			
3	地域福祉の対象とサービス	地域福祉サービスの対象者と支援の実際			
4	地域福祉活動と社会資源	地域自立生活支援とサポート体制			
5	施設福祉から地域福祉	施設福祉から地域での自立した生活支援の実際			
6	地域包括支援センターの機能	地域包括支援センターの機能と在宅福祉の実際			
7	子育て支援と地域福祉	児童虐待の防止と子育て支援の実際			
8	試験および授業のまとめ				
教科書	最初の授業に指示します。				
参考書等	授業でその都度指示します。				
成績評価基準	定期試験（60%）、授業への参加（20%）、課題レポート（20%）を目安に、総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（保健医療福祉と生活）

授業科目名	居住環境支援論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	児玉 桂子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者が自立してその人らしく暮らせるための居住環境の条件およびその環境整備方法や環境を生かした支援方法について学習する。具体的には、1）高齢者の在宅生活を支える住宅の条件と環境支援方法、2）少子高齢社会に対応した新たな住まいの種類と適正な選択、3）生活の継続性を大切に施設の環境条件と環境支援方法、4）ユニバーサル・デザインによるまちづくりの基本的な考え方と発展の方向性について取り上げる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	超高齢社会における居住環境へのシーズと対応	高齢社会における居住環境の重要性と整備の方法性を理解する			児玉 桂子
2	高齢社会に対応した住まいづくり	高齢対応の住まいの仕様とその効果を事例を通して理解する			
3	住宅内事故の防止と安全な住まいの工夫	住宅内事故の種類を学び、チェックリストを用いて安全な住まいづくりを行う			
4	在宅生活における福祉用具の活用	介護保険における福祉用具の種類と活用方法を理解する			
5	住宅改修による住まいの整備	介護保険による住宅改修と対象者に対応した改修の内容と効果を理解する			
6	認知症高齢者への住まいの工夫	身体的障害のみでなく、認知症高齢者にも住まいの工夫が有効であることを学ぶ			
7	多様な高齢期の住まいについて	自宅以外にも多様な高齢期の住まいの選択が可能なことを学ぶ			
8	新たな共生の住まい	仲間と住む住宅、コレクティブハウジングについて			
9	特別養護老人ホームにおける環境の基本	個室化・ユニットケアを基本とする施設環境の基本を学ぶ			
10	認知症高齢者に配慮した施設環境づくり	認知症高齢者が安心できる施設環境づくりと環境をケアに生かす方法について			
11	認知症高齢者のグループホーム	家庭的なケアを行うグループホームのケアと環境を学ぶ			
12	地域に密着した小規模多機能サービス	地域の暮らしを支える小規模多機能サービスを学ぶ			
13	ユニバーサルデザインによるまちづくり	ユニバーサルデザインの基本的な考え方とまちづくりの進展について学ぶ			
14	共用品を暮らしに活かす	共用品の考え方や暮らしの中での活用について			
15	期末テストおよび授業のまとめ				
教科書	『超高齢社会の福祉居住環境－暮らしを支える住宅・施設・街の環境整備』 児玉桂子編（中央法規出版）2008				
参考書等	『施設から住まいへ－高齢期の暮らしと環境』 井上由起子他（厚生科学研究所） 『ユニバーサルデザインの仕組みをつくる』 川内美彦（学芸出版） 『高齢者が自立できる住まいづくり』 児玉桂子他（彰国社） 『認知症高齢者が安心できるケア環境づくり』 児玉桂子他（彰国社）				
成績評価基準	毎回の授業のリアクションペーパー40％（内容により 3， 2， 1 点）、期末試験60％				
受講上の 注意事項	授業ではビデオなど視覚的な教材を使用してできるだけ分かりやすく行います。教科書に沿って進めますので、予習をして出席して下さい。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護学原論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護は実践の科学である。その実践を支える科学的思考を養い、どんな看護場面においても、看護であるものを思考し、かつ提供できるような頭作りをすることが、当該科目の目的である。看護学の構造は、目的論、対象論、方法論、疾病論から成りたっており、各々の領域についての学習を深め、実践の科学的礎えとする。特に看護の対象である“生活している人間”のとらえ方については、深い洞察ができるように導く。さらに他職種との連携のあり方、労働の場の問題を考え、近未来の看護職像を志向する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	プロローグ 看護師の仕事イメージし、大事な点を確認する				金井 一薫
2	日本人にとって“当たり前の生活”を考え、生活技術力について志向する 具体的生活技術を挙げ、体験によって確認する				
3	看護職が働く“場”と他職種の存在 看護職が働いている場を考え、連携している他の専門職の姿を知る				
4	看護の創始者・ナイチンゲールについて ナイチンゲールの生涯とその業績を知る				
5	看護原論 (1) 看護の目的論・看護とは何か				
6	看護原論 (2) 看護の対象論・人間とは何か				
7	看護原論 (3) 看護の対象論・患者とは何か				
8	看護原論 (4) 看護の対象論の全体像				
9	看護原論 (5) 生活過程とは何か				
10	看護原論 (6) 自然過程の要素について				
11	看護原論 (7) 看護の疾病論・病気とは何か				
12	看護原論 (8) 看護の健康論・健康とは何か				
13	看護原論 (9) 看護の観察論				
14	看護原論 (10) 看護の実践方法論				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『看護覚え書』 フローレンス・ナイティンゲール：湯楨ます 他（現代社）2000 『KOMI 理論：看護とは何か、介護とは何か』 金井一薫（現代社）2004				
参考書等	『看護学概論－基礎看護学〔1〕 系統看護学講座』（医学書院）2006 『新体系看護学、第10巻 看護学概論』（メヂカルフレンド社）2007				
成績評価基準	①定期試験による評価、②課題レポートの提出と内容の適切性、③小テストの評価以上の3点を総合して評価する。				
受講上の 注意事項	毎回課題を出すので、よく予習をすること。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	ケアの原形論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、ケアの本質を明らかにする。特に、わが国で様々な現象している看護や福祉（介護）の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、両者が共有すべき思考の原点を探っていく。また看護職の歴史を紐解き、看護職が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望する。さらに看護の専門性や独自性について、特にわが国の法律制度史や教育制度史を通して考察する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ケアの原形論の骨子 「看護」と「介護」と「ケア」の関係とケア本来の意味について				金井 一薫
2	歴史の中で看護の発展を考える（その1） 看護史の目標 一般史の見方と考え方 看護と医療の発展過程				
3	歴史の中で看護の発展を考える（その2） ナイチンゲールを生み出した歴史的背景 近代ケア論の出発点－対象論と援助論の方向軸				
4	日本における看護の発展を考える（その1） 看護と宗教の関係を考える 日本における看護の発展史				
5	日本における看護の発展を考える（その2） 近代教育の開始－ナイチンゲール方式の教育の概要 現代日本看護史				
6	日本における看護の発展を考える（その3） 現代看護の現状と課題 最近の看護教育をめぐる動静から				
7	諸外国における現代の看護事情とわが国の特長				
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ケアの原形論 新装版』 金井一薫（現代社）2004				
参考書等	その都度提示する				
成績評価基準	小テスト・レポート・定期試験の成績をもって評価する				
受講上の 注意事項	1. 教科書は必ず持参すること 2. 時間数が少ないので、欠席をしないように注意すること				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護の疾病論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、病気や症状に苦しむ人々へのケアを、真に看護ケアで癒すための視点について学ぶことを目的とする。看護の独自の機能を実現するために、人体の構造や機能学などの専門基礎科目の知識を応用し、看護の視点で病気や症状をみつめるための思考のプロセスを提示し、専門的な思考力を養う。数例を使って具体的な展開法を紹介する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	看護の疾病論総論	看護の視点で病気をみつめるための思考過程 1：人体が用意している回復のシステムをみつめる 2：特徴的な病理現象を知る			金井 一薫
2	生命のしくみ	生命の最小単位・細胞と DNA DNA からタンパク質を造る			
3	脳疾患を看護の視点でとらえる①	脳の回復のメカニズムと生活の処方箋			
4	脳疾患を看護の視点でとらえる②	認知症を看護の視点でとらえる 認知症の生活の処方箋を考える			
5	胃潰瘍を看護の視点でとらえる	胃潰瘍の回復のメカニズムと生活の処方箋			
6	心臓病を看護の視点でとらえる	心臓のしくみと、回復のメカニズムと生活の処方箋			
7	免疫疾患を看護の視点でとらえる	免疫のしくみと生活の処方箋			
8	大腸がんを看護の視点でとらえる	腸の特徴と、がん発生のメカニズムと生活の処方箋			
教科書	特に定めない。				
参考書等	その都度、資料を提供すると共に、参考文献を提示する。				
成績評価基準	課題レポートの提出をもって評価する。				
受講上の 注意事項	「課題レポート」を仕上げるためには、看護の視点をはっきりと把握する必要があるので、とりわけ授業内容の理解には、十分にエネルギーを注いでほしい。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	家族看護論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小林 奈美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	健康と病が家族に及ぼす影響を理解し、それを考慮した看護ケアの応用力を身につけることを目的に講義を行う。国内外における主要な家族看護モデルを概観するとともに、家族アセスメント、家族支援のポイントを教授する。また、家族アセスメントの中でも、とくにジェノグラム・エコマップを利用した構造・発達・機能のアセスメント能力を高めるため、講義のみならずグループワーク等の学生主体の学習方法を取り入れ、病と家族の苦悩の関係を具体的に考える力を養う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	家族看護学概論	家族看護学を学習する目的を説明し、家族とは何か？病と家族との関係について教授する。			小林 奈美
2	家族看護モデルと諸理論	家族看護学における代表的なモデル、諸理論について教授する。			
3	カルガリー式家族アセスメントモデル①	カルガリー式家族アセスメントモデルについて教授する。			
4	カルガリー式家族アセスメントモデル①	グループワークを通してジェノグラム・エコマップの描き方を学習する。			
5	カルガリー式家族介入モデル②	カルガリー式家族介入モデルについて教授する。			
6	家族の苦悩と家族アセスメント①	家族劇の作成をとおして家族の苦悩と家族アセスメントについて学習する。			
7	家族の苦悩と家族アセスメント②	家族劇の作成をとおして家族の苦悩と家族アセスメントについて学習する。			
8	発表	作成した家族劇の発表、意見交換をとおして家族の看護支援について学習する。			
教科書		『グループワークで学ぶ家族看護論』 小林奈美著（医歯薬出版）2006			
参考書等		『実践力を高める家族アセスメント Part I』 小林奈美著（医歯薬出版）2009			
成績評価基準		受講態度（10%）、課題レポート（20%）、課題発表（70%）で評価する。			
受講上の 注意事項		グループワークで行う課題もあるので休まないように受講すること。課外レポートにもきちんと取り組むこと。			

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅰ (基本)	開講時期	1 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活援助論の基本となる科目である。人間にとって生活とは何かを考え、看護の対象となる人の生活過程を整えるための看護技術の概念を理解し、日本人の暮らし方の基本的考え方や居住環境のあり方を学習する。 (金井 Pak 雅子・平田 美和/10回) 看護は生活者への援助が基本となる。本科目では、生活者について、グローバルな視点で分析・理解することを養う。具体的には、生活の基本となる価値観や信条について、その基盤となるものを人々の暮らしの中から探索し意味づけをする。分析の対象は、日本人のみならずさまざまな人種や背景を有する人々について、既成概念を持つことなく幅広い視野に立つことの意味を、演習形式の授業を通して教授する。また、生活の基本的要素である環境について考え、病室のあり方の基本を学習させる。さらに「清潔・不潔」の概念と実際について学ぶ場とし、「感染予防」についての基礎知識を教授する。 (沼田 恭子/5 回) 障害をもつ人々や高齢者が生きる意欲を増し、安心感を得て満足して暮らすためには、優れた環境要因が必要である。人の特性（身体寸法、形状）、行動、五感（感性）や、生活空間・環境を知り、それを活用するインテリアデザインの手法をととして、当たり前にも暮らすための基本条件を教授する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1 2	オリエンテーション 生活援助とは				平田 美和 金井 Pak 雅子
3 4 5 6 7	居住環境①空間のかたちと広がり 居住環境②光の環境（自然の光） 居住環境③光の環境（照明の光） 居住環境④色彩Ⅰ 居住環境⑤色彩Ⅱ				沼田 恭子
8 9 10 11 12 13 14 15	病床環境① 病床環境②ベッドメイキング 感染予防①スタンダード・プリコーション 感染予防②手洗い 感染予防③ガウンテクニック システム論① システム論② 定期試験および授業のまとめ				平田 美和 金井 Pak 雅子
教科書	『基礎看護技術 1 基礎看護学[2] 専門分野 1 系統看護学講座』 藤崎郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2 基礎看護学[3] 専門分野 1 系統看護学講座 第15版』 藤崎郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅱ (呼吸・移動・睡眠)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「呼吸」「動く」「眠る」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。呼吸器系、循環系、骨・筋肉系、脳神経系、内分泌系のしくみと働きを理解し、バイオメカニクスの基本を基盤として、看護をしていくために必要な科学的根拠を明確にし、具体的な援助技術を修得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	呼吸①「呼吸するを看護で解く」 呼吸器系／循環器系のしくみと働き				平田 美和 金井 一薫 相田 京子 中村 充浩
2	呼吸②体温測定／呼吸測定／脈拍測定				
3	呼吸③体温測定／呼吸測定／脈拍測定				
4	呼吸④血圧測定				
5	呼吸⑤血圧測定				
6	呼吸⑥血圧測定				
7	眠る「眠るを看護で解く」 脳神経系／内分泌系のしくみと働き				
8	動く①「動くを看護で解く」 骨・筋肉系のしくみと働き				
9	動く②体位保持				
10	動く③体位変換				
11	動く④体位変換				
12	動く⑤体位変換				
13	動く⑥移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
14	動く⑦移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
15	動く⑧移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
教科書	『基礎看護技術 1 基礎看護学〔2〕 専門分野 1 系統看護学講座』 藤崎郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2 基礎看護学〔3〕 専門分野 1 系統看護学講座 第15版』 藤崎郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅲ (食事・排泄)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「食事」「排泄」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。消化器系、泌尿器系のしくみと働きを十分に理解し、援助行為の科学的根拠を明らかにしたうえで、もてる力・健康な力を活用し高める援助方向を目指して、具体的な援助技術を修得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	食事①「食べるを看護で解く」 消化器系のしくみと働き				平田 美和 金井 一薫 相田 京子 中村 充浩
2	食事②食事介助				
3	食事③食事介助				
4	食事④口腔ケア／経管栄養				
5	食事⑤口腔ケア／経管栄養				
6	食事⑥口腔ケア／経管栄養				
7	排泄①「排泄するを看護で解く」 泌尿器系のしくみと働き				
8	排泄②浣腸／摘便				
9	排泄③浣腸／摘便				
10	排泄④床上排泄／ポータブルトイレ介助				
11	排泄⑤床上排泄／ポータブルトイレ介助				
12	排泄⑥床上排泄／ポータブルトイレ介助				
13	排泄⑦オムツ交換／陰部洗浄				
14	排泄⑧オムツ交換／陰部洗浄				
15	排泄⑨オムツ交換／陰部洗浄				
教科書	『基礎看護技術 1 基礎看護学[2] 専門分野 1 系統看護学講座』 藤崎郁 (医学書院) 2006 『基礎看護技術 2 基礎看護学[3] 専門分野 1 系統看護学講座 第15版』 藤崎郁 (医学書院) 2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章 (医学書院) 2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅳ (衣・清潔・性)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「身体の清潔」「着脱」「身だしなみ」「性」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。これらの項目は、特に文化とのかかわりが大きいという特徴を踏まえたうえで、看護をしていくために必要な感覚器系、生殖系のしくみと働きを理解し、援助の科学的根拠について学び、講義・演習を通じて実践ができる基本を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	着脱①寝衣交換				平田 美和 前田 樹海 相田 京子 中村 充浩
2	着脱②寝衣交換				
3	着脱③寝衣交換				
4	身体の清潔①「身体の清潔を看護で解く」 感覚器系のしくみと働き				
5	身体の清潔②清拭				
6	身体の清潔③清拭				
7	身体の清潔④足浴／手浴／爪切り				
8	身体の清潔⑤足浴／手浴／爪切り				
9	身体の清潔⑥足浴／手浴／爪切り				
10	身体の清潔⑦洗髪				
11	身体の清潔⑧洗髪				
12	身体の清潔⑨洗髪				
13	身だしなみ				
14	性 生殖系のしくみと働き				
15	定期試験および授業のまとめ教科書				
教科書	『基礎看護技術 1 基礎看護学〔2〕 専門分野 1 系統看護学講座』 藤崎郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2 基礎看護学〔3〕 専門分野 1 系統看護学講座 第15版』 藤崎郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	コミュニケーション論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒木 重嗣 他	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護は人と人をつなぐ実践である。自らの人となり他者へ及ぼす影響は計り知れない。当該科目においては、自己覚知を促し、他者を思いやる心を育てる技法について学ぶ。 (荒木重嗣／5 回) グループホームケアにおける相互人間関係の特性である“響き合い”という概念を理解し、人とのつながりの技法のあり方を学ぶ。 (綱きみ子／5 回) 高齢者、とりわけ認知症高齢者のケア実践に効果的とされる「回想法」の成り立ちと実践上の応用過程について学ぶ。 (大塚ゆかり／5 回) 受容・共感という概念を“ピアカウンセリング”手法を通して具体的に学ぶ。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	ケアとコミュニケーション	ケアと何かを事例をもとに確認し、ケアされる者とする者を介在するコミュニケーションについて理解する。			荒木 重嗣
2	ことばのちから	ケアにおけるコミュニケーションのなかで、ことばのちからについて、演習を通して体験的に考察してみる。			
3	身体のことば	ケアにおけるコミュニケーションのなかで、間身体的なコミュニケーションを取り上げ、体験を通して考察する。			
4	認知症ケアとコミュニケーション ケア	認知症グループホームの事例をもとに、認知症の人を支えるコミュニケーションケアについて学ぶ。			
5	看護ケアのコミュニケーション 課題	急性期ケア病棟の事例をもとに、看護ケアとそのコミュニケーション課題について考察する。			
6	回想法の理論と方法Ⅰ	認知症高齢者への回想法の実施には、次第に減少する＜対人相互作用における効果＞をはじめ日々につのる不安感へ良性的影響を及ぼす＜情動・行動における効果＞が期待されます。回想法に見るその効果の構成を認知症高齢者へのコミュニケーションとして応用することで、実際のケア場面でケア職の技法の一つとされています。その回想法の成り立ちとともに各機関での実践の事例を学び応用範囲の広がりを理解します。同時に、自身の技法とするためのリーダーの資質や道具など、準備すべき事柄についても学んでいきます。			綱 きみ子
7	回想法の理論と方法Ⅱ				
8	回想法の実際（各機関の実践）Ⅰ				
9	回想法の実際（各機関の実践）Ⅱ				
10	回想法の実践（演習）				
11	ピアカウンセリング	ピアカウンセリングのオリエンテーション			大塚ゆかり
12	ピアカウンセリング演習	信頼関係づくりの基礎Ⅰ			
13	ピアカウンセリング演習	信頼関係づくりの基礎Ⅱ			
14	ピアカウンセリング演習	信頼関係づくりの基礎Ⅲ			
15	相互支援活動	相互支援活動の実際、分かち合い			
教科書		特になし。必要に応じて資料を用意。			
参考書等		『回想法とライフレビュー』 野村豊子著（中央法規） 『回想法ハンドブック』 回想法・ライフレビュー研究会編（中央法規）			
成績評価基準		出席、授業への参加態度等を総合的に評価します。			
受講上の 注意事項					

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護過程論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫 他	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	「看護過程展開」の看護実践に占める位置づけを明らかにし、「看護過程展開」の道筋を提示する。 特に「観察」と「アセスメント」の重要性を認識しつつ、実践・評価のプロセスまでを教授する。 （金井 一薫／3 回）看護過程とは何か、看護過程の看護実践における意義について、特にケアの実践方法論や看護理論とつなげて教授する。 （林 さとみ／6 回）看護過程展開にとって不可欠な「看護診断」について概説し、看護診断の活用法や実際について教授する。 （金井 一薫／6 回）看護過程展開について、情報収集の仕方からアセスメント、さらに具体的なケアプランの導き方など、活用の具体的方法について、事例や視覚教材を用いて教授し、一連の看護過程展開が理解できるようにする。また看護記録の書き方、他職種との連携に活用するための方法や思考過程について教授する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	看護過程とは何か－看護過程の構造と特徴について				金井 一薫
2	看護過程の 2 側面と“プロセスレコード”について				
3	“観察”の視点－何を、どう、観察するのか				
4	看護の目的論と対象論にそった観察法				
5	看護が見える記録法（その 1）－生命過程判定チャートの活用法				
6	事例を通してレーダーチャートを作る				
7	看護が見える記録法（その 2）－生活過程判定チャートの活用法				
8	事例を通して“KOMI チャート”を作る				
9	看護過程展開の具体的方法を学ぶ				林 さとみ
10	観察→アセスメント→ケアプランの作成→実践→評価				
11	Web 上で記録ツールを活用して事例を展開する（その 1）				
12	Web 上で記録ツールを活用して事例を展開する（その 2）				
13	看護診断とは（看護診断の基盤、視点、範囲、目的）				
14	看護診断とは（看護診断の構成）				
15	看護過程における看護診断の意義と診断プロセス				金井 一薫
16	各看護診断の詳細				
17	看護診断の活用法とその実際 事例を用いて（看護診断の選出と看護介入の計画）GW				金井 一薫
18	看護診断の活用法とその実際 まとめ				
19	看護過程全般のまとめ・テスト				金井 一薫
教科書	『基本から見直す看護診断』 第 1 版第 2 刷 上鶴 重美著（医学芸術社） 『NANDA－I 看護診断 定義と分類』 T. ヘザー ハードマン、T. Heather Herdman 著、中木 高夫訳、日本看護診断学会（医学書院）				
参考書等	『これなら使える看護介入 厳選47 NANDA－I 看護診断ラベルへの看護介入』 江川隆子編集（医学書院）2009年 『アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断』 マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳（医学書院）2009年				
成績評価基準	出席状況と授業への参加態度 GW や事例作成の結果 定期試験				
受講上の 注意事項	金井一薫の授業には、テキストを使用しないので、資料はその都度配布する。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	フィジカルアセスメント	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 正子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程において、看護の対象者の健康逸脱状態の科学的分析に基づいた専門的看護判断を明らかにする看護過程を理解し、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程を促進し、顕在・潜在する生命力を促進する援助を明らかにし、実践するための基本的な分析的思考能力を習得することを目的とする。特に演習を通じて基本的な分析的思考能力が適用できることをめざす。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	導入、フィジカルアセスメントとは何か				高橋 正子 林 さとみ
2	一般状態、身体計測、記録方法の実際				
3	頭部、毛髪、顔面（鼻、耳、眼、口腔）、頸部（甲状腺を含む）、皮膚、爪、循環状態のアセスメントの実際				
4	頭部、毛髪、顔面（鼻、耳、眼、口腔）、頸部（甲状腺を含む）、皮膚、爪、循環状態のアセスメント演習				
5	胸部（肺・呼吸器、心臓・血管系、ただし乳房は除く）、腹部のアセスメントの実際				
6	胸部（肺・呼吸器、心臓・血管系、ただし乳房は除く）、腹部のアセスメント演習				
7	四肢、筋、骨格、神経系のアセスメントの実際				
8	四肢、筋、骨格、神経系のアセスメント演習				
9	小児、母性、老人看護におけるフィジカルアセスメント				
10	小児、母性、老人看護におけるフィジカルアセスメント				
11	フィジカルアセスメント演習				
12	フィジカルアセスメント演習				
13	フィジカルアセスメント演習				
14	まとめと実技試験				
15	まとめと実技試験				
教科書	『成人看護学 ヘルスアセスメント』 横山美樹、石川ふみよ著 6 刷（ヌーヴェルヒロカワ）2010 『ナースンググラフィカ18 基礎看護学－基礎看護技術』 志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金壽子編集 3 刷、付属 DVD（メディカ出版）2010				
参考書等	『ナースング・グラフィカ17 基礎看護学－ヘルスアセスメント』 川村佐和子、志自岐康子、城生弘美著 第2 版（メディカ出版）2009 『フィジカルアセスメント完全ガイド』 藤崎郁著 第18刷（学習研究社）2008 『目と手と耳でここまでわかる フィジカルアセスメントガイドブック』 山内豊明著 第1 版第8 刷（医学書院）2009				
成績評価基準	出席状況・参加態度、実技試験、小テスト結果、ケーススタディレポート				
受講上の 注意事項	看護実践技術を習得する科目で、事前・事後の自主的学習を期待する。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業中提示する視聴覚教材を活用すること。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	治療へのケア	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、検査・診断などの治療過程にある患者を援助する基本的な方法を学習する。検査時の看護、薬物治療時の看護、酸素療法時の看護、包帯法、死後の処置等の看護を実践していくために必要な基本的知識と技術を理解し習得することを目的とする。また、治療過程にある患者の生活を理解し、検査や治療による生活の不自由さに視点を置いた看護を実践できる能力を養い、治療過程にある患者の日常生活援助を実践できる能力を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	導入、治療へのケアを受ける対象の理解				林 さとみ 平田 美和 高島有理子 中村 充浩
2	モジュール 1：死の看取りの技術				
3	モジュール 2：滅菌操作、無菌操作、包帯交換、ドレナージの管理とその技術				
4	モジュール 2：演習				
5	モジュール 3：導尿、留置尿路カテーテルの管理とその技術				
6	モジュール 3：演習				
7	モジュール 4：酸素療法の管理とその技術と演習				
8	モジュール 5：薬物治療時の看護 1：吸入 その技術と演習 モジュール 6：薬物治療時の看護 2：与薬の技術と演習				
9	モジュール 7：薬物治療時の看護 3：与薬の技術-筋肉注射と皮下注射				
10	モジュール 7：薬物治療時の看護 3：演習				
11	モジュール 8：薬物治療時の看護 4：与薬の技術-静脈注射、輸液ポンプの使い方				
12	モジュール 8：薬物治療時の看護 4：演習				
13	モジュール 9：採血の技術				
14	モジュール 9：演習				
15	まとめと定期試験				
教科書	『ナースングラフィカ18 基礎看護学－基礎看護技術』 志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金壽子編集 3 刷（メディカ出版）2010 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』 藤崎郁著 第15版 1 刷（医学書院）2009				
参考書等	『看護技術ベーシックス 改訂版』 第 2 版第 4 刷（医学芸術新社）2009 『写真で分かる臨床看護技術』 改訂第 2 版（インターメディカ出版） 『写真で分かる基礎看護技術 1』（インターメディカ出版）				
成績評価基準	出席状況・参加態度、技術到達チェックリスト、定期試験				
受講上の 注意事項	看護実践技術を習得する科目で、事前・事後の自主的学習を期待する。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業中提示する視聴覚教材を活用すること。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	Introduction	様々な倫理綱領・Informed Consent・守秘義務			東郷 俊宏
2	各論 (1)	再生医療、遺伝子治療、出生前診断について			
3	各論 (2)	臨床研究と倫理			
4	各論 (3)	生殖医療と臓器移植について			
5	事例検討 (1)	ハンセン病患者隔離の歴史			
6	事例検討 (2)	タスキギー研究について			
7	総括	患者と医師の物語 (Narrative) について			
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特に指定しない				
参考書等	講義の際に必要なプリントを配布する				
成績評価基準	出席状況・レポート提出・定期試験の結果をもとに総合的に判定する				
受講上の 注意事項					

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	リスクマネジメント	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、リスクの基本的概念を概説し、リスクマネジメントの理論について理解を深め、医療職としての役割について探求する。さらに、リスクマネジメントの中でも医療従事者として対象者の安全に関する事項、リスクの回避に関する事項についても学習する。看護のみならずチームとしてリスクを回避する方法論について、事例を通して学習する。さまざまなインシデントレポートを分析することにより、看護実践におけるリスクについて理解する。				

専門科目（看護の基盤）

授業科目名	導入基礎実習	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、学生が実践の科学である看護学を学ぶ上で、健康問題を抱えた個人・集団が地域におけるどのような医療機関においてサービスを提供されるのか理解するとともに、医療機関においてはどのようなヘルスケアチームがどのように連携して医療サービスを提供しているのかを理解する。具体的には、医療機関におけるさまざまな部署において、それらの部署の役割と機能、看護との連携についてシステム論を基本に学習する。さらに生活問題や健康問題を抱えた個人・集団が、地域のなかでどのように福祉サービスを提供されているのかを実習により理解をする。そこでは、どのようなヘルスケアチームがどのように連携して介護・医療サービス等を提供しているのか、またさまざまな部署の役割と機能、介護・看護の連携の具体的なあり方についてシステム論の考え方を基本にして学習する。				
回	テ マ オ および 内 容				担当教員名
	前学期終了時に事前オリエンテーションを実施する（日程は後日提示）。 1. 実習施設 東京大学医学部附属病院（3 日間） 保育園（1 日間） ハンセン病棟（1 日間） 重症心身障害児施設（1 日間） 2. 実習方法 1) 3～4 名の学生を 1 グループとし、上記実習施設をローテーションにて実習を行う。 2) 見学実習を中心とし、可能であれば職員とともにケアや活動に参加する。 3) 保健・医療・福祉の対象者や専門職との関わりを大切にし、コミュニケーションの機会を多くもつ。				金井 Pak 雅子 金井 一薫 高橋 正子 梶原 祥子 川上 嘉明 河内しのぶ 山本かほる 伊豆上智子 林 さとみ 高畠有理子 平田 美和 高橋 雪子 北島 泰子
教科書	特になし				
参考書等	特になし				
成績評価基準	実習の出席状況、実習態度、実習記録（レポートも含む）を総合的に評価する				
受講上の 注意事項	本科目は、実習のため出席日数が重視されます。やむを得ず欠席の場合には、すみやかに担当教員に連絡してください。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	基礎看護学実習	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	これまで、学習してきた知識と技術を実践の場において統合し、看護の対象となる対象者との関わりを通して、健康障害をもつ対象を理解する。疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、特に基本的な日常生活援助である「食事」「排泄」「身体の清潔」について、対象者に必要な看護援助を考え、看護師とともに実践する。一人の対象者との関わりを深め、対象者の情報収集、アセスメントをすることで、看護過程実践の基礎を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
	基礎看護学実習は、以下の要領で行なう。 1. 実習施設：東京大学医学部附属病院 2. 実習期間：平成22年 9 月 6 日（月）～ 9 月17日（金） 3. 実習方法 1) 実習は、原則として 1 病棟に 4 名の学生が配置される。 2) 1～2 名の患者を受け持ち、基礎的な看護過程を展開する。 3) 臨床指導者および教員とともに、看護過程展開に基づいた基礎看護技術を実践する。 ※詳細は実習要項を参照のこと				金井 一薫 金井 Pak 雅子 高橋 正子 平田 美和 高島有理子 高橋 雪子 相田 京子 中村 充浩 梶原 祥子 川上 嘉明 河内しのぶ 伊豆上智子 林 さとみ 北島 泰子
教科書	特になし				
参考書等	これまでに履修した「看護学の基盤領域」の科目で使用した全ての図書				
成績評価基準	出席状況、実習態度、実習記録（レポートを含む）を総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	本科目は、出席日数が重要視されるので、体調管理には十分に注意すること。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学概論Ⅰ (急性期)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	講義 (共同)	単位数/時間数	2単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、講義を通して修得することを目的とする。ハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、倫理的配慮や保健医療政策の動向を視野にいれ、個人・家族の健康認識を重視し、ニーズに対処する視点で見る対象論と看護援助論を教授する。 (林 さとみ)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護援助論Ⅰ (急性期)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、主に演習を通して修得することを目的とする。心筋梗塞、手術による心身の侵襲などハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、その具体的方法として、Emergency Care Simulator (ECS) を使用して個々の処置と全身状態との関係を意識した質の高いトレーニングを小グループ制のもと、学生の個人技術指導に当たるとともに、家族をも視野に入れた看護過程の展開を教授する。 (林 さとみ・伊豆上 智子・北島 泰子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅰ (成人・急性期疾患)	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、急性期疾患患者を Emergency Care Simulator (ECS) で再現させて、ECS を使用することで学生が事例の全体像を観念的追体験することにより、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。事例がもつ疾患の看護的理解を土台にして、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、看護過程展開の手法を用いて、必要な看護援助を検討する。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目をむけ、喪失体験や不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。 (林 さとみ・伊豆上 智子・北島 泰子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ (急性期)	開講時期	3年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	3単位／90時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、病院に入院している成人対象者で手術を受ける患者または生命の危機にある患者の看護について実践を通して学習する。具体的には、外科系病棟において術前・術後にある患者を受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。 (林 さとみ・伊豆上 智子・北島 泰子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学概論Ⅱ （慢性・終末期）	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 正子 他	授業形態	講義 （オムニバス）	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。 （高橋正子・林 さとみ／10回）特に成人期に起こりやすい疾病について理解し、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めていく。さらに「生活習慣」「職業」「生活ストレス」「セクシュアリティ」「余暇生活」「更年期」について個人・家族の健康に関する視点で見る対象論を解説し、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論を教授する。 （川上 嘉明／5 回）生物として規定されている誕生から死の意味を理解した上で、終末期においてどのような看護をするべきかを学習する。まず、人の死の捉え方について、臨床的、法的、生物学的などの諸相からその変遷と現代的な課題を理解する。次に人の死について、特に生物学的な視点からそのメカニズムを捉えることにより、「人はなぜ死ぬのか」という問題を解く。それらの理解の上、生命過程としての死のみならず、生活や社会と大きく関わる終末期とその先の死について、看護における目標設定、対象の理解、方法を明らかにする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	導入				高橋 正子
2	成人期にある対象の特徴（発達課題、成人保健の動向、健康上の問題）と家族の特徴				高橋 正子
3	成人看護学における慢性期看護・がん看護、終末期看護の基礎となる看護の理論的枠組み				高橋 正子
4	成人看護学における慢性期看護・がん看護、終末期看護の基礎となる看護の理論的枠組み				高橋 正子
5	成人期の慢性・長期的健康逸脱状態にある個人・家族の特徴				高橋 正子
6	慢性期にある対象と家族への支援～脳神経機能障害に焦点を当てて～				川上 嘉明
7	慢性期にある対象と家族への支援～運動機能障害に焦点を当てて～				川上 嘉明
8	慢性期看護・がん看護における症状コントロール				高橋 正子
9	慢性期看護・がん看護における症状コントロール				高橋 正子
10	終末期にある個人・家族の特徴 ～がん患者、自然死、植物状態の患者、悲嘆のプロセスに焦点を当てて～				高橋 正子
11	終末期にある対象と家族への支援				川上 嘉明
12	終末期にある対象と家族への支援				川上 嘉明
13	演習				林さとみ他
14	演習				林さとみ他
15	定期試験および授業のまとめ				川上嘉明他
教科書	『成人看護学 成人看護学概論』 大西和子・岡部聡子編集、第2版1刷（ヌーベルヒロカワ）2009				
参考書等	『成人看護学 慢性期看護論』 鈴木志津枝・藤田佐和編集、第2版1刷（ヌーベルヒロカワ）2009 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』 鈴木志津枝、内布敦子著 6刷（ヌーヴェルヒロカワ）2009 その他は授業中に提示する				
成績評価基準	出席状況・参加態度、課題レポート、定期試験				
受講上の 注意事項	1 年次、2 年次の他の基礎科目、看護専門科目で学んだ内容と統合し、事前・事後の自主的学習を期待する。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業中提示する視聴覚教材、参考文献を活用すること。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護援助論Ⅱ (慢性期)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 正子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。特に成人期に起こりやすい疾病について Visual Learning (VOD ビデオ・オン・デマンド) 利用により理解を深め、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、Simulator (フィジコ)・Simulator (ナーシング・アン) を使って、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めるために、小グループ制のもと、学生の個人指導に当たる。また、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論をも教授する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	導入				高橋 正子 林 さとみ 伊豆山智子 北島 泰子
2	呼吸機能障害のある対象への看護の実際 1				
3	呼吸機能障害のある対象への看護の実際 2				
4	循環機能障害のある対象への看護の実際 1				
5	循環機能障害のある対象への看護の実際 2				
6	血液・造血機能障害のある対象への看護の実際 1				
7	血液・造血機能障害のある対象への看護の実際 2				
8	消化機能障害のある対象への看護の実際 1				
9	消化機能障害のある対象への看護の実際 2				
10	膠原病のある対象への看護の実際				
11	内分泌・代謝機能障害のある対象への看護の実際				
12	～糖尿病に焦点を当てて～ 1				
13	～糖尿病に焦点を当てて～ 2				
14	腎・泌尿機能障害のある対象への看護の実際 1				
15	腎・泌尿機能障害のある対象への看護の実際 2				
16	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『成人看護学 慢性期看護論』 鈴木志津枝・藤田佐和編集、第 2 版 1 刷 (ヌーベルヒロカワ) 2009				
参考書等	『成人看護学 成人看護学概論』 大西和子・岡部聡子編集、第 2 版 1 刷 (ヌーベルヒロカワ) 2009 『看護スキルシリーズ 改訂版呼吸ケアの実際 # 2 呼吸理学療法 (DVD)』 (インターメディカ出版) 『看護スキルシリーズ 改訂版 注射の介助 # 3 輸血』 (インターメディカ出版) 『成人看護学 ヘルスアセスメント』 横山美樹、石川ふみよ著 6 刷 (ヌーヴェルヒロカワ) 2010 『山内豊明教授のフィジカルアセスメント 全10巻 (DVD)』 (ビデオ・バック・ニッポン)				
成績評価基準	出席状況・参加態度、課題レポート、定期試験				
受講上の 注意事項	1 年次、2 年次の他の基礎科目、看護専門科目で学んだ内容と統合し、事前・事後の自主的学習を期待する。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業中提示する視聴覚教材、参考文献を活用すること。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅱ (成人・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 正子	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人患者事例を用いて、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。これまでに学習した対象者の身体的・心理的・社会的・精神的特徴の理解と看護過程展開の技法を適用し、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、必要な看護援助を導き出す。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目をむけ、不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。特に慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人期にある対象者の苦痛の緩和、家族・仕事・遺産相続などの社会的・経済的問題、心理的・宗教的問題、QOL、介護、セラピーなどを考慮するという視点を養う。 (高橋 正子・伊豆上 智子・北島 泰子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ (慢性期)	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 正子	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	3 単位／90時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、慢性疾患を持つ対象者に対しての援助を、実践を通して学習する。具体的には、慢性疾患を持つ患者を内科系病棟で受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。 (高橋 正子・金井 Pak 雅子・平田 美和・相田 京子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	川上 嘉明	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	誕生から死までの、ヒトとしての生命過程を理解する。その中の老年期は、生命過程の中でどのように位置づけられるのか、最新の生命科学の知見を含め学習する。そして、ヒトが老いるという事象を特に生物学的な視点から明らかにした上で、老年期に特有な健康障害の特徴、心理・社会関係の変調、それらに対する看護のあり方を学ぶ。また、老年期の健康障害とその看護は社会やその仕組みの影響を受けやすいことから、日本における老人及び老年期の様子の時代的な推移から、現代における特徴、将来の日本における老年期の課題を学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	老年期の特徴と看護の目標 老年期の位置づけ 老年期の健康のとらえ方と看護の視点・目標				川上 嘉明
2	「古い」の生命科学 生命科学から見た老年期の様子 生命体における老年期のとらえ方				
3	高齢者の統計的輪郭と高齢者の暮らし 老年期の時代的な変遷 老年期の統計的特徴 将来推計と課題				
4	老年期における健康の変化とさまざまな影響 老年期の健康とその変調 身体・心理・社会的視点からの理解				
5	高齢者の疾病とその特徴 老年期の疾病とその特徴 看護の特性				
6	老年期における健康の理解とマネジメント 地域における健康と生活 看取りの視点 これからの老年期の課題				
7	高齢者に関する制度の理解 保健・医療・介護・福祉の諸制度とその活用の実態				
8	定期試験及び授業のまとめ				
教科書	毎回、講義要約書を配布する。 『ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害』 堀内ふき他編（メディカ出版）2009年。 『自然死を創る終末期ケア－高齢者の最期を地域で看取る』 川上嘉明（現代社）2008年。				
参考書等	必要に応じ、授業の中で提示する。				
成績評価基準	ミニレポート（授業ごとに提出）、課題レポート、試験、出席状況、学習態度により評価する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	川上 嘉明 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	老年期の生命の特徴から、生命過程を維持または死に到達するための基本的ニーズに対する援助を理解・実施できるようにする。それぞれのニーズに対する生理や機能を理解したうえで、生命過程を損なわない援助の方法、実践に有用な看護の方法を演習する。また、それらを提供する上での危険予知訓練、リスク及びコスト管理のポイントを理解する。老年に対する看護の多くは他の専門職チームとの連携が欠かせないが、そのマネジメントの方法の理解・演習を行う。また看護の方針や計画立案等における関係者や家族とのコミュニケーション、説明と同意形成の方法を演習を通して学ぶ。 高齢化に伴う知的機能、知覚・認知能力、感情と欲求、パーソナリティ等の変化、さらには人間関係や社会関係の変化を理解した上で、高齢者の個性に合わせた看護援助技術について演習を通して実践力を身につける。また、高齢者への偏見、高齢化に伴う喪失体験、老いと障害の受容等、高齢者が直面する心理社会的問題について、看護援助技術の演習を通して理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	地域等で暮らす現代の高齢者の様子				川上 嘉明
2	高齢者の理解と看護 ①運動 等				平田 美和
3	高齢者の理解と看護 ②呼吸・感染 等				相田 京子
4	高齢者の理解と看護 ③摂食・栄養 等				
5	高齢者の理解と看護 ④排泄・皮膚 等				
6	高齢者の理解と看護 ⑤認知症 等				
7	高齢者の生活を支える技術 ①ポジショニング・シーティング 等				
8	高齢者の生活を支える技術 ②家庭での床上技術 等				
9	高齢者の生活を支える技術 ③高齢者や家族とのコミュニケーション 等				
10	高齢者の生活を支える技術 ④環境改善と用具の活用 等				
11	高齢者における事故の特徴と安全のためのマネジメント				
12	高齢者看護におけるアセスメント及びケアマネジメント				
13	高齢者におけるケアチームの実際とその機能				
14	高齢者の人権と倫理問題 看取りの実際と課題				
15	定期試験及び授業のまとめ				
教科書	適宜、講義要約書を配布する。 『ナーシンググラフィカ 老年看護の実践』 大淵律子他編（メディカ出版）2009年。 『穏やかに逝く－介護で看取る自然な死』 川上嘉明（環境新聞社）2009年。				
参考書等	必要に応じ、授業の中で提示する。				
成績評価基準	ミニレポート（授業ごとに提出）、課題レポート、試験、出席状況、学習態度により評価する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅲ (老年・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	川上 嘉明 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	老人の健康障害の特徴は、年をとることによる衰弱、病気やその後遺症および認知症などが複合し、日常生活を自ら行なえなくなることである。そのため、健康の維持、病気、心理、人権、家族や地域社会関係等の視点から、全人的なケアが必要となる。事例展開では、こうした老人の長期にわたり、かつ進行していく障害を持ちながら地域で過ごす老人（特に認知症を患う高齢者）に焦点をあてる。老人の状態を適切にアセスメントすることにより、他職種や家族を含めたチームケアの中で看護を計画・実施、実効性のある評価にむすびつけられるようにする。さらにこの事例展開のあり方を学ぶことによって、後期の老年看護学実習の礎とする。 (川上 嘉明・平田 美和・相田 京子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	川上 嘉明 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	3 単位／90時間
授業の目的 および 到達目標	地域ケアシステムのひとつである施設とその看護の実践について実習することにより、地域で生活をする高齢者にとっての施設の目的とあり方、また看護の提供の方法を学習する。施設のある地域の特性、また高齢者の生活様式の特徴を知り、施設における高齢者の生活、健康や心身機能の障害、それに対する地域における施設看護の役割を理解する。それらを学習する過程をとおり、施設を利用する高齢者が、看護を受けながら地域で継続して生活するための総合的な援助実践の考察を行なう。 (川上 嘉明・高畠 有理子・山本 かほる・相田 京子・中村 充浩)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題について学び、女性の健康問題とその看護を展開するために必要とされる基礎知識を習得する。Women's Health という概念で、母性看護の歴史的変遷、母子保健統計、法律、母子保健施策、生命倫理を学び、今後の母性看護の役割と重要性について認識を深める。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	女性の健康の概念	女性の発達過程と理論、女性の健康と歴史 リプロダクティブヘルス／ライツ、体験課題の提示 女性に関わる制度、統計			梶原 祥子
2	女性の健康と政策				
3	女性の健康とセクシュアリティ	人間の性反応、セクシュアリティと健康			
4	女性の生涯発達と健康	女性のライフサイクル、ライフサイクルと女性の身体・心理・社会			
5	ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護①	思春期の健康問題とヘルスケア			
6	ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護②	成熟期の健康問題とヘルスケア			
7	ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護③	更年期の健康問題とヘルスケア			
8	ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護④	老年期女性の健康問題とヘルスケア			
9	女性の健康と環境	女性を取り巻く環境問題とヘルスケア			
10	女性の健康障害	女性特有の疾患、女性生殖器疾患			
11	女性の健康と倫理	女性の健康に関する倫理的問題			
12	女性の健康とヘルスプロモーション	ヘルスプロモーション、健康教育			
13	体験課題発表①	課題について発表			
14	体験課題発表②	課題について発表			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書	①『ウィメンズヘルスナーシング概論』 村本淳子・高橋真理編集（ヌーヴェルヒロカワ） ②『女性のライフサイクルとナーシング』 高橋真理・村本淳子編集（ヌーヴェルヒロカワ）				
参考書等	①国民衛生の動向2010年度 ②『女性生涯看護学』 吉沢豊予子編（真興交易出版） ③『助産学体系－人間の性・生殖』 青木康子他編（日本看護協会出版会） ④『女性の看護学』 吉沢豊予子他編（メヂカルフレンド出版） ⑤『ウーマンズヘルス』 久米美代子他編（医歯薬出版） ⑥『ナーシング・グラフィカ 母性看護学－母性看護実践の基本』 横尾京子・中込さと子編（メディカ出版） ⑦『病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科』 医療情報科学研究所編集 その他適時講義内で提示します。				
成績評価基準	レポート、試験、出席状況および態度から、総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。この概論で習得する知識は、同時期に続けて開講する母性看護援助論、3 年時より開講の事例展開、母性看護学実習の基盤となるものです。従って、主体的に自ら学ぶ姿勢を堅持することを望みます。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	マタニティサイクル（妊娠、出産、産褥期）における女性の身体的変化及び特徴について、解剖・生理学的見地から、その基礎を修得し、合わせて各期の特徴的な異常経過と疾患について学ぶ。さらにマタニティサイクルにおける各期の心理社会的変化とその適応過程、胎児の成長・発達、新生児の生理的特徴と変化・適応について学ぶ。合わせて家族単位の特性にも触れる。さらに、各時期に必要とされる看護援助技術について、学内演習を通して実践力を高める。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	周産期看護の概論	周産期における看護の役割、妊娠のメカニズム			梶原 祥子
2	妊娠期の看護①	妊娠期における女性と胎児および家族の身体・心理・社会的変化と適応過程			
3	妊娠期の看護②	妊娠期におけるヘルスアセスメントと看護ケア			
4	妊娠期の看護技術①	妊婦に関する看護技術①			
5	妊娠期の看護技術②	妊婦に関する看護技術②			
6	分娩期の看護	分娩期における女性と胎児および家族の変化と適応 分娩期におけるヘルスアセスメントと看護ケア			
7	分娩期の看護技術	産婦に関する看護技術			
8	産褥期の看護①	産褥期における女性と新生児および家族の変化と適応過程			
9	産褥期の看護②	産褥期におけるヘルスアセスメントと看護ケア			
10	産褥期の看護技術①	褥婦に関する看護技術①			
11	産褥期の看護技術②	褥婦に関する看護技術②			
12	産褥期の看護技術③	新生児に関する看護技術①			
13	産褥期の看護技術④	新生児に関する看護技術②			
14	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児	妊娠合併症、妊娠・分娩・産褥の正常からの逸脱、新生児合併症			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書	『周産期ナースング』 村本淳子・高橋真理編集（ヌーヴェルヒロカワ）				
参考書等	①『ナースング・グラフィカ 母性看護学－母性看護実践の基本』 横尾京子・中込さと子編（メディカ出版） ②『病気がみえる vol.10 産科』 医療情報科学研究所編集：③『母性看護学 1. 妊娠・分娩』 東野妙子・村本淳子・石原昌編著（医歯薬出版） ④『母性看護学 2. 産褥・新生児』 今津ひとみ他編著（医歯薬出版） ⑥『周産期エキスパートナースング』 山本貴雄・宮中文子編集（南江堂） ⑦『ウェルネスからみた母性看護過程』 佐世正勝・石村由利子編集（医学書院） その他適時授業内で提示します。				
成績評価基準	出席状況および演習への参加態度、試験、レポートから、総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。この母性看護援助論で習得する知識および技術は、次年度の 3 年時に開講の事例展開、母性看護学実習の基盤および必須科目となるものです。従って、主体的に自ら学ぶ姿勢を堅持することを望みます。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅳ (母性)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学び、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。母性領域では、マタニティサイクルに関連した健康問題を持つ女性の事例を用いて、グループワークを実施し、その中で自らの学習課題を明確にし、自然な状態からの逸脱状態を判断、看護上の問題を診断、予期的ケア及び異常時への対応を含めたケア計画を立案する。さらに事例展開のあり方を通して、後期に行われる母性看護学実習の礎とする。 (梶原 祥子・23年度以降就任予定1名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	これまでの既習の知識や技術を活用し、周産期（妊娠、出産、産褥）における健康な母子および家族を対象に、個々の心身の適応過程および健康ニーズを把握し、周産期にある女性と新生児および家族が新しい役割を獲得していくために、必要な個別的な看護の実践を学ぶ。その看護体験から、自己洞察を行い、看護者としての責任と倫理観を養うと共に生命の誕生の尊さについて考える。 (梶原 祥子・23年度以降就任予定1名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河内　しのぶ	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	目標：成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、健全な成長・発達を促すための日常生活における援助および健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護に必要な基礎的知識を習得する。 授業計画：子どもと家族をとりまく社会環境をふまえた小児看護の役割と課題、各発達段階の特徴、必要な日常生活援助について、映像の使用によるイメージ化を行いながら講義およびグループ単位での学習を行う。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	小児看護学ガイダンス	小児看護学の全体像を理解する。健康な子どもの姿を映像からイメージする。			河内しのぶ
2	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象、小児看護の目標・役割、倫理（人格の尊重・権利の保障）、児童憲章、児童福祉法について			
3	子どもを取り巻く環境	現代の子どもと家族をとりまく社会環境、母子保健統計（乳幼児死亡率、事故など）			
4	地域における母子保健活動の実際	地域における育児支援の実際			
5	子どもの成長・発達Ⅰ	成長・発達の原則や成長・発達に関する理論について			
6	同上	各発達段階の特徴			
7	子どもの成長発達Ⅱ	身体的成長、機能的発達（生理的、精神・情緒）、原始反射、成長・発達評価について			
8	同上				
9	子どもの生活（GW）	各発達段階における子どもの特徴および日常生活について基礎的な知識をグループで学習し、全員で共有する 〔テーマ：遊び、食事、清潔、睡眠、排泄、事故 etc.〕			
10	同上				
11	子どもの生活（GW の発表）				
12	同上				
13	病気と子ども	疾病・障害に対する子どもや家族の反応、看護の方向性			
14	外来・入院における小児看護	外来の役割（救急外来）、入院環境、入院による影響、ストレス対処過程			
15	定期試験				
教科書	『系統看護学講座　専門22　小児看護学〔1〕』　第11版（医学書院）2007				
参考書等	別途通知します。				
成績評価基準	筆記試験、レポート課題、出欠状況で配点をして総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	身近にいる子どもとできるだけ関わりをもってみてください。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修	
担当教員名	河内　しのぶ	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間	
授業の目的 および 到達目標	目標：健康障害が子どもとその家族に与える影響を理解し、健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護を実践するために必要な基礎的知識と技術を修得する。 授業計画：子どもにおける健康障害の病態生理をもとに、各々の疾患の経過と看護、症状別の子どもの看護、検査・処置を受ける子どもの看護について学習を行う。また、子どもの抱き方・授乳方法・沐浴等の日常生活援助技術およびバイタルサイン測定・輸液の管理・固定方法等の臨床看護技術に関して実習室における演習を行い、看護実践能力の基礎を身につける。					
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名	
1	脱水・下痢の子どもと家族の看護	事例（乳児下痢症）を通して栄養・代謝（水分）のアセスメント、脱水の看護、下痢の看護			河内しのぶ	
2	同上					
3	技術演習Ⅰ（GW）	事例（乳児下痢症）をふまえて「乳児の抱き方、授乳方法、おむつ交換、調乳、衣服の着脱」についてグループ学習を行い、全員に対して技術のデモンストレーションを行う				
4	同上					
5	技術演習Ⅰ（GW の発表）	NICU の看護、成長・発達への援助、家族へのケア				
6	同上					
7	低出生体重児の看護	退院へ向けての調整、在宅看護（継続看護）、母子保健施策				
8	地域における小児看護					
9	検査や処置を受ける子どもの看護	子どもにとっての検査・処置体験、不安や痛みに対する看護、IC、プリパレーションについて 〔具体例：固定、腰椎穿刺、骨髄穿刺〕				
10	同上					
11	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもにおける手術適応疾患、手術が子どもに与える影響、術前・術後の看護				
12	障害のある子どもと家族の看護					
13	終末期の子どもと家族の看護	子どもの死の概念、I.C.、子どもの心身の状態と緩和ケア、家族への関わりとケア				
14	同上					
15	定期試験					
教科書	『系統看護学講座 専門22 小児看護学〔1〕』 第11版（医学書院）2007 『系統看護学講座 専門23 小児看護学〔2〕』 第11版（医学書院）2007					
参考書等	別途通知します。					
成績評価基準	筆記試験、レポート課題、出欠状況で配点をして総合的に評価します。					
受講上の 注意事項	小児科学で学習した疾患についての知識及び小児看護学概論で学習した健康な子どもの姿を想起しながら、健康を障害された子どもの看護について考えてみましょう。					

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅴ (小児)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	河内 しのぶ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	目標：疾病の特徴と事例の発達段階の特徴をふまえ、健康障害をもつ子どもとその家族に対する必要な看護を導き出すための思考過程を習得する。加えて本演習の成果を3年次の後期から開始される小児看護学実習において活用できることを目指す。 授業計画：小児期に起こりやすい健康障害の種類別に事例を想定し、その事例を通して“生活の処方箋”を描くための演習を行う。健康障害の種類として、慢性小児下痢症（乳児期）、ネフローゼ症候群（幼児期）、川崎病（幼児期）、急性白血病（学童期）、小児喘息（学童期）を予定しており、アセスメント・ケアプランの作成・実践（技術演習）の一連のつながりを、グループ単位で学習する。学習成果は、学生全員での共有を図るために発表形式をとる。 （河内しのぶ・梶原 祥子・23年度以降就任予定1名）				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅵ (障害児・者)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	石井 美智子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	障害を持つ児童の事例を「重症心身障害児」に限定し、重心児看護の歴史を概括すると同時に、歴史の中で明らかになった課題について学び、現在の看護の実際を、事例を通して検討する。その中で、生命重視、人権尊重の看護が目指す具体的姿を学びとることを、当該科目の目的とする。 （石井 美智子・23年度以降就任予定1名）				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河内　しのぶ　他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	身体的、心理的、社会的、成長・発達の側面から統合的に健康障害をもつ小児を理解する。そして医療機関においても、小児とその家族が可能な限り日常に近い生活を送ることができるように援助するための基礎的能力の習得を実習目的とする。具体的には、急性期または慢性期の経過をたどる患児を1人受け持ち、看護過程を展開する。その為に、患児とその家族とのコミュニケーションに必要な基礎的能力の習得、個人差をふまえた安全・安楽・自立を目指した日常生活の援助および指導に必要な能力の習得、さらに社会資源の活用を考えることができることを目指す。 (河内　しのぶ・23年度以降就任予定)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護学概論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	23年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神保健および精神看護の基本となる人間理解を深めることを目的に、精神障害とは何かについて理解し、家族や集団などの人間関係に関する諸理論を学ぶ。また、精神保健と福祉の法制度と社会的背景、倫理的問題について学ぶ。人は様々な危機に遭遇し、乗り越えながら生きていく。危機に対して人は様々な反応を示すが、精神障害は1つの反応の仕方である。また、人は精神障害の有無にかかわらず、自己実現を目指してその人らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。その課程を援助するのが精神看護の役割である。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護援助論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	23年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神疾患の慢性的な経過を辿る対象とその家族に対して、医療・福祉制度や社会資源を活用した看護援助方法（ケアマネジメント、SST、訪問看護）について学習する。その中で主な精神疾患（統合失調症・気分障害・人格障害・アルコール依存症・など）について、その病理や生理学的見地からの学習を行う。また、精神看護における治療的対人関係の展開、援助活動への自己活用について学び、統合失調症、人格障害、アルコール依存症など、精神障害者と家族への理解を深める。さらに精神科リハビリテーションの意義についても触れ、現実的な課題について整理する。 (23年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅶ (精神疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	23年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神に障害をもつ人の事例を通して、精神科看護の基本を再確認し、これまで学んだ内容を踏まえて、一人の人間として社会の中で自立して生きていくための様々な社会的・心理的テーマを理解し、人的資源の活用の仕方について学ぶ。具体的には事例がもつセルフケアの力を見極め、看護過程展開の技法を活用し、障害をもつ人を取りまく病院や地域での多職種の人々との連携や調整をも視野に入れた、本人にとって望ましい生活の処方箋を描くことを目指す。合わせて、本事例展開のあり方を通して、後期から始まる精神看護学実習の礎とする。 (23年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	23年度以降就任予定 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	精神に障害をもつ人と家族に対する、精神保健医療福祉における看護の役割を理解し、精神科看護に必要な基本的技術を修得することを目的とする。また他職種との連携による精神的健康の回復およびリハビリテーション、生活支援の具体的活動について触れ、その過程における対人関係能力を培う。 (23年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	掛本 知里	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域看護学は行政看護（公衆衛生看護）、学校保健、産業保健、在宅看護の 4 領域から構成されていることを理解する。地域看護の変遷と社会情勢を踏まえ、地域で生活する人々の健康の保持増進及び QOL の向上を目指す地域看護の概念、関係法規、個人、家族・集団を対象に実施される看護活動について、ライフステージ別並びに健康レベル別に事例を提示しながら概説する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	地域看護の目的と意義・役割と法的基盤／地域看護の歴史と変遷	地域看護とは／保健師の活動分野とその役割／社会および健康課題の変化と保健師活動／地域看護活動の法的基盤／保健師活動の歴史			掛本 知里
2	地域看護をめぐる理念	健康／プライマリヘルスケア／エンパワメント／セルフケア／ノーマライゼーション／アドボカシー／地域における保健関連行動			
3	ヘルスプロモーションと保健師活動	ヘルスプロモーションの理念／ヘルスプロモーションのモデル／健康増進対策と健康日本21／メタボリックシンドロームと地域看護活動／喫煙対策と地域看護活動			
4	健康危機と地域看護活動／国際保健活動と保健師活動	地域における健康危機／健康危機の予防と保健師活動／健康危機発生時の保健師活動／国際協力・国際交流と保健師活動			
5	労働衛生管理と OHN 活動	産業保健関連法規／3 管理と 5 管理／職場環境の労働への影響と有害業務対策／過重労働対策／メンタルヘルスサポート／産業看護活動の実際			
6	養護教諭の役割と活動	学校保健の動向／学校保健関連法規と養護教諭とは／養護教諭の役割と期待／養護教諭の活動の実際			
7	グループ組織活動	グループとは／グループの発展過程／地区組織活動／地域におけるネットワークづくり			
8	試験	試験および授業のまとめ			
教科書	『改訂第 2 版 地域看護学.Jp』 荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル）2007				
参考書等	『厚生指針；国民衛生の動向、57 (9)』 厚生統計協会 2010（8 月頃）に出版予定） 『厚生指針；国民福祉の動向、56 (12)』 厚生統計協会 2009 『新版保健師業務要覧 第 2 版』 日本看護協会監修（日本看護協会出版会）2008				
成績評価基準	①定期試験、②課題				
受講上の 注意事項					

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	在宅看護論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	掛本 知里	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	在宅看護は地域看護学における 4 領域の一つである。在宅看護の変遷と社会情勢を踏まえ、在宅で生活しながら療養する人々とその家族が抱えている健康問題を理解し、在宅看護の概念、関係法規、対象に実施される看護活動について理解する。在宅看護に必要な援助方法、関係法規、社会資源、ケアマネジメントのプロセス、保健医療福祉の連携等、在宅看護の展開方法について学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	在宅看護の目的とその特性	在宅看護とは何か／在宅看護の対象／在宅看護の目的／在宅看護の特性／日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題			掛本 知里
2	在宅看護の変遷と諸外国の状況	日本における在宅看護の変遷／諸外国における在宅看護の現状			
3	在宅看護をめぐる現状と課題	日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題			
4	在宅看護における社会資源の活用	在宅看護で活用する社会資源とは／それぞれの社会資源の特徴／社会資源の活用過程／在宅看護にかかわる専門職間の連携／ケアマネジメントと訪問看護			
5	在宅看護における家族ケア－家族援助の実際	在宅看護における家族のかかわり／家族援助の過程／家族ケアにかかわる理論／家族援助における課題			
6	訪問看護ステーションにおける在宅看護ケア	訪問看護ステーションの設置／訪問看護サービスの特徴／訪問看護サービスの利用者／訪問看護ステーションの管理／在宅ケアに向けた退院計画／在宅と施設の継続性			
7	訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際	訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際			
8	試験	試験および授業のまとめ			
教科書		『新版 在宅看護論』（第 1 版）木下由美子編著（医歯薬出版）2009			
参考書等		『厚生指針；国民衛生の動向、57 (9)』 厚生統計協会 2010（8 月頃に出版予定） 『厚生指針；国民福祉の動向、56 (12)』 厚生統計協会 2009			
成績評価基準		①定期試験、②課題			
受講上の 注意事項					

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	保健指導論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	掛本 知里 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	あらゆるライフステージ、健康レベルにある地域住民に対して、個人・家族・集団を対象とした看護活動を展開するために必要な知識と方法について講義及び演習を行う。健康相談、健康診査や家庭訪問など個別への支援と健康教育など集団への支援とのつながりや地区組織化、地域ケアシステムについて理解する。 (掛本 知里・山本 かほる・高畠 有理子)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅷ (在宅・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	掛本 知里 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、健康逸脱状態にある老年期の患者で、自宅に暮らす人の事例を取り上げ、在宅において最後までその人らしく暮らすことの可能性について検討する。多くの病名をもち、多彩な症状に苦しむ患者事例に対して、身体的、心理的、社会的な援助過程のあり方について学び、在宅・地域コミュニティにおける物的・人的資源の活用などについても配慮した看護援助の方向性を見出せるように導く。さらに本事例展開のあり方を通して、地域在宅ケア実習の礎とする。 (掛本 知里・山本 かほる)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域看護管理論	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山本 かほる	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域において適切な看護実践が展開できるよう、さらには効果効率的な看護実践を目指すための地域看護管理のあり方について、その知識・スキルを教授する。他職種との連携の仕方、そこに横たわる諸問題の解決法についても学習し、リーダーシップのあり方、リーダー育成について考察する。さらには災害時における看護職としての役割についても言及する。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域ケア連携とシステム	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平成23年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活をしていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義を通じて学習することを目指す。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	ケアマネジメントの理念と実際	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山本 かほる 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケアマネジメントとはどのような手法なのか、ケアマネジメント手法が出現した歴史的背景について考察し、ケアマネジメントの理念について概括する。そのケアマネジメントの理念がわが国に導入された歴史的展開について述べ、介護保険制度との関係の中で位置づける。さらに実際に行われているケアマネジメントの実態について触れ、事例を通して具体的課題や今後のあり方について考察する。 (山本 かほる・川上 嘉明)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域施設運営論	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	川上 嘉明	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域において、とりわけ地域における施設看護が社会化されるためには、地域の看護ニーズが明らかにされ、そのニーズに的確に答えられるよう、組織体制の構築、その維持管理が整えられる必要がある。さらに地域の施設における看護実践の具体は、地域の住民に活用され、日常生活の役に立つ状態になればならない。本科目では、こうした課題を解決するために必要な、医療・福祉制度における地域内組織の現状、組織的に看護を提供するための運営管理、財務・労務管理、資源の調達・管理、サービス提供のプロセス、情報公開等の地域連携について教授する。またサービス提供の国際規格についても、理解できるようにする。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域在宅ケア実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	掛本 知里 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、地域実習と在宅実習を統合的に組み立てて行うものである。地域実習の枠組みにおいては、保健所、市町村における実習と組み合わせて、地域包括支援などでの実習を計 2 週間にわたって行うものとする。この実習における目的は、地域住民の健康アセスメントを中心に、疾病予防や介護予防などと併行して、健康保持のための健康相談の実態と課題を把握することである。また、在宅実習としては、高齢者対象の訪問看護ステーションでの実習と、障害者自立支援のための施設や事業所における実習を各 1 週間ずつ行う。在宅実習の目的は、在宅で安心して暮らすための仕組みを把握すると同時に、支援のための多彩な社会資源の活用の方を学ぶことである。 (掛本 知里・川上 嘉明・山本 かほる・高畠 有理子)				

専門科目（看護の発展）

授業科目名		ケア情報学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		前田 樹海 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		ケアの実践が情報集約型の専門分野であるという立場から、ケアにおける情報学の歴史的経緯、データ・情報・知識の定義と関係、暗黙知と形式知、用語体系、情報倫理、情報セキュリティ、EBP (Evidence-Based Practice)、情報の電子化に伴う影響など、ケアと情報に関する主要な話題についての討議を交えながら、ケアのプロセスにおける各局面を情報という切り口で論述することを当該科目の目的とする。				
回	テ ー マ および 内 容					担当教員名
1	オリエンテーション					前田 樹海 伊豆上智子
2	データ・情報・知識					
3	データ・情報・知識 (2)					
4	暗黙知と形式知					
5	情報の視点からのアセスメント					
6	情報の視点からの診断					
7	用語の標準化					
8	ケアと記録					
9	情報と倫理					
10	情報プライバシー					
11	ケアにおける情報セキュリティ					
12	医療情報システム					
13	Evidence-Based Practice					
14	Critical Path Method / PERT					
15	概括					
教科書						
参考書等		適宜指示する。				
成績評価基準		小テストおよび課題への取り組み。				
受講上の 注意事項						

専門科目（看護の発展）

授業科目名	国際看護論	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、世界の健康問題と、それに対する看護の現状と課題について学習し、異文化の中での看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて学習する。さらに国際協力における看護の役割について理解を深めるとともに、先進国および開発途上国における看護の現状と課題について概説する。将来、海外での看護実践を目指す学生のみならず、国内においてさまざまな背景を持つ対象を理解する上での基本的考え方について学習する。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	看護管理論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護専門職として必要なマネジメントの知識・スキルを教授するとともに、看護管理学の歴史的背景、概念枠組み、マネジメントに関する理論について概説する。さらに、ヘルスケアサービスの提供者として身に着けておくべき倫理について、現在の医療が抱える倫理的課題を具体的に取り上げて探求する。また、看護実践の質を向上の基本である医療政策について、政策決定のプロセスについて学習する。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	東洋医学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	東洋医学の特徴は、豊かな洞察力をもって病める患者をトータルな存在として捉え、その持てる自然治癒力を最大限に生かすことを手当てのなかで重視していることにある。 この基本的な考え方は、患者へのきめ細かい「観察」から、各患者にあったケアのあり方を追求したナイチンゲールの看護論に通底するものといえる。本科目では、こうした観点から、東洋医学的な生理観、病理観のなかから看護、介護に役立つ事項を中心に講義する。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	Introduction	整体観にもとづく看護のために			東郷 俊宏
2	総論 (1)	東洋医学的な身体観 1（五臓六腑）			
3	総論 (2)	東洋医学的な身体観 2（気血津液）			
4	総論 (3)	わが国における鍼灸			
5	総論 (4)	わが国における漢方			
6	各論 (1)	経脈・経穴について 1			
7	各論 (2)	経脈・経穴について 2			
8	各論 (3)	東洋医学と内科疾患			
9	各論 (4)	東洋医学と整形外科疾患			
10	各論 (5)	東洋医学と耳鼻咽喉科疾患・皮膚科疾患			
11	各論 (6)	東洋医学と高齢者ケア			
12	各論 (7)	東洋医学と婦人科疾患			
13	各論 (8)	東洋医学と小児疾患			
14	総括				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特に指定しない				
参考書等	講義の際に紹介する				
成績評価基準	出席状況・レポート提出・定期試験の得点をもとに総合的に判断する				
受講上の 注意事項					

専門科目（看護の発展）

授業科目名	看護理論特講	開講時期	4年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	演習	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	これまでの看護界において生成した諸看護理論を概括し、学生が3年間に渡る実習の中で得た知識や技術と統合できる思考的道筋を付け、学生一人ひとりの看護観形成の一助とすることを目的とする。諸看護理論の中でも、特にナイチンゲール思想に着目し、“人類の健康の実現”を目指す21世紀の科学思考と重なる点を強調しつつ、さらにナイチンゲール思想と東洋医学思想の共通点に着目し、現代医療への適用の道を探る。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	原著講読	開講時期	4年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	演習	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、英語で書かれた看護学の研究論文を読み解くもので、自己の研究テーマに関連のある原著論文を選択し、その要約を英語にてまとめる。さらに、論文内容の理解のみならず、研究論文としてのまとめ方、概念枠組み、研究方法、統計処理、考察などについてクリティックを行う。選択した研究論文をまとめ、文献レビューとしてまとめる。				

専門科目（統合実習）

授業科目名	統合実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	① 授業の目的及び目標 i : 学生個々人が卒業後に臨床現場にスムーズに適応し、自己の能力を十分に開発・発揮できることを目的とする。そのために自分の進路希望と合わせた実習分野を選択する。さらに、これまで学んできた看護実践から自己の看護実践課題を明らかにし、担当教員の指導を受けながら実習プログラムを立案し、看護実践の基礎を活かしながら、その応用までを総合的に学習することを目指す。 ii : 看護技術の到達度評価を行い、確かな実践力を養うことを目指す。 ② 実習形態は、分野に合わせて可能な限り下記の点を盛り込む i : 一勤務帯を通した実習 ii : 複数患者を受け持つ iii : 入院から退院、さらには地域で暮らすことを可能にするための生活の視点を取り込んだケアプランの立案・実践・評価 iv : 夜間帯における実習 v : 看護管理実習 (金井 一薫・金井 Pak 雅子・高橋 正子・前田 樹海・掛本 知里・梶原 祥子・川上 嘉明・河内 しのぶ・伊豆上 智子・高橋 雪子・林 さとみ・平田 美和・山本 かほる・相田 京子・北島 泰子・高島 有理子・中村 充浩)				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子 他	授業形態	演習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、看護研究を通して、看護実践におけるさまざまな現象を科学的に探求する力を養う。臨地実習において深めるテーマを選択し、各自の研究テーマについて指導教員のもとで、文献検索、方法、データ収集・分析、結果、考察について、一連の研究プロセスを踏みながら、研究の基礎能力を養う。特に、文献に関しては、できるだけ広範囲にわたり検索を行うとともに、それぞれの文献に対して批判的にレビューできることを目指す。 (金井 一薫・金井 Pak 雅子・高橋 正子・前田 樹海・掛本 知里・梶原 祥子・川上 嘉明・河内 しのぶ・山下 雅子・伊豆上 智子・林 さとみ・平田 美和・山本 かほる・北島 泰子・高島 有理子)				